

第七十三回帝國議會  
衆議院

# 商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第五回

付託議案  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)  
有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

## 會議

昭和十三年三月九日(水曜日)午前十時十七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事宮崎 一君 理事石坂 繁君

一松 定吉君 池田 清秋君

田村 秀吉君 原 玉重君

山本 条吉君 川副 隆君

江原 三郎君 金澤 正雄君

松本 弘君 森 榮藏君

永山 忠則君 佐竹 晴記君

田川大吉郎君

三月七日委員高橋泰雄君及木村作次郎君辭

任ニ付其ノ補闕トシテ牧野賤男君及紅露昭

君ヲ議長ニ於テ選定セリ

同月九日理事木村作次郎君ノ補闕トシテ紅

露昭君理事ニ當選セリ

出席政府委員左ノ如シ

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○野村委員長 是カラ開會ヲ致シマス、理

事木村作次郎君ハ委員ヲ辭任セラレマシタ  
ノデ、理事ノ補闕選舉ヲ行ハネバナリマセ  
ヌ、先例ニ依リマシテ委員長ニ於テ指名ス  
ルコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○野村委員長 御異議ナシト認メマス、ソ  
レデハ紅露昭君ニ御願致シマス——仲井間  
君

○仲井間委員 議事進行ニ付テ意見ヲ申上  
ゲタイト思ヒマス、此法案ハ五百條ニ餘ル  
而モ施行法竝ニ有限會社法案ヲ一括シマス  
ルト、隨分浩瀚ニ互ル法案デアリマシテ、

之ヲ從來ノ委員會ノ如クニ系統的ニ全部總  
括或ハ逐條審議ト云フコトニナリマス、  
却テ議事ノ進行上如何ト思ハレル所モアリ  
マス、殊ニ又委員ノ出席等ニ鑑ミマシテ、思  
ヒ付キ次第ノ質問ヲ致シマシテ尙ホ一應質  
問ヲナサレタ委員ノ方デモ後日思ヒ付キガ

アリマシタナラバ、二回モ三回モ質問ヲ繼  
續シテ行クヤウナ方法ヲ執リマシテ、尙又  
此法案ニ付テ順序ニ依ッテ質問ヲナサレテ  
モ、又前ニ逆戻リヲシテ再ビ聞く機會ヲ與  
ヘテ下サルヤウニシタ方ガ、却テ慎重審議  
ヲ爲スコトニ於テ適當ナリト考ヘルノデア  
リマス、ドウゾ左様ニ御計ヒヲ願ヒタイノ  
デアリマス

○野村委員長 今ノ中井間君ノ議事進行ニ  
對スル御意見ニ對シテハ、委員長ハ同意デ  
アリマス、是カラ御説ノヤウニ取計フコト  
ニ致マシス、今日ノ質疑申込順序ガアリマ  
スルケレドモ、其方ハ御出デニナッテ居リ  
マセヌカラ、中井間君カラ一ツ始メテ戴キ  
タウゴザイマス——中井間君

○中井間委員 此法案ヲ大體一讀致シス  
ルト云フト、私共ガ從來現行法ノ商法ニ於  
テ尙ホ會社ノ内部關係竝ニ對外關係ニ付テ、  
モウ少シ徹底シタル法案ヲ要求シテ居ッ  
タノデアリマスガ、此際吾々ノ普段期待シテ居  
ル大部分ノ法案ガ現ハレマシタコトニ付キ  
マシテ、政府ノ御努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表

スル者デアリマス、尙ホ併ナガラ大森政府  
委員ノ述べラレマシタ通りニ、今日ノ社會  
情勢ガ極メテ急速ニ而モ信用ヲ基礎トシテ、  
商取引ヲシナケレバナラヌ時代ニ段々ト進ミ  
ツ、アルノデアリマシテ、而モ從來ノ商法  
ノ會社ノ特許主義カラ免許主義ニ、免許主  
義カラ準則主義ニ進ミマシタル其社會情勢  
カラ見マシテモ、信用ヲ基礎トシテ、商取  
引ノ圓滿ヲ圖ラナケレバナラスノデアリマ  
スルコトハ、申ス迄モアリマセヌガ、其信  
用ヲ基礎トスルト云フコトニ付キマシテハ、  
ドウシテモ會社ノ内部或ハ外部トノ關係ニ  
付テ、社會ノ信賴ヲ濃厚ニナラシムル關係  
ヲ、私共ハ常ニ希求シテ居ッタノデアリマ  
スガ、此法案ニ段々之ニ對シテ、期待ニ副  
フヤウナコトガ出來マシタコトニ付キマシ  
テハ、吾々滿腔ノ贊意ヲ表スル者デアリマ  
ス、併ナガラ尙ホ以上此會社ノ基礎ノ堅實  
ナル爲ニハ、尙ホ進シタ法案ノ實現ガ欲シ  
カッタノデアリマスガ、之ニ付キマシテ、政  
府委員ノ方デハ漸進主義ヲ執リマシテ、貴  
族院邊リデモ修正ニ同意ヲサレタ節モアル

ノデアリマスカラ、尙ホ暫ク私共ハ政府ノ漸進主義ニ依リマシテ、將來其漸進主義デ徹底シナイト云フ場合ニ於キマシテハ、何卒此法案全體ノ改正ト云フコトハ中々困難デアリマスガ、逐條的ニデモ改正ヲ致シテ行クベキ機會ヲ一ツ自ラ御進メニナツテ、改正ノ時機ガアリマシタナラバ、其御取計ヒヲ願ヒタイト思ヒマス、是ハ何モ質疑ヲ爲ス意味デアリマセズデ、唯自分ノ希望ダケヲ申シテ置クノデアリマスガ、ソレニ付キマシテ、成ベク此委員會ニ於ケル質疑應答ニ付テ、時間ヲ節約スル爲ニ司法省ノ方カラ第七十回議會ノ貴衆兩院ニ於ケル改正法案ノ速記録ヲ借リマシテ、之ヲ通讀致シマシタ所ガ、色々質問ノ趣旨應答ニ付テ相當ニ了解ヲ爲スベキ點ガアリマシタケレドモ、成ベク重複ヲ避ケマシテ、此議事録ニ餘リニナカッタコトヲ質疑致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、先ヅ順序ヲ逐ヒマシテ、第一編カラ第二編ニ及ビタイト思フノデアリマスガ、第一編ノ第二章ノ商人ノ中ニ、第八條ノ小商人ト云フノデアリマスガ、是ハ曩ノ議會ニ於キマシテハ、小商人ノ範圍ニ付キマシテ色々希望ガアリ、質疑應答ガ行ハレタノデアリマスガ、今度ノ施行法ニ付キマシテハ、二千圓ニ足ラナイモノヲ小商人

トスルト云フヤウナ規定ガ見エテ居ルヤウデアリマスガ、此點ニ付キマシテハ、明治三十二年ニ現行法ガ出來マシタ際ニ、五百圓ト云フノガ小商人ノ限度ニナツテ居リマス、今日此五百圓ト二千圓ト比較致シマスト、明治三十二年當時ノ經濟情勢ト今日ノ經濟情勢、國民生活ノ程度カラ見マシテ、二千圓デハ餘リ低過ギルデハナイカト云フ感ヲ懷クノデアリマス、唯私ハ金額ガ五百圓カラ二千圓ニナツテ、四倍ニナツタト云フ點ノミデアリマセズ、殊ニ資本主義ノ發展ニ伴ヒマシテ、中小商業者ノ地位ト云フモノガ非常ニ脅カサレツ、アルノデアリマシテ、明治三十二年當時ノ五百圓ト今日ノ二千圓トハ、其資本ノ價值ニ於キマシテハ、或ハ四倍デアリマスカラ、相當ノ價格トスルモ、アノ當時五百圓ノ資本金ト今日ノ二千圓ノ資本金トガ社會ニ及ボス影響ハ、資本金ノ價值ト云フモノハ、唯金錢上ノ價值デナクシテ、大商主義デ經營サレテ居リマス今日ニ於キマシハ、中小商業者ヲ保護スベキ事情ガ、段々ト濃厚ニナツテ參リマシテ、ソレヲ保護シナケレバナラヌ事態ニ進ンデ參ッタノデアリマス、成ベク小商人ノ地位ヲ保護スルガ爲ニ、其八條ノ規定ヲ置イタモノトハ思ハレマセヌケレドモ、是ハ

成程他ノ對策ニ依ツテ此小商人ノ地位ヲ保護スベキ方法モアルノデアリマスケレドモ、又商法ニ於キマシテモ此社會情勢ヲ參酌サレマシテ、商業登記デアルトカ、商號及ビ商業帳簿ノ設備ト云フモノハ、相當ニ費用モ掛ルコトデアリマスシ、相當又煩雜ナ所モアリマスノデ、其點ヲ商法ノ中ニモ社會政策的ナモノノ意義ヲ加ヘマスルナラバ、唯單ニ資本金額ノ比例ト云フ以外ニ、尙ホ小商人ヲ保護スル意義ヲモ加ヘマシテ、三千圓位ニ之ヲ引上ゲタ方ガ、今日ノ社會ニ適スルデヤナイカ、斯ウ思フノデアリマスガ、其點ニ付テ如何ナル御所見ヲ持ッテ居ラレルカ、又此社會情勢ニ於テ小商人ノ範圍ヲ二千圓ニシテ、之ヲ以テ適當ナリト御考ニナツタノデアリマセウカ、三千圓デハドウデアリマスカ、四條トノ關係デアリマスガ、四條ノ第二項ニ「店舗其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スラ業トスル」云々トシテアリマスガ、此二千圓ノ小資本ヲ持ッテ居ル商人ガ、店舗其他之ニ類似スル設備ヲ爲シタ場合ニドシナモノデアルカ、或ハ此條文ノ配置カラ見マシテモ、店舗其他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲ス其者ノ中ニ、二千圓以下ノ商人ガ居リマシタナラバ、是ハ小商人トシテ取扱フ、斯

ウ云フ意味デアルカ、先ヅ豫メ其點カラ御伺シテ置キタイト思ヒマス  
○大森政府委員 只今ノ御陳述ノ劈頭ニ當リマシテ、私共立案ニ當リマシタ者ニ對シテ、洵ニ御懇切ナ御言葉ヲ戴キマシテ、其點ニ關シテ先以テ御禮ヲ申述べタイト存ズルノデアリマス、尙ホ此改正案ハ全般的改正デアリマスルケレドモ、前々回ニモ申述べマシタ通りニ、商人生活ハ日進月歩デアリマスカラ、假ニ今日はガ完璧ノモノデアルト致シマシテモ、果シテ明日明後日ニ完璧ノモノデアアルヤ否ヤト云フコトハ、私共ニモ豫測ハ固ヨリ出來ナイノデアリマス、デアリマスカラ左様ナ場合ニ必要ニ應ジマシテ、箇々ニ之ヲ改正シテ行クコトハ決シテ其勞ヲ惜ム者デハナイノデアリマス、御承知ノ司法省內ニ法規整理ノ事業モアリマスルカラ、將來此法案ガ不備缺陷ヲ生ズルト云フ場合ニハ、其度毎ニ其缺陷ヲ是シテ行クト云フコトハ、正ニ大ニ努力ヲシタイト存ズルノデアリマス、尙ホ小商人ノ問題デアリマスガ、之ヲ二千圓トシタノガ低キニ過ギハシナイカト云フ御尋デアリマシテ、寔ニ御尤ノヤウニ存ズルノデアリマス、私共モ之ヲ二千圓ニスベキカ、二千五百圓ニスベキカ、或ハ三千圓ニスベキカ、

實ハ大ニ迷ツタノデアリマス、然ルニ、御承知ノ通りニ一面ニ於テ只今御示シノヤウニ、小商人ヲ保護スル趣旨モアルノデアリマス、小商人ハ商業帳簿ヲ備ヘル必要ガナイ、又商號登記ヲスル必要モナイト云フコトニナツテ居ルノデアリマシテ、是等ノ點カラ見マスルト、小商人ヲ保護シタモノト言ッテ宜イノデアリマスルガ、他面ニ於キマシテ、商法ノ規定ノ適用ヲ排除セラレテ居ルノデアリマス、是ナドハ必シモ保護ト云フノデハナイヤウデアリマシテ、例ヘバ小商人ガ商號ヲ事實上持チマシテモ、是ガ商法上ノ商號ニナリ得ナイト云フヤウナ點モアルノデアリマス、デアリマスカラ是以上ニ引上ゲルト云フコトニナリマス、却テ其爲メ小商人ノ困ルコトモ生ズルデアラウト思フノデアリマス、ソレ等ノ點ヲ考慮致シマシテ、先ヅ今日ノ所二千圓程度ガ適當デハナイカト存ジタ次第デアリマス、併シ是亦將來二千圓ノ限度デハ低キニ過ギルト云フコトガ明ニナリマスナラバ、其際之ヲ高メルト云フコトニ於テ、決シテ吾々ハソレヲ避ケル者デハナイノデアリマス、要スルニ今日ノ所ニ於テ先ヅ二千圓程度ガ適當デハナイカ、斯様ニ存ジタ次第デアリマス、尙ホ第四條第二項トノ關係デアリマ

スガ、店舗其他類似スル設備デ物品ノ販賣ヲ爲ス者デアリマシテモ、資本金二千圓ニ滿タザル者ハ、ヤハリ小商人デアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○仲井間委員 只今ノ御説明デ四條第二項ノ方ハ能ク分リマシタ、所ガ小商人ト言ヒマスカ、其二千圓程度ニ於テ、私共ノ實際體驗シ、又見テ居ル所ニ依リマス、二千圓程度ノ商人ト申シマスルト、東京邊リデハ、商號ヲ附ケマシテ、商號ニ依ッテ自己ノ商賣ノ發展ヲ策シテ行クト云フコトハ、殆ド稀デアリマス、殊ニ又東京以外ノ田舎ニナリマス、商號ト云フヨリモ、其經營シテ居ル主人ヲ詰リ信用シテ行クノデアリマシテ、二千圓程度ニ於キマシテハ商號ナドヲ保護スルト云フヨリハ、却テ三千圓四千圓位ノ程度ノ商業ヲ營ンデ居ル、大方雜貨商デアリマスガ、サウ云フヤウナ人々ハ、此商號ノ保護ヲ受ケルト云フヨリモ、商業登記ヲ爲サナケレバナラス、商業帳簿ヲ作成シナケレバナラスト云フヤウナ、斯ウ云フ煩雜ナル仕事ニ從事スルト云フコトガ、一番面倒ノヤウニ見テ居ル、其點ハ尙ホ篤ト社會ノ事情ヲ能ク研究サレマシテ、今後ニ於キマシテ其對策ヲ講ジテ貰ヒタイト云フコトヲ、要求スル次第デアリマス、少シ

廻ルヤウデアリマスガ、第三條第二項デアリマス「當事者ノ一方ガ數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ本法ヲ其ノ全員ニ適用ス」ト云フ規定ガアリマス、是ハ從來ハ現行法ハ左様ニハナツテ居リマセヌ、例ヘバ一人ノ商行爲ニ對シテ一人ノ商人ガ金ヲ融通スル場合ニ、私共商人デナイ者ガソレニ連帶ヲシテ金ヲ借リル場合ニ於テ、現行法デハ數人ノ債務者ノ中デ一人ガ商人デアリ、残りハ商人デナイ、一人ガ商行爲ノ支配ヲ受ケマシテ、残りノ連帶債務者ガ商行爲ノ支配ヲ受ケナイト云フノガ現行法デアリマス、然ルニ此規定ニ依リマスルト、商行爲ニ關係ノナイ人マデモ商行爲ノ商法ノ適用ヲ受ケマシテ、單記事項ノ適用ヲ受ケルト云フヤウナ結果ニナルノデアリマス、成程其點ノミヲ見テ、之ヲ規定サレタノデナク、一般的ニ商法適用ヲ受ケシムル、迅速ナ取引ヲサセルト云フ趣旨デアアルカモ知レマセヌ、併ナガラサウ云フヤウナ區別ヲサレルヨリ、一人ノ商人デナイ、或ハ商行爲デナイ所ノ人マデモ單記事項ノ適用ヲ受ケシムルト、ドウ云フ實益ガアルノデアリマス、伺ヒタイト思ヒマス

○大森政府委員 只今御指摘ニナリマシタ

第三條第二項ノ問題デアリマス、成程是ハ現行法ニハナカッタ所デアリマシテ、新設ノ規定デアリマス、但シ現行法ノ解釋トシテス様ニ解スルノガ善イカ惡イカト云フコトニ付テハ、慥ニ問題ガアツタノデアリマス、思フニ現行法立案ノ當初ニ於テハ、當然ノ解釋トシテス様ニナルト云フ積リ立案サレタヤウニ存ズルノデアリマスルガ、其通リノ解釋ニハ參ラナカッタノデアリマス、少クトモ之ニ反スル判例モアツタノデアリマス、デアリマスカラ此際其解釋ヲ明確ニスルト云フ趣旨ニ於キマシテ、此規定ヲ設ケタノデアリマシテ、別ニ之ヲ以テ現行法ヲ大ニ改メルト云フ積リデハナカッタノデアリマス、現行法本來ノ趣旨ガ解釋上亂レテ居ルノヲ、之ヲ以テ明確ニスルト云フ積リデアリマシタ、詰リ一面ニ於テ商行爲デアリマスルナラバ、是ハ商行爲トシテ貰イテ行ッタ方ガ宜イト云フ考デアリマス、法律關係ノ明確ヲ期スル、商事ノ敏速的確ナル解決ヲ期スル爲ニ、ヤハリス様ニシナケレバナラナイト考ヘタ次第デアリマス、尙ホ商事事項ノ點ニ付キマシテハ、御説明ノ通りニ問題ガアルノデアリマシテ、之ヲ五年ニスルトガ善イカ、惡イカハ確カニ考慮ノ餘地ガアルノデアリマス、デアリマスカラ是ハ商行爲編ノ改正ニ當リマシテ、

商行爲ニ關スル事項ヲ、現行ノ儘存置スベキカ、或ハ何等カ之ヲ變更スベキカト云フコトヲ、調査決定ヲ致シタイト存ジテ居ル次第デアリマス

○仲井間委員 只今ノ御説明ハ從來ノ學說ニ付テ色々議論ガアツタノデアリマス、ソレヲ明確ニシタ規定デアルト仰セラレテ居リマス、此規定ハ兎ニ角ト致シマシテ、又從來ノ議論ガアツタト云フコトモ是ハ別ノ問題ト致シマシテ、一人ニ對スル商行爲ガ、商行爲ト關係ノナイ、又商人デモナイ者ニ商法ノ適用ヲ及ボスト云フコトハ、商事取引ト云フ方面カラ見ルナラバ、是ハ結構デアリマセウ、商事取引本位ト云フヤウナ方面カラ見ルナラバ適當デアリマセウケレドモ、併ナガラ社會一般ハ商事取引ヲ本旨トスルト云フノミデナク、民事方面カラモ相當ニソレヲ見テ行カナケレバナラヌ事情モアルノデアリマス、ソレハ私共辯護士ガ多年ノ商行爲ニ關聯シマス、私共ノ行爲マデモ商法ノ規定ニ依ル商行爲ノ掣肘ヲ受ケルト云フヤウナコトハ、如何ニモ酷ナヤウナ感じヲ受ケル、ソレハ感情デアルカモ知レマセヌガ、サウ云フ氣ガ致シマス、マダ其研究ハ私未熟デアリマスケレドモ、サウ感ジマスノデ、其點ヲ尙ホ研究ノ上ニ、後

日又意見ヲ申上ゲルコトニ致シマス、今度ハ十二條ヲ御伺致シマス……

○一松委員 議事進行ニ關シテ——實ハ私共ハ先般申上ゲテ置キマシタノハ、審議ノ仕方デアリマスガ、例ヘバ第一編ノ總則カラ説明ヲ始ムルト致シマスナラバ、政府委員ノ方カラ第一編總則ノ中ノ第一章ノ法例ニ付テ大體ノ説明ヲ承ル、而シテ私共ハ其承ツタ御趣旨ニ基イテ法例ノ範圍内ニ於テ質問ヲスル、ソレカラ第二章商人ニ付テ政府ノ方カラ逐條的ニ御説明ヲ承ツテ、其御説明ニ基イテ第二章商人ニ付テノ質疑ヲスル、斯ウ云フヤウニシテ行ケバ、順序ガ非常ニ能ク立ッテ、サウシテ後戻リヲシタリ、先ニ走ツタリ、或ハ不秩序ニ速記録ガ出來タリセズシテ非常ニ都合ガ好ク、而シテ議事ノ促進ノ方法モ、是ガ一番宜シイト云フコトヲ考ヘマシテ、昨年ノ商法改正委員會ノ當時ニハ大森局長ヲ煩ハシマシテ、サウ云フ趣旨ニ進ミマシタ爲ニ、局長ノ御説明ニハ餘程御骨ガ折レタヤウデアリマスガ、質疑ノ範圍ガ明確ニナリマシテ、モウ政府委員ノ御説明ヲ聽イテ、疑問ヲ持ッテ居タモノガ、ソコニ解消スルト云フヤウナコトデ、非常ニ促進ガ出來タノデアリマス、故ニサウ云フ意味ニ於テ今回モ御審議ヲ願ヒタイト思

ヒマシテ、前回ノ時ニ私共ニ非公式ニ其事ヲ政府ノ方ニ申上ゲタノデアリマスルガ、政府當局ニ於カレマシテモ、ソレハ非常ニ結構ダト云フコトデ、實ハ本日ハサウ云フ趣旨デ御審議ヲ始メラレルモノト思ウテ出席ヲ致シタノデアリマス、所ガサウ云フ方針デナクテ、唯、初カラ總則ニ付テ議員ノ方カラ、ドン／＼質問ヲスル、政府ハソレニ付テ御答ヲスルト云フコトデアリマスルト、政府ノ御説明ヲ聽ケバモウ質問シナクテモ宜イヤウナコトヲ、吾々ガ質問ヲ重ネルト云フコトニナリマス、餘程議事ノ進行ガ遅レルバカリデアリマセヌシ、系統的ニ委員ノ頭ニモ能ク打込マレマセヌノデ、私共ハ今私ガ申上ゲマシタ趣旨ニ於テ御審議ヲ御願致シタイトデアリマス、成程第三回ノ委員會ノ時ニ、大森局長カラ此法律案理由書ニ基キマシテ、總則ニ關スルモノ、會社全部ニ關スルモノ、合名會社、合資會社ニ關スルモノ、株式會社ニ關スルモノト云フコトデ、項目ヲ分ケテ大體ノ御説明ヲ承リマシタ、併ナガラ逐條的ニ之ヲ御説明ヲシテ下サツタノデハアリマセヌノデ、新法ト舊法ト比較シテ見マスルト、新ニ設ケタモノガアリ、舊法ヲ制限シタモノガアリ、而シテサウ云フヤウナ巨細ノ點ニ至リマシテ

ハ、先日ノ大森局長ノ御説明デハ、マダ十分足りナイ點ガ多イノデアリマスカラ、私共ノ希望ト致シマシテハ、逐條的ニ局長カラ一應御説明ヲシテ戴イテ、其御説明ニ基イテ其範圍ニ限ッテ質問ヲスルト云フコトニスレバ、審議モ非常ニ早クナリマスシ、系統的ニ頭ニモ入リマスシ、大變都合ガ好イト思フノデアリマスカラ、他ノ諸君ニ於テ御異存ガアリマセヌナラバ、サウ云フヤウニシテ戴イタラ結構ダト思フノデアリマス

○野村委員長 一寸速記ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○野村委員長 是ヨリ審議ノ方法ニ付テハ修正サレタル各條ニ付キ、竝ニ修正サレナクトモ修正ト牽聯ヲ持ツ條項ニ付キ、政府ヨリ一應説明ヲ承リ、進行スルコトニ致シマス、今ノ申合セ通りニ致シマシタ方ガ最も正確デ、却テ議事ガ進行スルヤウニ考ヘラレマス、ソレデハ第一編總則、第一章法例、是カラドウカ政府ニ於テ逐次改正竝ニ改正サレタ場所ト、改正サレナクトモソレニ牽聯ヲ持ッテ居ル條項ニ付テ、一應説明ヲ願ヒタウゴザイマス

○大森政府委員 御指示ニ依リマシテ一應ノ御説明ヲ申上ゲタイト存ズルノデアリマス、其前ニ御諒承ヲ願ッテ置キタイトハ、

此改正案ノ中ニ、現行法ヲ其儘存置致シマシタモノモ多クアルノデアリマス、現行法ノ内容ヲ其儘存置致シマシタケレドモ、法典ノ文字ノ記載例ニ依リマシテ記載ヲ變ヘタモノモアルノデアリマス、御承知ノ通りニ現行規定ハ明治三十年代ノ立案デアリマシテ、近頃ノ法文ノ書キ方トハ大分變ツタ點ガアルノデアリマス、デアリマスルカラ、今回ノ改正ニ當リマシテ左様ナ點ヲ成ベク現在ノ書キ方ニ改メルト云フコトニ致シマシタ、ソレガ爲ニ文字ガ變ツテ居リマスルケレドモ、内容ニ少シモ變更ノナイト云フ部分モアルノデアリマス、譬ヘテ申シマスルト、第三條ノ第一項デアリマス、現行規定ニ依リマス「本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス」トアツタノデアリマスルガ、此案デハ「本法ヲ雙方ニ適用ス」ト致シマシタ、即チ「ノ規定」ト云フ文字ヲ削除シタノデアリマス、御承知ノ通り近頃ノ法文ノ書キ方デ參リマス、他ノ法文ヲ引用シマスル場合ニ、其ノ條文ヲ舉ゲマシタ場合、又ハ其箇所ヲ舉ゲマシタ場合ニハ「規定」ト云フ文字ヲ使ヒマス、即チ例ヘバ民法第何條ノ規定トカ、或ハ委任ニ關スル民法ノ規定ト云フコトニ致シマスルケレドモ、全般的ニ之ヲ引用シマスル場合ニハ「規定」ト云フ文字ヲ抜キマシテ、民法ヲ

適用スト、斯様ニ變ヘテ居リマス、毫毛理窟ノナイコトデアリマスルケレドモ、唯其用例ニ從ツテ之ヲ變更シタノデアリマス、又濁音ノ假名ニ付キマシテハ、現行法ニハ濁點ヲ附シテ居リマセヌケレドモ、近頃ハソレヲ附シテ居リマスルカラ、此案デモ濁音ヲ附スルコトニ致シマシタ、左様ナ機械的ト申シマスルカ、文字ノ用例トシテノ變更ノ點ニ付テハ、説明ヲ省略スルト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、尙ホ此改正案ハ御覽ノ通りニ、非常ニ多岐ニ互ツテ居リマスルカラ、決シテ漏ラサナイ積リデハアリマスルケレドモ、説明ノ際ニ私共申上グベキコトヲ申漏ラスコトモアラウカト思ヒマス、左様ナ場合ニハ御指摘ニ依リマシテ説明ヲ補充致シテ行キタイト存ジマスカラ、豫メソレ等ノ點ハ御諒承ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス

第一編第一章ニ付テ改メマシタノハ、第三條ニ第二項ヲ加ヘタ點ダケデアリマス、是ハ只今モ問題ニナリマシタガ、私共ノ考ト致シマシテハ、一ツノ行爲ガ一面ニ於テ商行爲性質ヲ帶ビルナラバ、是ハ全面的ニ商行爲ノ規定ヲ適用スベキガ適當デアル、即チ商法ガ商行爲ト云フ一種ノ特殊ノ行爲ニ付テ特殊ノ效力ヲ附シタノデアアルカラ、商行爲的色彩ヲ持ツモノナラバ、總テ商行爲ノ規定ニモ準ズベキモノデアルトスルノガ、適當デアルト云フ考デアリマス、現行法ノ下ニ於テモ私共ハ解釋トシテハ、此第三條第二項ノ通りニ相成ルベキモノト信ジテ居リマスルケレドモ、此考ニ反スルヤウナ判例モアリマスルシ、學說モアリマスルカラ、ソレヲ明確ニ致シマスルガ爲ニ特ニ此第二項ヲ設ケタ次第デアリマス、法例ハ御承知ノ通りニ極メテ概括的ノ部分デアリマシテ、ソレ以外ニ改正ヲ施ス必要ハナイト存ジタ次第デアリマス

○野村委員長 第一章法例ニ付テ御質疑ハアリマセスカ

○佐竹委員 私ハ條文ニ付テノ疑問デハゴザイマセヌガ、總般的ノコトデゴザイマスノデ此際一言承ツテ置キタイト考ヘマス、私共所謂法律家ガ一應法律ヲ學ンデ、大體法律ト云フモノガ分ツタ氣持デ居リマシタ所、議會ヘ出テ參リマススト云フト、全ク其氣持ガ、何ト申シマスカ、偏狹ナ考デアッタト云ツヤウナ氣持ガサレマス、法律ヲ作ル議會ニ出テ參リマシテ、實際所謂私共法律家ノ平素直接ニ關係ノアリマス法律ト云フモノハ、議會ニ於テハ殆ド新設或ハ改正案等ガ現レテ參リマセヌ、司法省ヨリ提出致シマス法律案ト云フモノハ、極メテ僅少デゴザイマシテ、其多クハ或ハ商工省デアルトカ、或ハ鐵道省デアルトカ、或ハ遞信省デアルトカ、或ハ内閣カラ出ストカ云ツタ工合デアリマス、サウシテ問題ノ中心ニナル社會ニヤンヤト言ハレル大問題ハ、殆ド其大部分ガ所謂法律家ガ法律トシテ專攻致シマシタモノデナイ、他ノ法律ニ關スルコトデゴザイマス、而シテ其出テ參リマス法律ガ、實際ノ社會狀態ヲ支配致シテ居リマス、現ニ吾々ガ常ニ審議致シテ居リマス有ユル經濟統制ニ關スル法律、例ヘバ重要肥業統制法、或ハ重要産業ノ統制法トカ、其他鐵ニ致シマシテモ綿絲ニ致シマシテモ、或ハ麥酒ニ致シマシテモ、斯ウシタ實際ノ社會ノ經濟狀態ヲ支配致シテ居リマス關係ニ付テハ、殆ド司法省關係ニ於ケル法律ハ、何等關係ナキカノ如キ狀態ニアリマス、所ガ私共考ヘマス所ニ依レバ、所謂商法ト題シマシテ茲ニ規定致シテ居リマス其規定ノ中ニモ、サウシタ現實ノ社會情勢ト云フモノヲ十分吞込ミ、ソレヲ織入レ、之ヲ酌取ツテ、其社會情勢ニ適應スル法律デナケレバナラスト考ヘマス、只今局長ノ御説明ニ依リマシテモ、隨分昔ニ作ラレタ商法デアッデ、其用語等ニ付テモ適正ヲ缺クモノガアッテ、之

ヲ訂正ラシタト云フコトガ只今ノ御説明ニ依ツテ明ニサレテ居リマス、文字ノ上ニ於テモ左様デアリマスヤウニ、實際ノ經濟狀態ノ變テ參リマス其狀態ハ、中々ソナモノデハゴザイマセヌ、殆ど今日ノ經濟狀態ト云フモノハ、昔ノソレトハスツカリ變テシマツテ居リマシテ、今ヤ全ク經濟統制ノ時代ト言ツテモ差支ナイト思フ、此經濟統制下ニ於ケル商取引ニ付テハ、此社會情勢ヲ織入レタ所ノ其規定ガ、各所ニ於テ必要デアルト私共ハ思ハザルヲ得ナイノデアリマス、茲ニ一例ヲ以テ御尋致シマスナラバ、例ヘバ綿絲ニ付テ最高標準價格ニ關スル商工省ノ運用方針ハ最後ノ消費者ニ供給スル價格ハ、中間商人ガドレダケアリマセウトモ、生産者ガ市場ニ供給スル價格ノ最高限度ニ百分ノ二ヲ加ヘタルモノヲ超過スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、所ガ實際取引サレテ居リマス商行爲ハ、全ク之ニ背イテ居リマシテ、協定ニ悖リ商工省ノ方針ヲ案リマシテ、所謂闇取引ト云フモノガドン／＼行ハレテ居ル、ドンナ風ニ行ハレテ居ルカト云ヘバ、例ヘバ最高價格二百三十圓デアルト假定ヲ致シマスルト、甲ハ乙ニ之ヲ二百五十圓デ賣リタイト云フ時ニ、先ツ甲ハ乙ニ二百三十圓デ賣ル、サウ

スルト今度ハ乙カラ甲ニ二百十圓デ損ヲシテ賣戻ス、而シテ甲カラ乙ニ二百三十圓デ賣渡ス、スルト結局二百五十圓デ之ヲ賣渡シタト云フ結果ニ相成ルノデゴザイマス、斯ウシタ闇取引ニ依ツテ當局ノ方針、統制乃至協定モ蹂躪サレテシマヒマシテ、正ニ所謂百鬼夜行ノ狀態デアリマス、商取引ヲ取締リ、正當ナラシムベキ相當ノ規定ガ私共ハ必要デアルト思フ、是ニ於キマシテ斯ウシタ現代ノ社會情勢ニ於キマシテ、其現代ノ社會情勢ニ適應スル現代ノ商行爲ヲ適當ニ取締リ、而シテ其行爲ノ基準、規範ヲ示シ、其時代ニ副フ所ノ商法ト云フモノガ私ハ生レナケレバナラナイト思フ、私共法律家ガ一應法律ヲ學ンデ、ヤレ商法ヲ知ツテ居ルト云フヤウナ氣持デ出テ參リマス、實際ノ商行爲ト云フモノハ殆ど司法省カラ提案サレズシテ、他ノ特別法ニ依ツテ是ガ支配サレテ居ル、所ガ特別法ガ特ニ出テ參リマスナラバ、ソレデモ宜シウゴザイマスケレドモ、特別法ハ所謂特別法デアツテ、麥酒ハ麥酒ノミニ關シマス、鐵ハ鐵ノミニ關シマス、故ニ是等特別ニ關係シナイデ、他ノ一般的ニ之ヲ支配スル一ツノ基準、規範ト云フモノガ必要デハアルマイカ、斯ウ云フ點ニ付テハ少クトモ、商店ノ商行爲ナリ、其他適當ナル箇所

ヲ適當ナル基準規範ヲ示シテ、而シテ現在ノ社會情勢ニ適應スル法律ノ進化ト云フコトヲ考ヘル必要ガアルノデハナカラウカ、ト思フノデアリマス、然ルニ今此改正案ヲ拜見致シマシテモ、何等斯ウシタコトニ付テ御配慮ガナイヤウデゴザイマス、一體只今私ノ申上ゲマスヤウナ事項ハ、商法ノ規定中ニ之ヲ規定スベキ筋合ノモノデナイト仰シヤルノデゴザイマセウカ、又其規定ハ不可能デアルト仰シヤルノデゴザイマセウカ、先ヅ此點ニ付テ承リタイト存ジマス

○大森政府委員 只今ノ御質問ノ御趣旨ハ、先ヅ近頃ノ立法ノ情勢ヲ見ルノニ、特別法ガ盛ニ出テ居ルガ、之ニ反シテ一般的法律生活ヲ規律スル一般的ノ法規ノ改正ガ、其ダ等閑ニ付サレテ居ハシナイカト云フコト、及ビ司法省ノ法典トシテ、立案調査ラスルニ當ツテ、實情ヲ閑却シテ居ル處ガアリ、更ニ商行爲ニ付テ只今御指摘ニナツタヤウナコトニ付テ、特段ノ考慮ヲ加ヘル意思アリヤナシヤ、斯ウ云フ諸點ノヤウニ拜察シタノデアリマス、其第一點ニ付キマシテ、一般的法律生活ヲ規律スベキ所謂一般法ノ改正ニ付テ、吾々ガ遲レテ居ルト云フコトニ付テノ御非難ハ、洵ニ慚愧ニ堪ヘナイノデアリマス、御承知ノ通りニ只今提

案ヲ致シテ居リマスル商法ノ改正案ハ、第一篇ノ總則ト第二篇ノ會社篇トデゴザイマスガ、是モ今日之ヲ提出スルト云フコトハ甚シク遲キニ失シタ嫌ガアルノデアリマス、遲延ノ罪ニ付テハ私共ハ洵ニ申譯ガナイト存ジテ居リマス、唯決シテ辯解トシテ申上ゲル譯デハナイノデアリマスケレドモ、法典ノ全般的改正ニナリマス、牽聯事項ガ洵ニ多イノデアリマシテ、之ヲ急速ニ解決スルト云フコトニ、甚シク困難ヲ感ズルノデアリマス、デアリマスカラ一面ニ法典ノ全般的改正ト云フコトヲ忽セシナイト同時ニ、法規整理ト云フコトヲ司法省デ始メマシテ、法典ノ箇々ノ條文ニ付テ不備缺陷ガアルナラバ、全般的改正ヲ俟タズシテ、其都度改正ラシテ行クト云フ事業ヲ實ハ始めマシテ、是ト兩々相俟ツテ御希望ニ副フヤウニ努力致シタイト存ジテ居リマス、司法省ト致シマシテ、一般法規ニ今手ヲ染メテ居リマスモノハ、民法ノ親族相續、所謂人事篇ノ改正デアリマス、ソレカラ強制執行法全般ノ改正デアリマス、次ニ信託法制全般ノ問題、破産、和議ノ全般的ノ問題、ソレ等ニ今著手ラシテ居リマスケレドモ、是等ノ重要法典ハ、商法ト同時ニ提出スルト云フコトハ極メテ困難デアリマス、左様ナ

關係デ延ビノニナッテ居ルノデアリマシ  
テ、此點ニ付テハ先程申上ゲマシタ通りニ、  
洵ニ汗顔ニ存ジテ居ル次第デアリマス、併  
シ一般法規ニ付テ法規整備ノ事業ナリ、又  
全般的ノ事業ナリ、吾々ト致シマシテ八十  
分ノ努力ヲ捧ゲタイト存ジテ居リマス、次  
ニ第二點デアリマスルガ、此商法改正案ノ  
立案ニ付キマシテ、實情ヲ顧慮シタカドウ  
カト云フ點デアリマス、實情ヲ顧慮シタ點  
ガ足りナイト言ハレ、バ、是ハ致方ガゴザ  
イマセスケレドモ、私共トシテハ十分ニ出

ト存ズルノデアリマス、併シ御指摘ニナリ  
マシタヤウナ商行爲一般トシテノ問題ハ、  
確ニ大ニ傾聴スベキ問題デアリマシテ、此  
改正案ニ於キマシテハ、商行爲編ニハ手ヲ  
染メテ居リマセヌ、併シ商行爲編ハ近ク其  
改正ニ著手スル積リデアリマスカラ、御指  
摘ノ點ハ十分參考ニ致シタイト存ジテ居ル  
ノデアリマス、御答ガ漏レタ點モアリマセ  
ウガ、左様ナ點ハ更ニ御指摘ニ依ッテ、補足  
ヲ致シタイト存ジマス

來ル限リノ考慮ヲ、此點ニ拂ッテ積リデアリ  
マス、司法省內ニ於ケル此立案ノ調査會ニ  
於キマシテモ、其前身トモ申スベキ内閣ニ  
於ケル法制審議會ニ於キマシテモ、此法案  
ニ關スル限リニ於テハ、實業界、實際會ノ  
意見ヲ十分ニ徵シタ積リデアリマス、是ハ  
固ヨリ當然ノコトデアリマスケレドモ、私共ガ  
從來關係ヲ致シマシタ法典ノ立案調査ニ當リ  
マシテ、此位實際界ノ意見ヲ徵シタモノハナイ  
ノデアリマス、ソレカラ第三ノ特別法ノ問題デ  
アリマスルガ、特別法ハ固ヨリ特別ノ必要ニ應  
ジマシテ、一般法規ニ變更ヲ加ヘルモノデ  
アリマセウ、特別法デ種々規定ガ出來マス  
ルト同時ニ、一般法ニソレト同様ニ變更ヲ  
加ヘルコトハ、是ハ大ニ考慮ヲ要スルコト

○佐竹委員 今回ノ改正ガ商行爲ニ及ンデ  
居リマセヌ爲ニ、實ハ突キ進ンデ私ノ色々  
考慮致シテ居ル點ニ付テ、御質問ヲ申上ゲ  
ルコトノ適正ヲ缺クモノアルコトヲ考ヘマ  
シテ、只今ノ御説明ニ依ルト、早晚商行爲  
ニ付テモ改正ヲセラレルト云フコトデアリ  
マスカラ、其際ニ於テ十分御考慮ヲ願フト  
云フ點ニ於キマシテ、私共ハ先ヅ満足ヲ致  
ス次第デアリマス、唯商行爲ニ付テハ申上  
ゲル迄モナク、現行法ノ二百六十四條ニ商  
行爲ハ是々デアルトシテ、ソレニ付テ電氣、  
瓦斯、運送、作業、出版、印刷、其他色々  
ナモノガ規定シテアリマス、サウシテ是等  
ノ行爲ノ基準規範ト云フモノガ、更ニズツ  
竝ベラレテ居リマス、私共ハ此商行爲等ニ  
付テモ、茲ニ列舉致シテ居リマスモノダケ

デハ、到底是ハ現在ノ社會情勢ヲ十分ニ引  
括メテ居ルトハ考ヘマセヌ、ノミナラズ極メ  
テ一例デ、ホンノ一部分ヲ指摘シタニ過ギ  
ナイト思ヒマス、只今申上ゲマシタヤウナ  
工合ニ、實際當局ガ方針ヲ立テ、或ハ協定  
ヲ爲シ、或ハ法律ヲ設ケマシテモ、ドウモ  
其裏ヲ搔イテ十分ニ其趣旨ガ徹底サレ、  
特ニ特別法ガ出來マスケレドモ、此特別法  
ニ依ッテ統制ヲシヨウト云フコトガ逆用セ  
ラレマスノミナラズ、或ハ其他ノ脫法行爲  
等ニ依リマシテ、全ク之ヲ無ニスルノミナ  
ラズ、逆ニ弊害ヲ醸スヤウナ實例ハ、多々  
アルノデゴザイマス、例ヘバ製鐵等ニ付テ  
モ、ア、云フ統制ヲ致シマシタ爲ニ、鐵ノ  
價格ヲ安クシヨウト思ヘバ、却テ逆ニ商人  
ガ色々ノ策動ヲシテ高クナリ、國家ノ爲ニ  
不利ヲ及ボシ、國民生活ノ安定ヲ紊ルト云ッ  
タヤウナ事態モ出テ居リマス、ドウモ特別  
法ト云フモノハ、洵ニ特別ノ事項ニ限ッテ出  
テ參リマシテ、之ニ由ッテ適切ニ取締ガ出  
來ルカト思ヘバ、割合ニサウデハアリマセ  
ヌ、却テ之ヲ一般的ニ國民ノ規範基準トシ  
テ一般法ニ依ッテ致シマスナラバ、法律家モ  
其事ヲ常ニ頭ノ中ニ入レテ置き、裁判所等  
ニ於キマシテモ、常ニ其適用ノ適正ヲ期ス  
ルコトニ誤リナキヲ期スルノデアリマセウ、

所ガ特別法ニ付テハ、只今劈頭ニ告白致シ  
マシタヤウニ、私共ハ法律家デアッテ、何デ  
モ法律ハ知ッテ居ルヤウナ顔ヲシテ此議會  
ニ出テ參リマスルガ、出テ來ルト一向ドウ  
モ法律ハ知ラスト云ツタヤウナ感ジラ深ウ  
致シマス、所ガ一般法中ニ或ル程度ノ規範  
ガ示サレマスルト、是ハ吾々ノ範圍デア  
ト云ツタヤウナ氣持ニナリマスルノデ、在野  
法曹モ在朝ノ方々モ、常ニサウ云フ方面ニ迄  
立入ッテ支配シ、取締リヲシ、適正ナ法ノ運  
用ヲ期スルコトニ依ッテ、社會ノ秩序ヲ十分  
保持シ、且ツ國民ノ利益ヲ十分ニ保持シ、  
増進スルコトニ努メル結果ニナルデハナ  
イカ、私ハ斯様ニ考ヘマス、或ハ特別法ガ  
出來テ、ソレニ依ッテ保護サレル事項ニ付  
テハ、十分手ガ行届クデハアリマセウケ  
レドモ、私共ハソレノミニ信賴シテ居ル譯  
ニハ參リマセヌ、尙ホ一般的ニ商行爲全般  
ヲ通ズル一ツノ原則ヲ立テラレマシテ、商  
行爲編ノ改正ニ當ッテ十分ソレ等ノ點ニ付  
テモ御留意戴キタイト云フコトヲ、切ニ御  
願申上ゲマシテ、此點ニ付テハ私ノ質問ヲ  
終リマス

○野村委員長 サウシマスレバ、今度ハ第  
二章ノ商人ニ移リマス、政府カラ第二章ニ  
付テ改正サレタ點、竝ニ牽聯事項ニ付テ御

説明ヲ承リマス

○大森政府委員 第二章改正ヲ加ヘマシタ先ヅ最初ノ點ハ、第四條ニ第二項ヲ新設シタ點デアリマス、第四條ノ第一項ハ、御承知ノ通り現行法通りデアリマシテ、商人ハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスルモノデアルト云フ原則ハ、此案ニ於テモ維持シテ居ルノデアリマス、唯現行法ニ足リナイト思ヒマシタ點ヲ第二項ニ補充シタノデアリマシテ、詰リ商行爲トシテ列舉サレテ居ル仕事ハシテ居リマセヌケレドモ、店トカ店ニ類似スル設備ヲ持ッテ物ノ販賣ヲシテ居ル者ガアル、斯ウ云フモノハ假令ソレガ商行爲ニ該當シナイデモ、之ヲ商人トシテ取扱フコトガ、正當デハナイカト思フノデアリマス、譬ヘテ申シマスルト、農作物ヲ賣ルコトハ商行爲ニハ入ッテ居リマセヌケレドモ、農作物ヲ作ル人自身ガ店ヲ開イテ賣リマスルナラバ、ヤハリ農作物ヲ他カラ買ッテ轉賣スル商人ト、何等擇ブ所ガナイノデアリマスルカラ、之ヲモ商人ノ列ニ加ヘタ方ガ宜クハナイカ、鑛業、砂鑛業ニ付テモ同様デアリマス、是ハヤハリ商行爲ニハ入ッテ居リマセヌケレドモ、之ヲ商人トシテ取扱フコトガ固ヨリ適當デアラウト存ズルノデアリマス、ソレカラ第五十二條第二

項トシテ援用サレテ居リマスルノハ、御承知ノ所謂民事會社デアリマス、商行爲ヲ爲スコトヲ業トシナイケレドモ、併シ營利ヲ目的トスル社團法人デアリマシテ、譬ヘテ申シマスルト、牧畜業ヲ營ム會社、ソレカラ農業ヲ營ム會社ト云フヤウナモノデゴザイマス、是等ハ商行爲ノ列舉中ニ入ッテ居リマセヌカラ、直グ其儘デハ商人ニナリ會社ニナルト云フコトハアリマセヌケレドモ、是ハ餘リニ機械的ナ所謂法律的ニ墮シタコトデアリ、實際上ノ見地ニ於テ之ヲ商人トシ又之ヲ會社トスルト云フコトハ固ヨリ適當デアラウト存ジタ次第デアリマス、次ニ第六條デアリマスガ、是ハ左程變更ト云フ程ノモノデハアリマセヌガ、現行法ノ文字ヲ更ニ明確ニシタノデアリマス、詰リ「會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ社員タル資格ニ基ク行爲ニ關シテハ之ヲ能力者ト看做ス」現行法モヤハリ是ト同ジ趣旨デアッタノデアリマセウケレドモ、廣ク之ヲ能力者ト看做スト書イテアリマセヌガ爲ニ、其能力者ト看做サレル範圍ニ付テ兎角從來疑ヲ生ジタノデアリマス、併シ其趣旨タルヤ社員タル資格ニ基イテヤリマシタ行爲ニ付テダケデナケレバナナイコトハ明カデアリマスカラ、

之ヲ明確ニシタノガ第六條ノ改正デアリマス、第八條ハ先程モ御話ニナリマシタ小商人ノ問題デアリマシテ、御承知ノ現行法ノ第八條ノ小商人ノ規定ハ、稍々不明ナ點ガアッタノデアリマス、「戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其ノ他小商人ニハ」云々トナッテ居リマス、「戸戸ニ就キ」云々ト云フノハ例示的ノ文句デアルカ或ハ制限的ノ文句デアルカト云フヤウナコトニ付テ、從來解釋上ノ爭ガアッタノデアリマス、併シ固ヨリ此趣旨ハ、此第八條ニ於キマシテハ小商人ニ對スル商法ノ態度、言換ヘマズレバ商法ハ小商人ヲ如何ニ取扱フカト云フコトヲ規定シタニ止マルノデアリマシテ、小商人ノ意義ナリ範圍ナリハ、施行法ヲ以チマシテ勅令ガ之ヲ定メテ居ッタノデアリマス、デアリマスルカラ此第八條ニ付キマシテハ、其趣旨ヲ更ニ明確ニ致シマスルガ爲ニ、小商人ニ對スル商法ノ態度、商法ノ取扱ト云フモノダケヲ茲ニ規定致シマシテ、小商人ノ意義、範圍ハ之ヲ施行法ニ讓リマシテ、此點ニ付テ昨年當委員會ニ於テ色々御意見ガアリマシテ、多數ノ御意向ト致シマシテハ、施行法カラ更ニ勅令ニ讓ルト云フヤウナ煩瑣ナコトヲ繰返サナイデ施行法自身ニ法律トシテ明確ニシテシマッタ方ガ宜

イト、斯ウ云フ御意向デアリマシタ、其御意向ニ基キマシテ、本案デハ施行法案ノ中ニ第三條トシテ二千圓ト云フ限度ヲ明確ニ致シマシテ、之ヲ更ニ勅令ニ讓ルト云フ煩瑣ヲ避ケマシタ、尙ホ二千圓ト云フ限度ノ問題ニ付テハ、先程御意見モアッタノデアリマシテ、二千圓ガ果シテ是デアルカ或ハ三千圓、五千圓ニスルコトガ宜クハナイカト云フコトモ、考ヘ得ルノデアリマス、程度ノ問題デアリマスルカラ、私共モ決シテ此二千圓ノ限度ヲ以テ、固執スル者デハアリマセヌケレドモ、在來ノ御承知ノ五百圓ノ限度ト云フモノガ、明治三十二年ニ決ッテ居ッタノデアリマス、サウシテ此五百圓ガ低キニ失スルカ否ヤト云フコトハ、實際上ノ問題トシテハ先ヅ起ツタコトガナイヤウニ存ジテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ色々要求ハアッタノデアリマセウ、希望ハアッタデアリマセウケレドモ、此五百圓ヲ千圓ニシ二千圓ニシナケレバナラスト云フ法律上ノ改正ヲ要望スルト云フ程ノ問題ハ、是マデナカッタノデアリマス、デアリマスルカラ、實ハ此限度ト云フモノハ、左程甚シク重キヲ置カナクテモ宜イ問題デヤナイカト思ッテ居ッタノデアリマス、併シ之ヲ改正スルニ當リマシテ、明治三十二年當時ノ五百圓ノ限



度ヲ墨守スルト云フコトノ甚ダ不當デアルコトハ、申上ゲル迄モナイノデアリマシテ、昨年ノ此委員會ニ於キマシテモ、或ハ千五百圓、或ハ二千圓、或ハ二千五百圓ト云フヤウナ問題モアリマシタ、ソレ等ヲ考慮致シマシテ、先ヅ今日ノ所一應二千圓ニシテ置キマシテ、更ニ今後ノ情勢ニ依リマシテ、二千圓ト云フコトガ甚シク低キニ失スルト云フヤウナ事項デモ起リマスルナラバ、其都度其時ニ之ヲ改正シタイ、斯様ニ存ジテ居ル次第デアリマス

○野村委員長 第二章商人ニ付テハ御質疑ハアリマセヌカ——ソレデハ次ニ移リマス、第三章商業登記

○大森政府委員 第三章商業登記ニ付キマシテモ、改正致シマシタ點ハ餘リ多クハナイノデアリマス、其改正ノ第一點ハ第十一條デアリマス、是ハ御承知ノ登記ト公告トガ相抵觸シタ場合デアリマシテ、現行法ハ御承知ノ通りニ現行規定ノ第十四條ニ「登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得」トナッテ居リマス、恐ラク此趣旨ハ、登記ガ主タルモノデアルカラ、登記シテ間違ヒガナイナラバ、公告ニ間違ヒガアッテモ對抗力ニ缺クル所ハナイノダ、斯ウ云フコトニナッテ居ッタノデ

アリマス、尙ホ登記ガ主ナルモノデアルコトハ固ヨリ其通りデアリマスケレドモ、之ヲ一般人カラ見マスト、先ヅ公告ニ目ヲ著ケルノデアル、公告ヲ度外視シテ登記所ニ直グ駈ケテ行ッテ登記ヲ見ルト云フ篤志家ハ、先ヅ少イデアアラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ登記ト公告ト間違ッテ居リマシタ場合ニ、何人モ取敢ヘズ公告ヲ信ズルト云フノガ自然ノ勢ヒデアルト思フノデアリマス、例ヘバ支配人ノ伊藤ト云フ名前ノ者ヲ登記ヲシタ、所ガ公告ガ誤權デ後藤ニナッテ居ッタト云フヤウナ場合ニ、公告ヲ見マシテ支配人ヲ後藤ナリト信ズル者ガ蓋シ多イダラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ左様ナ一般人ノ利益ノ點ヲ考ヘマシテ、登記ト公告ト抵觸シテ居ッタナラ、ソレハ公告ガナイモノトシテ、即チ改メテ正シキ公告ヲシナケレバナライ、言換ヘマシレバ登記ト公告ト必ズ一致シテ居ッテ、初メテ對抗力ヲ持ツノデアルト云フコトニ改メタ次第デアリマス、ソレカラ第十四條デアリマシテ、是ハヤハリ新設ノ規定デアリマス、

「故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不實ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ」ト云フ規定デアリマス、是ハ御承知ノ「エスツベル」ノ法理ト申シマス、ソレニ準ジタモノデアリマス、自分デワザト若クハ過失ニ依リマシテ、詰リ自分ニ責ムベキ事實ガアッテ間違ッタコトヲ登記シテ置キナガラ、ソレハ間違ヒダト云ッテ威張ッテ居ル、是ハ決シテ安固ナル法律生活ヲ維持スル所以デハアリマセヌ、眞實ノ原則ニ反スルコト甚シク大ナルモノデアリマス、デアリマスカラ左様ナ點ハ明ニ善意ノ第三者ニ對抗ノ出來ナイモノデアルトスル必要ガアルノデアリマシテ、隨テ此第十四條ヲ新設致シタ次第デアリマス

○仲井間委員 曩ニ御聞キシタイト思ッテ居ッタノデアリマスガ、第十二條ト二百六十二條トノ關係デアリマス、一般ニ取締役ト云フノハ原則トシテ先ヅ代表權ガアルノデアリマスガ、所ガ其取締役ノ中ニ於テ會社ヲ代表スル者ト、セザル者トノ區別ヲ置イテ居ルノデアリマス、是ハ現行法デモ此法デモサウナッテ居リマスガ、ソレニ付テ隨分曩ノ委員會ニ於キマシテ議論ガアリマシテ、取締役ト云フモノハ皆會社ノ代表ヲナサシムベキ地位ニサシタ方ガ、第三者保護ニ最モ適當デアルト云フ意見ガアリマシタガ、政府ノ方デハヤハリ其見解ヲ執ラズニ、代表スルモノト、セザルモノトノ區別ヲ明ニサ

レテ居ルノデアリマスガ、ソレト第十二條トノ關係デアリマスガ、ヤハリ此取締役モ登記公告ヲナスベキ事項デアリマス、若シ此第三者ガ善意ニシテ登記公告ヲ知ラナイ、會社ガ何某ガ會社ヲ代表スル取締役デアルト云フコトヲ登記ヲ爲シ公告ヲ致シマシテモ、實際ニ知ラナイ者ガ居ルノデアリマス、サウ致シマス「ヤハリ」第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」ト云フコトニ依ッテ、此代表權ナキ取締役ヲバ代表權アリトシテ會社ニ對抗シ得ル場合モ豫想セラル、ノデアリマスガ、其關係ニ付テ御尋シテ見タイ

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマス、御指摘ノ場合ニモ第十二條ガ働キ得ルノデアリマス、御説ノ通りノ結果ト存ズルノデアリマス、唯第十二條ノ適用範圍デアリマスガ、第三者ガ正當ノ事由デ之ヲ知ラナイ場合デアリマシテ、登記公告ガアッテ而モ正當ノ理由デ知ラナイト云フノデアリマスカラ、其場合ハ恐ラクハ吾々一應想像シマスルヨリハ少イデアリマセウ、例ヘバ出征シテ居ッテ到底サウ云フモノヲ見ル暇ガナカッタ、斯ウ云フヤウナ場合ガ適例デアリマス、デアリマスカラ第十二條ヲ適用ヲスル場合ト云フノハ、實ハ甚ダ少イデアリマ

セウケレドモ、若シ是ガ生ジテ居ルナラバ、今御指摘ノ場合ニモ適用アルコトト存ズル次第デアリマス

○仲井間委員 第十一條ノ第二項ニ付テ御質疑ヲ致シタイト思ヒマス、此二項ノ改正ニナリマシタノハ、現行法ト全ク反對デアリマス、所ガ此本法ノ改正ノ中ニ流レテ居ルカト云フモノハ、十分第三者ヲ保護スルト云フコトガ一つノ眼目ニナッテ居ルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、其點カラ見マシテ、ヤハリ此規定モアルト思ヒマスルガ、

尙ホ進シテ御引例ノヤウナ支配人ハ、本當ハ後藤デアリマスガ、何カノ誤植ニ依リマシテ伊藤トナツタ時、第三者ハ登記ヨリモ公告ガ能ク眼ニ著クノデアツテ、實際ノ取引上ニ及ボス影響ト云フモノハ、登記ヨリハ公告ノ方ガ社會ニハ力ヲ及ボスモノデアリマス、其場合ニ於テ登記ト公告トガ相違スル場合ニ於テハ、公告ノ方ヲ信ズル、此公告ヲ信ゼシメテ公告ノ通りニアルモノダト云フコトガ普通デアリマスルカラ、其場合ニハソレニ依ッテ假ニ會社取引ガ何カ第三者ニ損害ヲ及ボスヤウナコトガ出來タ場合ニハ、會社ハソレニ對シテ責任ヲ負フ、サウ云フ場合ニハ、今假ニ人ノ名前デアリマスガ、其他ノ色々ノ事項ニ依ッテ取引關係ノ場合

ガアルト思ヒマス、其場合ニハ會社ハ誤リデアツテモ公告ニ記載サレタルモノニ拘束サレル結果ニナル規定ヲ置カレタ方ガ、社會取引上結構デハナイカト思フノデアリマス、其點ニ付テ……

○大森政府委員 御指摘ノ第十一條第二項ガ、第三者保護ノ見地ニ出タモノデアルト云フコトハ、洵ニ御説ノ通りデアリマス、併シ之ヲ一步進メマシテ公告ヲ元ニシタ方ガ宜イデヤナイカト云フ御説デアリマシタガ、ヤハリ是ハ登記ガ元デアツテ、登記シタ事項ヲ公告スルノデアリマスカラ、公告ヲ主ニスルト云フ譯ニハ參ラナイデアラウト思フノデアリマス、之ヲ實際ニ考ヘテ見マシテモ、公告ガ間違フト云フノハ多ク掲載ニ當リマシテ文字ノ誤植ヲ生ズル點デアリマス、例ヘバ伊藤ト云フ者ガ本當ニ支配人デアリマシテ、是ガ登記ニナッテ居リマス、是ガ誤ッテ後藤トナッテ居ル、後藤ハ決シテ支配人デヤナイ、又左様ナ人間ハ全ク居ナイカモ知レナイノデアリマス、デアリマスカラ公告ヲ主ニスル譯ニハ先ヅ行カナイノデアリマシテ、ヤハリ此案ノヤウニ登記ヲ主ニスル、併ナガラ公告ト登記ガ間違ッテ居タナラバ、更ニ公告ヲシナケレバナラナイノデアリマス、即チ登記、公告ト相一

致スルニ及ンデ初メテ對抗力ヲ持ツト云フコトデ、御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス

○仲井間委員 政府ノ御趣旨ハ能ク分リマシタケレドモ、今ノ引例ガ後藤デアアル伊藤デアルト云フヤウナ引例ヲセラレマシタノデ、大シテ害ヲ及ボス影響モナイヤウニ思ヒマスケレドモ、例ヘバ商號ノ方ニ於テ公告ヲ爲シタ場合、ワザト誤ッテ三越デナイノニ公告ヲ三越ト附ケル、中々有名ナ社會ノ信用ヲ得ラレル所ノ商號ヲバ公告ヲ致スヤウナ場合、其他要スルニ商號其モノガ社會的ノ力ヲ及ボスヤウナ場合ニ於テ、間違ッタ公告ヲシテ置イテ、サウシテ公告ガナカッタモノト同ジヤウナコトニスル、サウナルト第三者ノ被ル影響ハ隨分多イノデハナイカト思フ、登記ガ主デアツテ公告ヲシテ先ヅソレヲ對抗スル力ガアルヤウニスル、是ハ法理論デアリマシテ、法律解釋ト致シマシテハ、私共モ左様ニ考ヘルノデアリマスルケレドモ、所ガソレヲ規定セザル場合ニ於テ成程登記ハ本物デアアル、公告ハソレヲ發表スル方法ナンダカラ、登記ガ基礎デアリ、公告ハ從デアルト云フ風ニモ考ヘラレマスケレドモ、併ナガラ社會取引ヲ主ニ考ヘル所ノ商法ノ規定ニ於キマシテハ、ドウシテモ實際ニ於テ取引ハ公告ニ依ッテ行ハレル、公告ヲサレタ

ケレドモ、登記所ニ行ッテ登記ヲ見ルト云フコトハ、中々實際ニ行ハレナイ事情ニアルノデアリマスカラ、公告ヲ信ジテソレニ依ッテ第三者ガ迷惑ヲ來ス場合ニハ、ヤハリ其公告ニ依ル所ノ責任ハ、會社ニ負ハシムルト云フコトガ、社會取引ノ公正圓滿ヲ期スル所以デハナイカト思フノデアリマス、ソレハ併ナガラ色々意見ニナリマスルシ、議論ニナリマスルカラ、其程度ニ止メテ置キマス、其邊ハ篤ト一ツ御考慮ヲ御願シタイト思フノデアリマス

○一松委員 只今「公告ガ登記ト相違スルトキハ公告ナカリシモノト看做ス」ト云フ規定ノ趣旨ハ能ク分リマスガ、此公告ヲ訂正シテ、訂正シタ時カラ效力ガアルト云フヤウニスルコトノ方ガ、費用ヲ省ク點ニ於テ宜イト思ヒマス、例ヘバ朝日トカ日ニニ公告スル、其時分ニ佐藤ノ佐ノ字ガ後ノ字ニ變ッテ居ッタト云フコトノ爲ニ何百圓モ何千圓モ拂ツタモノヲ、全部無効トシテシマツテ、又ソレダケノ費用ヲ出スト云フコトハ、實情ニ即シテ居ナイノデヤナイカ、其時分ニハ何月何日ノ公告ノ中ニ佐藤トアッタノハ、後藤ノ間違ダト云フコトヲ訂正スレバ宜シイト思フノデアリマスガ、併シソレデハイケナイノダ、ヤハリソレガ無効ト看做サ

ケレドモ、登記所ニ行ッテ登記ヲ見ルト云フコトハ、中々實際ニ行ハレナイ事情ニアルノデアリマスカラ、公告ヲ信ジテソレニ依ッテ第三者ガ迷惑ヲ來ス場合ニハ、ヤハリ其公告ニ依ル所ノ責任ハ、會社ニ負ハシムルト云フコトガ、社會取引ノ公正圓滿ヲ期スル所以デハナイカト思フノデアリマス、ソレハ併ナガラ色々意見ニナリマスルシ、議論ニナリマスルカラ、其程度ニ止メテ置キマス、其邊ハ篤ト一ツ御考慮ヲ御願シタイト思フノデアリマス

レテ、全部ノ公告ヲ直サナケレバナラス  
ト云フ其趣旨ヲ一ツ伺ヒタイ

○大森政府委員 先程私ノ申上デタコトガ  
或ハ明確ヲ缺キマシタガ爲ニ、只今ノ御疑ヲ  
生ジタモノト存ズルノデアリマス、恐縮ニ  
存ズルノデアリマス、私ハ全ク新シイ公告

ヲ直サナケレバナラスト申シマシタノハ、  
ソレハ間違デアリマス、訂正デ結構デアリ  
マス、詰リ正シキ公告ガ現ハレマシタ時ニ  
效力ヲ生ズルノデアリマシテ、其正シキ公

告ト云フモノガ全然新シイヤリ直シノ公告  
デアリマシテモ、又訂正ニ依ル公告デアリ  
マシテモ、ソレハ構ハナイノデアリマス、

尙ホソレ等ノ點ハ非訟事件手續法ニ之ヲ明  
確ニスル積デアリマス、詰リ訂正ニ依ルカ、  
全然新シキ公告ニ依ルカト云フコトハ、手

續法ノ問題ニシタイト存ジマス、併シ今考  
ヘテ居リマスルコトハ、固ヨリ訂正デモ宜  
シイト云フ積リデ進ンデ居リマス、左様御諒

承ヲ願ヒタイノデアリマス

○一松委員 能ク分リマシタ、サウ致シマ  
スト、詰リ此立法ノ趣旨カラ言ヒマスルト、  
公告ナカリシモノト看做サレノデアリマ  
スルカラ、訂正スルマデハ其間違ッタ所ノ  
公告ハ、公告ノナイモノト看做サレガ、  
訂正サレタ時ニハ新ナ公告ト看做スト云フ

コトニナリマシテ、訂正セラレタ時カラ公  
告ガアツタモノトナルノデアリマセウカ、其  
點ヲ明ニシテ載キタイト思ヒマス

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマ  
ス

○一松委員 ソレデ結構デアリマス、サウ  
致シマス、サウ云フ點ヲ施行令若クハ勅  
令或ハ非訟事件手續法トカ云フ所ノ法文ノ  
上ニ、餘リ實際ノ取扱上疑ノナイヤウナ趣

旨ニ御記載ヲ願ヒタイト云フコトヲ、希望  
申上デテ置キマス

○大森政府委員 御意見確ニ諒承致シマシ  
タ、非訟事件手續法中ニ、其點ガ明確ニナ  
ルヤウニ規定ヲスル積リデ居リマス

○池田委員 一寸仲井間君ノ質問ニ關聯シ  
テ……或ハ仲井間君ノ質問ハ、サウ云フ意  
味ヲ含ンデ居ツカト思フノデアリマスガ、

十一條ノ——是ハ先ノ方ノ二十三條モ等シ

ク第三者ヲ保護スル規定ニナッテ居ルノデ  
アリマス、斯ウ云フ風ニ公告ト登記ヲ違ッ  
テシタヤウナ場合——二十三條ノ場合ハ、  
他人ニ商號ヲ使用スルコトヲ「許諾シタル  
者ハ自己ヲ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲  
シタル者ニ對シ、其ノ取引ニ因リテ生ジタ  
ル債務ニ付其ノ他人ト連帶シテ辨濟ノ責ニ  
任ズ」斯ウ云フ新シイ第三者保護ノ規定ガ

出來テ居ルノデアリマス、公告ヲ登記ト故  
意ニ違ッテシタト云フヤウナ場合ニハ、ヤハ  
リ第三者ヲ保護スル趣旨カラ、二十三條ノ  
如キ保護規定ガ出來テ宜サウニ思フノデア  
リマス、事實上二十三條トノ公平論ガ玆ニ  
起ッテ來ハシナイカト思フノデアリマスガ、  
ソレハ御想像ノ上デ斯ウ云フ風ニ御書キ  
ニナツタカドウカ

○大森政府委員 議論ニ互ルヤウデ恐縮デ  
アリマスルガ、公告ハ御承知ノ通りニ登記  
官吏ガヤルノデアリマス、登記ノ手續ヲ完  
了致シマスレバ、登記官吏ガソレヲ受ケテ

公告ヲスルノデアリマシテ、當事者ガ故意  
ニ不實ノ公告ヲスルト云フコトハ、先ヅア  
リ得ナイカト存ズルノデアリマス、尤モ登  
記官吏ト當事者ト結託ヲ致シマスレバ、或  
ハサウ云フコトハ生ズルカモ知レマセヌケ  
レドモ、先ヅ一般的ニハナイノデアリマス、  
ソレデアリマスルカラ、其點ノ御心配ハ先ヅ  
ナイカト私共ハ考ヘテ居ツタヤウナ次第デ  
アリマス

○山本委員 私ソレニ關聯シテ尙ホ御尋シ  
タイノデスガ、是ハ私共常識デ大概ハ間違  
ナイト思フノデアリマスケレドモ、十一條  
ノ登記ト相違スル場合ト云フ此相違デス  
ガ、伊藤ト後藤ヲ間違ヘタト云フヤウナ場

合ハ重大問題デアリマスカラ、勿論ソレハ  
ソレデ宜シイノデアリマスガ、助動詞若ク  
ハ助詞ト云フ——極ク輕微ナ「ノ」ヲ「ニ」ニ  
シタトカ「ノ」ヲ「ヲ」ニシタトカ、全體ノ趣  
旨ヲ讀ンデ見テ大シテ趣旨ニ過チガナイ場  
合ニハ、「ノ」ガ「ニ」ニナツタト云フヤウナ  
爲ニ、其「ニ」ヲ「ノ」ニ訂正シナケレバ、ヤハ  
リ效力ヲ發生シナイト云フ風ニ、嚴格ニ解釋  
スベキモノカ、ソレトモ趣旨ニ變リガナケ  
レバ、サウ云フヤウナ場合ニハ常識ノ判斷  
デ其登記ヲ效力アリト認メルト云フヤウナ  
御趣旨デアリマス、此點ヲ御伺シタイ

○大森政府委員 只今御示ニナリマシタヤ  
ウナ、全ク形式上ノ間違ヒデアリマシテ、  
サウシテソレガ全體的ニ見テ違ッテ居ナイ  
ト云フコトガ誰ニモ分ルナラバ、是ハ決シ  
テ此條文ニ言フ相違ニ該當シナイト存ズル  
ノデアリマス、デアリマスルカラ、物ノ同  
一性ヲ害シテ居ルヤ否ヤト云フ箇々ノ判斷  
ニ俟タレルコトト存ジテ居ルノデアリマス

○山本委員 モウ一點——前回ニモ意見ヲ  
申述ベタノデアリマスガ、第十二條ノ規定  
デアリマス、第三者保護ノ規定デスガ、私  
共ノ今日マデノ經驗デハ、登記事項ニ付テ  
不知ノ抗辯ヲシテ、ソレガ成リ立ツ實例ヲ  
知ラナイノデアリマス「第三者ガ正當ノ事

由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」ト云フ第三者保護ノ規定ガ、實際ニ活用サレタ例ヲ私承知シテ居リマセヌ、又他ノ事實ニ付テ、私ノ直接關セザル點ニ付テ調べテ見テモ、實例ヲ見出し得ナイノデアリマスガ、裁判所ニ於テ、殊ニ大森局長ニ於テハ隨分長イ司法生活ヲサレテ居リマスノデ、斯ウ云フ實例ガオアリニナツタコトヲ御承知ニナツテ居リマスカドウカ、御聽キシタイ

趣旨カラ見テ、斯ウ云フ殆ド實例ノ生ジナイヤウナ條文ヲ其儘存置セシメテ置カナクトモ、登記ソレカラ公告、二重ノ手續ヲシテ第三者ヲ保護シテ居ルノデアルカラ、其上ニ又不知ノ抗辯ヲ許スト云フコトハ、ドウ考ヘテモ法律生活ノ安固ヲ害スルモノデアル、寧ロ登記ト公告ガ完全ニ出來タ以上ハ、ソレデ如何ナル場合ニ於テモ效力ヲ生ズルノデアルトシテシマツタ方ガ、改正ノ趣旨ニ合致スルノデアアルマイイカト考ヘルノデアリマスガ、政府ノ御意見ヲ伺ヒタイ

○大森政府委員 御指摘ノ點ハ私モ承知シテ居ナイノデアリマス、デアリマスカラ、アルカモ知レマセヌケレドモ、サウ屢、アル問題デハナイト存ズルノデアリマス、先程モ他ノ委員ニ御答ヲ致シマシタ通り、此規定ハ餘程必要ノアル時ニハ之ヲ活用シナケレバナリマセヌケレドモ、登記、公告ガアリナガラ、ソレヲ知ラナカツタ、知ラザルニ付テ正當ノ事由ガアツタト云フヤウナ場合ニハ、恐ラクハ極メテ限局シテ解釋セラレル場合デハナイカト思フノデアリマス、一例ハ事變ノ爲ニ出征ラシテ居ッタト云フヤウナコトガ、之ニ當ルダラウト思ヒマス、是ガ適用ノ實例ニ付テハ私モ承知ラシテ居ナイト云フコトヲ御答ヲ致ス次第デアリマス

○大森政府委員 昨年モ左様ナ御意見ノアリマスガ、確ニ拜聽シテ居ルノデアリマス、殆ド實例ガナイノニ斯様ナ規定ヲ置クコトハ、却テ登記制度ヲ紊ス虞ガアリハシナイカト云フ御意向ガアツタノデアリマス、併ナガラ既ニ現行法ニモ此途ガ開カレテ居ルノデアリマスルシ、其趣旨ニ於テ第三者ヲ保護スルモノデアリマスルカラ、之ヲ特ニ此改正案ニ於テ削除スルト云フノモ、如何デアラウト存ジタノデアリマス、而モ此規定ガアリマスルガ爲ニ濫用サレルト言ツタヤウナ弊害デモ生ジテ居リマスルナラバ、ソレハ大イニ考慮ノ餘地ガアリマスケレドモ、只今申上ゲマシタヤウナ適用狀態デアリマスカラ、折角趣旨ニ於テ第三者

保護ニナツテ居リマスルモノヲ、此際態々除クニモ當ラナイト存ジタヤウナ次第デアリマス

○仲井間委員 關聯質問ガアリマスガ——全ク適用ノ例ヲ見ザル規定ヲ置クト云フノハ、甚ダ不穩當ト考ヘマスカラ、之ヲ緩和致シマシテ「第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ」ト云フコトヲ省キマシテ「登記及公告ノ後ト雖モ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」ト云フ風ニ改正ヲサレテハ如何デアリマスカ

合ガアルノデアリマシテ、實際ニ於テ知ラナカツタ場合ニハ、實際登記ノ事實ガアリマシテモ、其登記ヲ爲シタル日付ヲ基礎トセズニ、實際ニ知リタル日ヲ證明シテ、此時效ノ起算點ヲ決メテ居ルト云フコトガ判例ニモアリマス、サウ云フ風ニ取扱ッテ居ルヤウデアリマスルガ、殊ニ商法ニ於テ民事以上ニ第三者ヲ保護シナケレバナラスト云フ強力ナ理由ガアル限リニ於テハ、民事ヨリモ却テ商法ノ方デ、舉證責任ヲ知ラザル者ニ與ヘテ置イテ、コンナ些ットモ適用ノナイヤウナ規定ヲ置クヨリハ、第三者ヲ舉證責任ヲ與ヘテ保護スル必要ガアルノデアリマス、普通ハ、詰リ登記公告ヲシテ居リマスルカラ、知ッテ居ルモノダト云フ風ニ立證ガナケレバ推定サレル、所ガ實際ニ知ラナカツタト云フコトヲ立證スルナラバ、知ラナイ人ニ對シテ效力ヲ及ボスト云フコトハ氣ノ毒デハナイカ、正當ノ事由ニ因リテ知ラナイト云フノト、實際ニ知ラナイト云フノトハ、サウ大シテ法ノ保護ニ付テ區別ガアルベキモノデハナイ、正當ノ事由ニ因ッテ知ラナイト云フコトト、實際ニ何モ知ラナカツタ場合ト、ソレヲ區別スル理由ガアルカドウカ、總テ社會人ハ、新聞ヲ見テ何處ニ公告ガアリハシナイカ、何處ノ會社何處ノ商人

○大森政府委員 是亦議論ニ互ル點デ恐入リマスガ「正當ノ事由ニ因リテ」ト云フコトヲ削リマス、大變ナ結果ニナルノデアリマス、ソレコソ登記及ビ公告ノ效力ヲ甚シク減殺シヤシナイカト存ズルノデアリマスコトヲ省キマシテ「登記及公告ノ後ト雖モ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」ト云フ風ニ改正ヲサレテハ如何デアリマスカ

○仲井間委員 立證ノ責任ヲ、登記及公告ヲ知ラザリシ者ニ對シテ負ハセルノデアリマス、成程商法ハ敏活ニ取引ヲ進メル上ニ於テ斯ウ云フ規定ハ意義ガアルカモ知レマセヌガ、民法アタリデ詰リ詐害行為ノ出訴時効ノ起算點ニ付テハ、詐害行為ノアリタルトキヨリ二箇年、實際ニ知リタルトキヨリ云々ト云フコトガアリマシテ、普通移轉ノ登記ハ、詐害行為ノ目的タル特權ノ移轉ヲ登記シタ時ヨリ知ッテ居ルモノダト、斯ウ云フ風ニ推定スルノデアリマス、併ナガラ知ラザル場

ガ公告ヲスルノデハナイカト云フノデ、其公告ヲ始終見ル義務ヲ負ハサレテ居ルノデハナイノデアリマスカラ、實際知ラナイナラ知ラナイト云フコトヲ立證シテ、保護サレテ然ルベキダト思ヒマス

○大森政府委員 實際ニ知ラナイ者ニ之ヲ爭フ效力ヲ認メマスルナラバ、今日ノ登記制度ト云フモノハ甚シク亂レテシマフダラウト思フノデアリマス、第十二條ノ規定デ「正當ノ事由ニ因リテ」ト云フ文句ガ入ッテ居リマシテモ、此規定ガ不必要若クハ弊害ヲ生ズルデヤナイカト云フ御意見スラアルノデアリマシテ、之ヲ削除致シマスコトニナリマス、其結果ガ又非常ニ工合ノ悪いモノニナルダラウト存ズルノデアリマス、意見ガマシイコトヲ申シテ恐縮デアリマス、ガ、其御意見ニハ一寸御賛成出來ナイヤウニ存ズルノデアリマス

○一松委員 第十二條ノ「第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ」ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」ト云フ此規定ノ必要デアルト云フコトハ、私共異論ノナイ所デアリマス、唯山本君モ言ハレマシヤウニ、之ヲ實際ニ應用致シマスル時ニ、正當ノ事由デアッタカドウカト云フコトガ、裁判所ニ於テ往々ニシテ問題ニナルノデアリマス、該博ナル局長ニ於テ

其例ヲ二三擧ゲテ置イテ載イタナラバ、大分實際ノ運用ノ上ニ於テモ參考ニナラウト思フノデアリマス、ソコデ私が一ツ今此處デ咄嗟ニ考ヘタ例ヲ申上ゲマスノデ、其例ガ正當ノ事由ニナルカナラヌカト云フコトノ、政府當局トシテノ一應ノ意思表示ヲシテ戴キタイノデアリマス、今局長ノ例ニ御引キニナリマシヤウナ、例ヘバ北支事變ニ出征シテ居ッテ、官報ヲ見ル暇モナケレバ、新聞ヲ見ル暇モナク、唯第一線ニ立ッテ、一意國防ニ從事シテ居ルト云フヤウナ時ニ登記公告ガアッタ、閉戦後還ッテ來タ時分ニ、サウ云フコトヲ知ラナカッタト云フコトノ所謂事由ヲ立證シテ來タ時ニハ、

是ハ、ヤハリ正當ノ事由アリシモノトシテ私ハ之ヲ適用シテ宜カラウト思フノデアリマス、是同ジヤウニ、例ヘバ歐米各國ニ洋行シテ居ッテ、ソレガ爲ニ如何ニ「ラヂオ」及ビ無線電信等ガ發達シテ居リマシテモ、我が日本帝國ニ於テ公布セラレマシタ法律ヲ知ラナイト言フヤウナ場合モアリマセウガ、況ヤ登記公告等ヲ見ルコトノ機會ガナカリシ爲ニ、知ラナイヤウナコトハアリ得ベキコトデアル、サウ云フ時ニ、日本ニ歸ッテ來テ或ル事ヲヤッタ、其時ニ丁度登記及公告ヲ知ラナカッタト云フコトノ立證ガ出來タ場合

ニハ、ヤハリ第三者ガ正當ノ事由ニ依ッテ知ラナカッタト云フコトニ、當嵌ラウト思フノデアリマス、是同ジヤウニ、遠洋漁業ニ出掛ケテ居ッテ、或ハ精神病ニ罹ッテ心神喪失ノ狀況ニアッタ、隨テ世ノ中ノコトハ總テ理解ガ出來ナイ、然ルニ後日病氣ガ恢復シタ後ニ、丁度サウ云フヤウナ登記公告ガアッタコトヲ知ラナカッタ、或ハ或ル病氣ノ爲ニ入院ヲ命ジラレテ居ッテ、外部トノ交通ヲ遮斷サレテ養生ヲサセラレテ居ッテ、其時ニ登記公告ガアッタコトヲ知ラナクテ、退院後或ル取引ヲシタ時ニ、丁度自分ガ入院ヲシテ居タ時ニ登記及公告ガアッタコトヲ知ラナカッタト云フコトノ立證ガ出來タト云フト

キニハ、所謂正當ノ事由ニ入ラウ、斯ウ云フ風ニ私ハ思フノデアリマスガ、ソレ等ノ點ニ對シマシテノ局長ノ御考ヲ、御發表ヲ願ヒタイデアリマス

○大森政府委員 只今御示ノ例ヘバ精神病デ入院ヲシテ居ッテ、或ハ其他ノ病氣デ嚴ニ面會ヲ禁止セラレテ長イ間入院ヲシテ居ッタト云フヤウナハ、確ニ適例ダト存ズルノデアリマス、洋行中ノ問題ハドウナルカト云フコトニ付キマシテハ、私モ能ク分リマセヌガ、是ハ唯空論デアリマセウガ、ヨク參考書等ニハ、船ガ難破シテヒドク遠方

ヘ廻ッテ居ッテ、日本デ申シマスルト浦島太郎ミタヤウナ話デアリマセウカ、サウ云フコトガ假ニアリマスルナラバ、之ニ正ニ當リマセウ、唯普通ノ場合ニ、普通ノ用意ヲシテ、普通ノ留守番ヲ置イテ洋行シタト云フヤウナ場合ハ、直チニ之ニ當ルカ否ヤ稍、考ヘ物デハナイカト存ジテ居ル次第デアリマス

○佐竹委員 私モ十一條、十二條、十四條ノ關係ヲ御尋シタイト考ヘテ居リマシタガ、先程カラ大分御質問ガ出マシタノデ、簡單ニ先ヅ十一條カラ御尋ヲ致シマス、十一條ノ規定ガ前質問者ノ申サレタ如ク、第三者ノ保護規定デアルコトハ爭ヘナイ所ト考ヘマス、ソコデ私ハ、公告ヲ見テ其公告ヲ信ジテ取引致シマシタ所、其後其公告ガ間違ッテ居ッテ、登記公告ガナカッタモノト看做サレテ、全然第三者ガ錯誤ニ陥ッテ取引シタト云フヤウナ結果ハ、第三者側カラ見レバ、正當ナ行爲ヲシテ居ルト思ッテ居ッタコトガ、却ッテ其爲ニ其行爲ガ無効ニナルト云ッタヤウナコトヲ惹起致シマシテ、大變第三者ニ損害ヲ及ボス場合ガ澤山ニ出テ來ヤウト思ヒマス、斯ウシタ場合ニ、公告ヲ誤リマスコトハ、是ハ先程御説明ノ如ク、登記官吏ノ字ノ書キ間違トカ、或ハ印刷ノ間違ト

カ、例へば新聞社ニ於ケル所ノ誤植トカ云ツ  
タヤウナコトニ因ルダラウト考ヘル、斯ウ  
云フ時ニ、其登記ヲスル側ガ責任ヲ免カレ  
テ、登記ヲ見タ側ガ責任ヲ負ハサレルト云  
フコトハ、是ハ全ク法ノ精神ニ反スルモノ  
デヤナイカト考ヘマスガ、是デモ第三者保  
護ノ目的ヲ達セラレルト言ハレルデゴザイ  
マセウカ、私ハ此法律ノ精神ニ照シマシテ、  
寧ロ其公告ヲ見タ人ハ公告ニ依リ、登記ヲ  
見タ人ハ其登記ニ依ツテ、之ヲ信ジテ取引サ  
スト云フコトガ寧ロ安定致シマシタヤリ方  
デヤナイカト思ヒマス

○大森政府委員 或ハ御趣旨ニ副ハナイカ  
モ知レマセヌ、登記ト公告ガ相一致シテ居  
テ、初メテ對抗力ヲ持ツノデアリマスカラ  
シテ、一致シテ居ナイ場合、即チ公告ガ間  
違ッテ居リマスナラバ、第三者ノ方カラ對抗  
ガ出来ル譯デアリマス、サウシテ又登記官  
吏ガ此公告ヲ誤リマスナラバ、之ニ付テハ  
責任ト云フモノハアリマセヌケレドモ、併  
シ左様ナコトハ確ニ官吏トシテ不都合ナ行  
爲デアリマスカラ、制裁ハ或ル場合ニ於テ  
ハ免カレナイコトカト存ズルノデアリマ  
ス——尙ホ今ノ點ヲ補足致シマスガ、此非訟  
事件手續法ガ不動産登記法ノ第十三條ヲ準  
用シテ居リマシテ、其不動産登記法ノ第十

三條ニ依リマス「登記官吏カ其職務ノ執  
行ニ付キ申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタル  
トキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナ  
ル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠  
償スル責ニ任ス」ト云フコトニナッテ居ル  
カラ、單純ナル過失ノ場合ニハ之ニ該當シ  
マセヌガ、故意又ハ重大ナル過失デアリマ  
スレバ、賠償ノ責任ノアルコトヲ補足シテ  
御答シテ置キマス

○佐竹委員 先程御引例ナサイマシタ後藤  
ヲ伊藤トシタト言ツタヤウナ場合ニ、ソコニ  
ヤハリ伊藤ト云フ人ガアッテ、伊藤ト云フ人  
ガ支配人デアルト信ジテヤツタ、所ガ事實ハ  
伊藤ガ支配人デナイ、後藤ガ支配人デアツタ  
ト云フヤウナ時ニハ、會社、或ハ其主人ニ  
對シマシテ對抗スルコトガ出来マセウガ、  
併シサウ云フ場合ノミデヤゴザイマセヌ、  
登記ノ場合ハ會社設立ノ場合モアリマセ  
ウ、解散ノ場合モアリマセウ、清算ノ場合  
モアリマセウ、斯ウ云フ時ニ例ヘバ金額ト  
カ條件ト言ツタヤウナモノガ相違シテ居リ  
マシタ時ニ、ソレハ飛ンデモナイ、ソシナ  
コトダッタ僕ハ取引シナイノダ、斯ウ云フ  
公告ガアツタ僕ハソレヲ信ジテ取引シ  
テ居ツタ、サウデアツタカ、例ヘバ十圓ガ百  
圓デアルトカ、千圓ガ一万圓デアルトカ、

飛ンデモナイ、ソシナコトダッタ僕ハ一万  
圓モ出資スルコトハ出来ナイ、千圓ダッタ  
僕ハソレヲ引受ケモシヨウト言ツタヤウナ  
工合ニ、金額ノ相違等ニ依リマシテ、其各  
人ノ身分財産等ニ應ジテ公告ヲ見テ、其商  
行爲ヲ爲スニ付テノ決定ヲ致シマス、斯ウシ  
タ場合ニ公告ヲ信ジテヤツテ置キマシタ所、  
ドウモソレガ相違シテ居ル、固ヨリ仰シヤ  
ル通り對抗ハ出来マセウ、其公告ニ依ツテ對  
抗條件ノ場合ニハ當該リマセウガ、今申上  
ゲマシタ如ク金額ガ全然違ッテ居ル、或ハ解  
散、清算等ノ場合ニ於キマスル所ノ條件ト  
云フモノガ、全然相違シテ居ルテ大變思惑違  
ヒラシタ、之ガ爲ニ折角サウ云フ取引ヲ致  
シマシテ、ソレヲ信ジテ居ッテ、アト一ケ月  
ナリ二ケ月ナリ後ニ之ヲ發見シタ、イヤソ  
レハ全然ドウモ違ッテ居ッタト云フヤウナコ  
トデ、ソレダッタ僕ハサウシタ行爲ハシナ  
カッタト云フヤウナ場合ガ出デ參リマス、

第三者ハ大變ナ損害ヲ被ル場合ガ出テ來ル  
ノデハナイカト思ヒマス、サウ云フ場合ガ出  
テ來ナイト當局ハ御考デゴザイマセウカ  
○大森政府委員 只今御指摘ノ場合ハ、或  
ハ會社ノ資本金ニ付テ誤記ガアリ、サウ云  
フ場合ニ困リハセヌカ、斯ウ云フ點ニ主ニ  
重キヲ置カレタヤウニ存ズルノデアリマス、

會社ノ設立ニ付キマシテハ御承知ノ通り登  
記對抗ガ出来ルト云フコトニ、現行法ガ  
ナッテ居リマス、改正案ニ於キマシテハ設立  
ノ登記ガ成立ノ要件デアリマシテ、是ハ何  
レニ致シマシテモ此點ハ公告ト云フコトハ  
致シマスケレドモ、公告ガ要件ニナッテ居ナ  
イノデアリマス、其他株式申込ヲスルニ當  
リマシテハ申込書ヲ見ルトカ、種々ナコト  
ガアリマセウカラ、直チニ御指摘ノヤウ  
ナ場合ニ公告ガ間違ッテ居タカラ不測ノ  
損害ヲ生ズルト云フコトハ、ナイコトデハ  
ナイカト存ズルノデアリマス、併ナガラ他  
ノ多クノ例ヲ取リマスルト、此以外ノ場合  
ニ付テ考ヘマスルト、公告ガ間違ッテ居ッ  
カラ、ソレデ損害ヲ被ッタト云フコトハナク  
ハナイカモ知レマセヌ、併ナガラ此對抗要  
件ノ問題デアリマスカラ、是ハヤハリ登記  
ト公告ト一緒ニシ、而モ飽クマデ登記ヲ本  
體トシテ規定ヲシナケレバナラナイト存ズ  
ルノデアリマシテ、ヤハリ第十一條ハ此儘  
ニ存置スベキモノデアルヤウニ存ズルノデ  
アリマス

○佐竹委員 今會社ノ例ヲ引カレタノデア  
リマスガ、是ハ御説明ノ通り規定ハゴザイ  
マス、私ハ此規定ニ依リマシテモ、登記  
ト公告ノ相違致シマス場合ニ、大變困ル場

合ガアリ得ルコトガ想像出來マス、隨ヒマシテ會社ノ場合ニ於キマシテハ登記ヲ中心トスル——御説明ガアリマシタ、サウ云フヤウナ工合ニ登記ヲ中心トスルカ、公告ヲ中心トスルカニ依ッテ、大變利害關係ガ分レテ參リマス、必ズ利害關係ガ起ッテ參リマス、ソコデ會社ノ場合ハ、サウ云フ特別規定ガアルカラ宜シウゴザイマスガ、是ハ是ノミデハゴザイマセヌ、モウ商法中ニ有ユル場合ニ登記公告ニ關スル規定ガゴザイマス、只今ノ御説明ニ依レバ恐ラク不測ノ損害ヲ被ルコトハナカラウナドト仰ッ

ラ、一寸引例ハ出來マセヌケレドモ、私ハアリ得ルト考ヘマス、今一ツソコヲ御答辯願ヒタイト思ヒマス

○大森政府委員 私ハ絶對ニナイト申シタ

ノデナイノデアリマシテ、唯先程ノ御引例ガ、重キヲ會社ノ資本ノ總額ニ置イテ居ラレタヤウデアリマシタカラ、其點ニ付テ御答ヲシタ次第デアリマス、尙ホ此第十一條ノ問題デアリマス、登記ニ重キヲ置クカ、或ハ公告ニ重キヲ置クカト云フ問題デアリマスガ、何レニ重キヲ置クカト云フコトハ、或ハ語弊ノ問題ニ陷リマセウケレドモ、要スルニ現行法ハ登記ト公告ガ違ッテ居ッタ場合デモ、登記サヘ合ッテ居レバソレガ宜イト云フノデアリマシテ、是ハ甚ダ公告ヲ無視シテ居リマシテ、隨テ公告ヲ見テ、ソレヲ信ズル者ニ取ッテハ極メテ不利ナ關係ニアッタノデアリマス、其點ヲ改メタノデアリマシテ、或ハ是デ不十分ダト云フ御非難ハアルカモ知レマセヌケレドモ、現行法ニ對シテハヤハリ遙ニ良クナッテ居ルト、私共ハ存ジテ居ル次第デアリマス

○佐竹委員 先刻御引例ナサイマシタヤウニ、故意過失ノ場合ニ付テ御説明ナサイマシタ、故意又ハ重大ナル過失ガアル場合ニハ責任ヲ負フ、サウデナイ場合ニハ假ニ公告ガ間違ッテ居ッテモ、當該官吏ハ責任ヲ負ハナイ、斯ウ仰シヤッテ居ラレマヌヤウニ、其公告ノ誤リト云フコトガ、如何ニ重大ナル結果ヲ發生スルカト云フコトハ、モウ既ニ法規ガ之ヲ豫想シテ居リマス、立法者ガ既ニ豫定シテ居リマス、私共モ之ヲ想像スルノデゴザイマス、若シサウ云フコトガアリト致シマスナラバ、其損害ヲ公告者側ガ持タズニ、登記ヲ致シマシタ側ガ持タズニ、其公告ヲ見タ極メテ善良ナ第三者側ニ其損害ヲ負ハセルト云フコトハ、是ハ決シテ立法ノ精神デハナイト考ヘマスガ、此立法ノ精神ニ悖ル結果ト相成ルノデハゴザイマヌマイカ

○大森政府委員 只今御述ニナリマシタ第十四條ノ問題デアリマスガ、故意又ハ過失ニ依ッテ不實ノ事項ヲ登記シタ者ハ、其不實ノ事項ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトガ出來ナイ、是ハ先程モ申上ゲマシタヤウナ趣旨デアリマス、然ルニ公告ニ付テハ御承知ノ通りニ、登記申請人ガ公告ヲスルノデハナイノデアリマシテ、登記官吏ガ公告ヲスルノデアリマス、デアリマスカラソレニ間違ガアリマスナラバ、責メラルベキモノハ登記官吏デアリマシテ、登記申請人デハナイノデアリマス、然ラバ左様

ナ場合ニ登記官吏ニ如何ナル責任ヲ負擔セシムベキヤト云フ問題デアリマスガ、是ハ官吏タルガ故ニ其責任ヲ輕クスルト云フコトハ、固ヨリ是ハ不當デアリマヌケレドモ、一般的ニ考ヘテ見マシテ、普通ノ場合ノ民法上ノ責任ヲ其僥倖シテ宜イカ否ヤ、是ハヤハリ一般行政の見地ニ立ッテ考ヘナケレバナラスト存ジテ居ルノデアリマス、ソレデ御承知ノ通りニ現行規定ニ依リマス、登記官吏ガ其職務ノ執行ニ付テ損害ヲ人ニ及ボシタ時ニハ、其損害ガ故意又ハ重大ナ過失ニ依ッテ生ジタ場合ニ限ッテ、責任ヲ持ツト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、即チ普通ノ輕過失ノ場合ヲ除イテ居ルノデアリマス、此輕過失ヲ除イテ居ルノガ宜イカドウカト云フ點ハ、確ニ問題デアリマス、併シソレハ商法ノ問題ニ直チニ影響スルモノトハ存ゼラレナイノデアリマス、御趣旨ハ或ハ此不動産登記法ノ登記官吏ノ責任ノ規定ガ、不十分デアルト云フコトニ歸著スルカモ知レマセヌ

○佐竹委員 私ハ十四條ノ場合ヲ御尋致シタノデハナイノデゴザイマス、第十四條ノ場合ハ登記ヲスル人、其登記ヲ申請スル人ノ故意又ハ過失ニ依ッテ、不實ノ事項ノ登記ヲ申請シタ場合ノ、是ハ規定デハナイカ



ト思フノデアリマス、私ハサウデハゴザイマセス、申請者ハ善意ニ致シテ居リマス、唯登記官吏ガ故意又ハ過失ニ依ッテ、ソレト相違ヲスル登記ヲ致シマシタ場合ノ、其損害ニ付テノ御尋デアリマス、而シテ其場合ニ付テ先程ノ御答ニ依レバ、故意又ハ重大ナル過失ノ場合ニ於テハ責任ヲ負フガ、輕過失ノ場合ニ於テハ責任ヲ負ハナイ、御承知ノ如ク、田舎デハ能ク新聞紙等ニ公告ヲ命ジテ居リマス、誤植等ハ澤山アルノデアリマス、固ヨリ官報ニ依ル公告モゴザイマスガ、斯ウシタ場合ニ於キマシテ如何デゴザイマセウ、新聞紙ノ公告ハ正シカッタ、所ガ同一事項ヲ官報ニ公告ヲ致シマス、其官報ニハソレト違ッタ公告ヲ致シテ居リマス、其公告ヲ致シマス機關ト云フモノハ必シモ一ツデハゴザイマセス、二ツモ三ツモ指定致シテ居リマス場合ガアリマス、新聞紙ヲ二ツ三ツ位分擔セシメテ居ル場合ガアリマス、或ハ官報ニ公告スルト同時ニ新聞紙ニ公告セシメル場合ガアリマス、斯ウ云ッタヤウナ場合ニ、全部ノ一致ヲ要トスル譯ハ恐ラクアリマスマイ、ドレカ一ツガ正シケレバ公告ノ效力ハアリマセウ、官報ガ假ニ正シクナクテ新聞紙ガ正シカッタ致シマス、スルト一應公告トシテハ正シイト云フ

コトニナリマス、固ヨリ司法省ガ二ツノ新聞ト一ツノ官報デ公告シナケレバナラス時ニ、三ツガ、全部一致シナケレバ公告ノ效力ガ生ジナイト仰シヤルナラバ別デゴザイマスガ、其中ノドレカ一ツダケ正シケレバ公告トシテ完全ナモノデアルト斯ウ云フコトニ若シナルト致シマスレバ、若シサウデナイト致シマスレバ、其點ニ於キマシテ——先ヅ多岐ニ互リマスカラ其點カラ御尋シテ參リマセウ

○大森政府委員 只今ノ御尋ノ點ハ、御承知ノ非訟事件手續法ノ百四十四條第二項ニ「公告ハ之ヲ掲載シタル最終ノ官報及ヒ新聞紙發行ノ日ノ翌日之ヲ爲シタルモノト看做ス」トナッテ居リマスル趣旨カラ致シマシテ、官報及ビ新聞紙ニ掲載ヲ致シマスル場合ハ、二ツトモ悉ク出來タ時ニ初メテ公告ト云フモノガ完了スルト存ジテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ只今御指摘ノヤウニ二ツノ方法ヲ執ル場合ニ、其一ツダケガ間違ッテ居ッタ、是モヤハリ玆ニ所謂相違ニ該當スルト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、二ツヤルベキ場合ニ二ツトモ一致ヲシナケレバナラス、其一致ヲ缺クナラバ此商法ニアル相違ト云フコトニ解釋ヲシテ居ル次第デアリマス

○佐竹委員 ソレデハ大分其點ガ問題ガ減縮サレマシタガ、假ニサウ一致ヲ要スルコトニ致シマシテ、全部共一致シナクテハナラスト假定ヲ致シマシテ、根本ノ問題ハ相變ラズ私ハ殘ッテ來ルト思ヒマス、私ハドウモ十一條ノ法律ノ精神ト云フモノハ第三者保護ニアル、申請者保護デハアリマセス、登記ヲ申請スル申請者ノ保護ノ規定デアリマスナラバ、是ハモウ申上ゲル餘地ハゴザイマセス、詰リ所謂民法ノ危險負擔ノヤウナ規定デアッテ、ドチラヘ責任ヲ負ハシテ宜イノカ分ラナイ、東京カラ大阪ヘ、品物ヲ送ッテ參リマス途中デ、名古屋デ其荷ガ引繰リ返ッテ其品物ガ壞レテシマッタ、大阪ノ商人ガ損害ヲ負ウベキカ、東京ノ商人ガ損害ヲ負フベキカト云ッタヤウナ危險負擔ノ問題トシテ、是ハ同ジヤウニ——同ジヤウニト云フト語弊ガアリマスガ——見ルコトノ出來ルヤウナ問題デアリマス

ドチラカガ責任ヲ負ハナケレバナラス、斯ウ云ッタ際ニ第三者ヲ保護シヨウト云フコトガ、精神デアルト致シマスナラバ、兎モ角此登記並ニ登記ニ基ク公告ト云フモノハ、申請者側ガ責任ヲ以テシナクテハナラスモノデゴザイマス、登記及ビ公告ヲ爲スベキ義務ヲ負フ側ガ、義務者ガ

責任ヲ負ハズシテ、其間違ッタ、登記ヲ見タ側ニ責任ヲ負ハセルト云フ結果ニナルト云フコトハ、是ハ決シテ十一條ノ法ノ精神デハナイト私ハ思フノデゴザイマスガ、之ヲ今一度納得ノ行クヤウニ御説明ヲ願ヒタイト思フ

○大森政府委員 中々困難ナ問題デアリマシテ、御答ヲスルノニ洵ニ困難ニ存ズルノデアリマス、登記申請者ニ公告ノ間違ニ依ル責任ヲ負ハセルト云フコトハ、是ハ確ニ考慮ノ餘地ガアルト思フノデアリマス、ソレハ公告ハ登記申請人ガスルモノデハナク、登記官吏ガスルノデアリマス、登記官吏ノ責ヲ登記申請人ニ持ッテ行クト云フコトハ、是ハ宜クナイコトデハナイカト存ズルノデアリマス、然ラバ其公告ノ誤リノ責任ヲ何處ヘ持ッテ行クカ、登記官吏ノ誤リデアリマスナラバ、登記官吏ノ責ニ歸セシムルコトハ、蓋シ當然ドラウト思フノデアリマス、其問題ニナリマスルト、先程御指摘ノヤウニ、登記官吏ハ輕過失ヲ負ハナイデハナイカ、斯ウ云フ御非難ハ確ニアリ得ルノデアリマス、是ハ登記官吏ノ損害賠償責任ノ一般ニ付テノ問題トシテ、考慮ヲ要スルコトダト存ジマス、併シ是ハ登記公告ニ關スル商法ノ規定ニ付テノ問題デアリマ



セヌ、併シソレダカラト云ツテ、登記官吏ノ損害賠償責任ニ付テ考慮ヲ拂フコトヲ、吾々ハ惜ム者デアリマセヌ、問題ハ其點ニ於テ研究ヲ要スル所デハナйкаト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 ドウモ結局議論ニ相成リマスノデ、モウ私ト致シマシテハ是以上多クヲ申上ゲマセヌガ、其事ニ依ッテ第三者保護ノ規定デアルト云フ法ノ精神ニ悖ルデハナйкаト云フ點ニ付テ、少シモ納得スルコトノ出來スコトヲ甚ダ遺憾ト致シマス、寧ろ甚ダドウモ不可解ナ規定デハゴザイマスケレドモ、元ノ法律ガ其點ニ於テハ味ヲ殘シテ宜イデハナイカ、斯ウ考ヘラレル點モアルノデゴザイマスガ、ドウデセウカ、元ノ規定ニサウ云フ所ニ少シ味ヲ殘シテ居ルト云フ意味ハナイデセウカ

○大森政府委員 甚ダ御言葉ニ反スルヤウデ恐縮デアリマスガ、少クモ此改正案ノ規定ト元ノ規定トヲ較ベマス、元ノ規定ガ第三者保護ニ付テ大イニ缺ケテ居ルト云フコトダケハ明ニ言ヘルデアラウト思ヒマス、公告ヲ信ジテ取引ヲシマシタ、併シ其公告ガ登記ト間違ッテ居リマスル場合ニ、當然對抗力ヲ持ツノデアリマスカラ、登記一本ダケデ物ヲ言フノデアリマスカラ、現行法ノ

下ニ於テハ登記ノミヲ信ジタ第三者ノ非違ハ、甚ダ薄弱ノモノデアリマシテ、其點ニ於テ少クモ第三者ノ保護ヲ圖ツタノガ、此改正案ノ規定デアリマス、此改正案ノ規定ガ完璧デアルカ否カハ疑問デアルト致シマシテモ、現行法ヨリハ第三者ノ保護ノ見地ニ於テ遙ニ進ンデ居ルデハナйкаト云フコトダケハ、言ヘルノデハナйкаト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 率直ニ申上ゲマスガ、是ハ成程登記ガナケレバ公告ガナイト云ツタヤウナ純理論カラ申上ゲマス、當ヲ得ナイカモ知レマセヌケレドモ、第三者保護ノ規定ト致シマスナラバ、公告ヲ見タ人ハ公告ニ依ッテ、登記ヲ見タ人ハ登記ニ依ッテ、之ヲ保護スルト云フコトニザツクバラニ出タ方ガ宜イデハナイカ、理論ノ通ラナイコトハ、對抗スルコトヲ得ズト云フ規定ヲ純理論的ニ解釋致シマス際ニ、常ニ出テ來ル難問題デゴザイマス、常ニアルヤラナイヤラサツパリ分ラヌ、理論カラ行ケバドウニデモナルト云ツタヤウナ問題ハ、法律ノ隨所ニ出テ來ル問題デゴザイマシテ、理論ガ通ラヌカラト仰シヤイマシテ、理論ダケヲ立テヨウト致シマス、ドウモ難關ニ打突カッテ來ル、寧ろ第三者保護ノ趣旨カラ申

上ゲマスナラバ、公告ヲ見タ人ニ付テハ公告ニ依レ、登記ヲ見テ取引ヲ致シマス人ニハソレデモ宜イデヤナイカ、實際只今局長ノ仰シヤッテ居ラレマシタ如ク、登記ヲ見ニ行クヤウナ、ソシナ篤志家ハ少イ、公告ヲ主トシテ見ル、公告ヲ信ジテ實際取引ヲスル、斯ウ仰シヤッテ居ラレマシヤウニ、寧ろ實際社會的存在ト致シマシテハ、登記ヨリモ公告ノ方ニ重キヲ置カレテ居ルト見シケレバナリマセヌ、サウダト致シマスナラバ、其公告ヲ見テ取引ヲ致シマス人ガ大多數デアル、其大多數ノ人ヲ保護シヨウト云フ趣旨ナラバ、其公告ヲ見マシタ人ヲ保護シ、公告ニ從ッテ取引ヲ致シマシタ人ヲ其通り保護シテ參リマスコトガ、本當ノ精神ニ合フノデヤナカラウカ、斯様ニ私ハ考ヘルノデゴザイマスガ、モウ一度承ッテ見タイト思ヒマス

○大森政府委員 兎ニ角問題ガ公告ト登記トガ間違ッテ居ルト云フ甚ダ望マシカラザル場合ニ付テデアリマスカラ、考ヘテ見マスト種々面倒ナ問題ガ起リ得ルノデアリマス、併ナガラ今御述べニナリマシタ登記ヲ見タ者ガ登記ニ付テ效力ヲ持ツ、又公告ヲ見タ者ハ公告ニ付テ其效力ヲ持ツ、登記ト公告トバラ／＼ニシテ考ヘテ見タナラバド

ウカ、斯ウ云フ御意見デアリマシタガ、是レ亦甚ダ御言葉ヲ返スヤウデ恐入リマスガ、一ツノ事實カラ二ツノ結果ヲ生ズルト云フコトハ望マシクナイノデアリマス、左様ナコトノナイヤウニ登記公告ノ制度ガ設ケラレタノデアラウト思フノデアリマス、デスカラ登記ヲ見タ者ハ登記ニ依リ、公告ヲ見タ者ハ公告ニ依ルト云フコトハ、吾々ト致シマシテハ御賛同致シ兼ねルノデアリマス、唯ドチラカ間違ッテ居ルノデアリマスカラ、此間違ヲ一緒ニシヨウト云フ所ニ苦ミガアルノデアリマシテ、左様ナ諸點ヲ考慮致シマシテ、第十一條ノヤウナ結果ニ致シタ次第デアリマス

○佐竹委員 結局第三者保護ノ趣旨ニ付テハ満足スルコトガ出來マセヌガ、ソレデハ其次ノ十二條ノ關係ヲ唯一言御尋ヲ致シタイノデアリマス、知ラザリシ第三者保護ノ規定デゴザイマスガ、寧ろ法ノ安定性カラ申シマスルナラバ、是ハ逆ニ考ヘルコトモ出來ルト考ヘマス「登記及公告ノ後ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ」此規定ハ實際ノ適用モ少イシ、殆ド其適用ヲ見タコトモナイコトデアル、又實際登記ガ行ハレ、サウシテ其公告ガ間違ヒナクセラレマシタ時ニハ、是ハモ

ウ知ルト知ラザルトニ拘ラズ、之ニ準據スルト云ツクヤウナ一ツノ制度ト申シマス、カ、之ヲ生カス爲ニハ、所謂法ニ安定性ヲ持タセル爲ニハ寧ロ此點削ツテシマツヘドシナモノデアルカ、之ニ依ッテ弊害ヲ生ズル虞ガアルデゴザイマセウカ

○大森政府委員 此點ニ付テハ先程モ申述ベマシタ通り、登記ノ安定ト云フコトニ非常ニ力ヲ注ギマスルナラバ、第十二條ノ後段ハ寧ロ削除シタ方ガ宜イデアリマセウ、御説ノ通りデアリマセウ、併ナガラ第三者ガ本當ニ所謂正當ノ理由ニ依ッテ知ラナイ場合ニ、之ヲヤハリ保護シテヤツタ方ガ宜クハナイカ、又斯様ナ規定ガアリマスルガ爲ニ、登記ノ安定性ヲヒドク亂サレマスルナラバ、是ハ此點デ考ヘナケレバナリマセヌデセウケレドモ、從來ノ運用ノ實績ニ考ヘテ見マスト、之ガ爲ニ登記ノ安定性ヲ亂サレタトハ存ジナイノデアリマス、果シテ左様ナラバ登記ノ安定性ガ實際ニ於テ亂サレル、又第三者ガ斯様ナ場合ガ果シテ眞ニア

ルナラバ保護シ得ルノデアリマスカラ、所謂一舉兩得デアリマシテ、兩方ノ利害ノ調整ガ圖ラレル譯デアリマス、左様ナ關係カラ致シマシテ御承知ノ是ハ現行規定ノ儘デアリマスガ、其規定デ弊害ナシト考ヘマシ

テ、其儘存シテ置イタ次第デアリマス

○佐竹委員 十四條ノ關係ヲ一言御尋致シマス「善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ」ト云フ此對抗スルコトヲ得ズト云フ規定ガ、常ニ難問題ヲ生ズルノデアリマスガ、七條ニモゴザイマス、二十四條ニモアリマスガ、一層是ハハッキリト、例ヘバ登記ヲ以テ法律行爲ノ成立ノ要件トスル、或ハ權利發生ノ要件トスル、或ハ十四條ニ於テ申上ゲマスルナラバ、故意又ハ過失ニ因ッテ不實ノ登記ヲ爲シタル者ハ其文言ノ通りノ責任ヲ負フトカ云フ工合ニ、明確ナ規定ヲスルコトガ出來スノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 御尤ノ御意見デアリマス、此登記ニ付テ御承知ノ通り我が民事訴訟法ハ、一般的ニハ對抗力主義ヲ採ッテ居リマス、尤モ此對抗力主義デ工合ガ悪い所モアリマシテ、例ヘバ此改正案ノ會社ノ設立ニハ、設立登記ヲ以テ必要ノ要件ト致シテ居リマス、丁度左様ニ御説ノ通りニ改メタ所モアリマスケレドモ、其他ノ部分ニ付キマシテハ、ヤハリ私法一般ノ大體ノ原則ト致シマシテ對抗問題デ來テ居リマスカラ、ソレデヤハリ對抗問題ハ左程ノ弊害ノナイ限り之ヲ維持シタ方ガ宜クハナイカ、商法ノ種々ノ規定ノ關係、民法トノ規定ノ關係

カラ、ヤハリ對抗力維持ニ吾々ハ進ンデ居ルノデアリマス、然ラバ對抗力ト云フコトニスルガ爲ニ、解釋上疑義ガ非常ニ生ジハシナイカ、成程御説ノ通り之ヲ成立要件ニ致シマスルヨリハ、對抗要件ノ方ガ面倒ノ問題ガ起リ易イノデアリマス、併ナガラ御承知ノ通り民法商法ガ既ニ適用サレマシテカラ、數十年ヲ經テ居ルノデアリマスルカラ、先ヅ大體ニ於テ此點カラ簇生シマスル疑問ハ、運用上ニ於テハ解決サレタト云ッテモ大過ガナイノデヤナイカト思フノデアリマス、デアリマスルカラ、此系統ヲ案ラナイヤウニ、ヤハリ多クノ場合ニ於テ對抗力ト云フコトニシテ、此法案モ進ンデ居ルノデアリマス

○野村委員長 第三章ニ付キマシテ他ニ御質疑ガナケレバ、第四章ニ移リマス

○仲井間委員 一寸簡單デスカラ——唯一點御伺致シタイノハ、十一條ノ第二項ヲ蒸返スヤウデアリマスガ、此「公告ナカリシモノト看做ス」ト云フ法律效果ハ、ソレデ私共ハ宜イト思フノデアリマスガ、此法律效果ガ「公告ナカリシモノ」ト同様ニナリマスルコトト、ソレヨリ、公告ヲ間違ッタ爲ニ損害ヲ受ケル方面ニ對シテ、其損害ヲ賠償スルコトト

ハ、別箇ノ關係トシテ、觀念トシテ取扱ッテ然ルベキデヤナイカト思フ、是ハ此儘デ宜イノデスガ、登記官吏ガ誤ッタ爲ニ損害ヲ受ケル場合ガ豫想サレル、其場合ニハ民法ノ規定ニ依ッテ損害賠償ヲシヨウトシテモ出來ナイ、又今御紹介ニナリマシタ登記官吏ノ責任ニ付キマシテモ、出來ナイト考ヘル、登記官吏ガ其職務ヲ執行スルニ當ッテ、申請人ニ對シテ損害ヲ與ヘタ場合デアリマスカラ、此場合デモ規定ガ適用出來マセヌ、又申請人ニ對シテモ、營業者ニ對シテモ、故意過失ガナイ譯デアリマスカラ、損害賠償ノ規定ノ請求ハ出來ナイ、單リ其公告ヲ信ジテ取引ヲシタ人ノミガ、詰リ損害ヲ受ケテ責任ヲ負フト云フコトニナツテ居リマス、ソレヲ商法ニ於テ救済スル方法ハナイカ、第二項ノ規定ハソレデ宜イ、法律效果ハスクアラシメテモ宜イノデアリマスガ、其損害ヲ何トカ救済スル方法ヲ、別ニ考慮サレル方法ハナイモノデセウカト云フ點デアリマス

○大森政府委員 其點ハ先程佐竹委員ノ御尋ニ牽聯シテ申述ベタ所デアリマシテ、公告ヲ間違ヘタ場合ニ、登記官吏ガ故意又ハ重大ナル過失ガアリマスルナラバ、此公告ヲ信ジタ人ニ對シテモ、現行法デモ損害賠償ノ責任ハアルト存ズルノデアリマス、是

ハ不動産登記法第十三條ニ申請人其他ノ者ニ對シテトアリマスルカラ、ソコマデハ間違ナイダラウト思フノデアリマス、唯問題ハ今モ御指摘ニナリマシタ通り、ソレデハ輕過失ガ除カレテ居ルデハナイカ、斯ウ云フ問題ダケハ殘ルノデアリマス、是ハ商法ノ問題トハ全然別箇ノ問題デアリマスケレドモ、研究ヲ要スル所デアルト思フノデアリマス、併シ是ハ登記官吏ノ責任一般ニ付テノ問題デアリマシテ、商法ニ規定スベキ事柄デハナイノデアリマス、商法以外ノ問題トシテ吾々ハ研究シタイト云フコトヲ、先程カラ申述ベテ居ッタノデアリマス

○仲井間委員 詰リ無過失損害賠償デアリマス、斯ノ如キ法律現象、社會現象ガ起ツタ場合ニ、ソレヲ信ジテ取引ヲ爲シタ者ニ對スル何等カノ社會的救済ガナケレバナラス、斯ウ云フ場合ニ、詰リ無過失損害賠償——其公告ヲ爲ス側ノ利益アル場合ニハ利益ヲ取得スル、他ニ損害ヲ與フレバソレニ對スル賠償ヲ與ヘル、斯ウ云フ觀念ガ進ンダ商法ノ觀念トシテ用ヒラレル譯ニ行カスモノデスカ

○大森政府委員 御説ノヤウナ場合ニ、商法上無過失損害賠償ノ規定ヲ設ケマスコトハ、現在ノ程度ニ於テハ大ニ考慮ヲ要スル

コトダト思ヒマス、私共ハ現在ノ程度デサウシロト言ハレマスルナラバ、蓋シ躊躇セザルヲ得ナイト思フノデアリマス、併シ無過失損害賠償ノ問題ハ、總テノ方面ニ對シテ再檢討ヲ要スルコトト存ジマス、恐ラクハ今御指摘ノ場合ハ別ト致シマシテモ、無過失損害賠償ノ事由ヲ大ニ殖サナケレバナラナイト云フコトダケハ御同感デアリマス、ソレ等モ他ノ問題ニ牽聯シテ、一層ノ研究ヲ致シタイト存ジテ居リマス

○一松委員 今ノ大森局長ノ御説能ク分リマシタガ、不動産登記法ノ第十三條ハ、不動産登記ニ關スル登記官吏ノ責任デスガ、是ハ商法上ノ登記ニ付テ、何カ登記官吏ノ責任ニ付テモ準用ガアリマスカ

○大森政府委員 非訟事件手續法ノ第五百十七條ニ準用規定ガアリマスカラ、丁度今ノ問題ニモ支配ヲ及ボシテ居ル譯デアリマスカ

○野村委員長 是ニテ休憩ヲ致シマス、午後一時半カラ開會致シマス

午後零時四十分休憩

午後二時開議

○野村委員長 ソレデハ是カラ開會致シマス、第四章商號

○大森政府委員 第四章商號ニ付キマシテ

ハ後ニ申上ゲマスル通り、營業讓渡後ノ關係ニ付キマシテ第三者ヲ保護スル爲メ、多少適當ナル規定ヲ以テ補充ヲ致シタノデアリマス、其以外ニハ別ニ重大ナル改正モアリマセス、尤モ不正ノ目的ヲ以テスル商號ニ付テ一ツノ制限ノ規定ヲ設ケマシタ、先ヅ順序ニ從ッテ申述ベテ參リマスルト、第十八條ノ第二項デアリマス、是ハ過料ノ最高限度ヲ殖ヤシタノデアリマス、御承知ノ通り

現行法ニ依リマス、五圓以上五十圓以下ノ過料ニナッテ居リマスルガ、是ハ御承知ノ通りニ明治三十二年當時ノ法律デアリマシテ今日ノ他ノ刑罰法規ト權衡ヲ甚シク失シテ居ルノデアリマス、デアリマスルカラ千圓以下ト致シマシテ、尙ホ五圓以上ト云フ最小限度ヲ實行法ハ規定シテ居ッタノデアリマスカレドモ、是モ他ノ例ニ準ジマシテ別ニ最小限度ノ規定ヲ置クノ必要ガナイト存ジタノデアリマス、第二十一條ト第二十二條ガ、先程申述ベマシタ商號ノ使用ニ付テ一ツノ新ナル制限規定デアリマシテ、是ハ新設ニ係ルモノデアリマス、御承知ノ通りニ現行法ハ、商號ヲ使用スルコトニ付テモ、全ク自由ナル態度ヲ以テ臨ンデ居リマス、即チ會社ハ格別デアリマスケレドモ、自然人ノ商人ニ付キマシテハ、商號ヲ用フ

ルモ可ナリ用ヒザルモ可ナリデアリマス、又之ヲ用ヒマシテモ其内容ニ付テ法律ハ何等制限ノ規定ヲ以テ臨ンデ居ナイノデアリマス、其點ハ此案ニ付キマシテモ、ヤハリ同様デアリマスケレドモ、唯一ツ不正ノ目的デ他人ノ營業ナリト誤解セシムベキ商號ノ使用ニ付テハ、是ハ斷乎トシテ禁遏スル必要ガアルノデアリマス、例ヘバ私自身ノ營業デアリマスルニモ拘ラズ、即チ大森ノ營業デアリカノ如キ商號ヲ用ヒマス、其中森ト云フノハ非常ニ信用ガアッテ、而モ中森ノ商號ナリト第三者ガ誤認シマスルナラバ、其中森ノ迷惑ハ重大デアリマスノミナラズ、之ニ依ッテ第三者ニ不測ノ損害ヲ來スノデアリマス、又左様ナ不正ナ商號ヲ用フルコト自身ガ、今日吾々ガ考ヘマシテ當然許スベカラザルコトデアリマスルカラ、ソレヲ禁遏スルノ規定ヲ設ケタノデアリマス、即チ第二十一條第一項ニ於キマシテ左様ナ商號ノ使用ガ罷成ラナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第二項ハソレニ違反シテ斯様ナ商號ヲ使用スル者ガアリマスルナラバ、ソレニ依ッテ利益ヲ害セラル、虞ノアル者ハ、其使用禁止ノ請求モ出來ルシ、又勿論損害賠償ノ請求モ出來ルノダト云フコトヲ明ニ致シ

マシタ、第二十二條ハ其規定ヲ承ケマシテ、左様ナ商號ノ使用者ニ對シテ過料ノ制裁ヲ附シタノデアリマス、此過料ノ額ハ第十八條第二項ニ於テ變更シタト同様ニ、千圓以下ニ致シテアルノデアリマス、第二十三條ハ之ニ似テ非ナル規定デアリマスルガ、ヤハリ第三者保護ノ見地カラ立案サレタモノデアリマス、即チ「自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ他人ニ許諾シタル者ハ自己ヲ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲シタル者ニ對シテ其ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付其ノ他人ト連帶シテ辨濟ノ責ニ任ズ」是亦新設ノ規定デアリマス、即チ甲ガ乙ニ對シテ俺ノ名前ヲ使ッデモ宜イト云フコトヲ許シタ場合ニ、乙ガ甲ノ名前ヲ使用シテ、營業ヲ致シマス、其場合ニ第三者ガ甲ノ營業ナリト信ジテ取引ヲシタ、斯様な場合ニハ、其營業ノ本體ハ乙デアリマスカラ、乙ニ對シテ請求シ得ルコトハ勿論デアリマスケレドモ、名前ヲ貸シタ甲モ責任ヲ免レナイノデアッテ、要スルニ其相手方ハ甲又ハ乙ニ對シテ請求ガ出來ルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、第二十四條ハ商號ハ營業ト共ニスル場合、又ハ營業ヲ廢止スル場合ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ルト云フコトニ致シマシタ、御承知ノ通りニ現行法デハ、營

業ヲ離レテ商號ノミ讓渡スル場合ノアルコトヲ豫想シテ規定ヲシテ居ルノデアリマス、即チ現行法ノ第二十二條、第二十三條ニ依リマスルト、營業ト共ニ商號ヲ讓渡スル場合モアレバ、營業ハ自分デ持ッテ居ッテ、商號ダケヲ離シテ讓渡スル場合ガアルカノ如キ規定ヲシテ居ルノデアリマス、然ルニ之ヲ實際ニ徴シマスルノニ、營業カラ別レテ商號ダケヲ分離獨立シテ之ヲ讓渡スルト云フコトハ、想像シ得ナイノデアリマス、事實ニ於テナイノデアリマス、又左様ナコトガアルヤウニ前提シテ法律ノ規定ヲ設クルコトハ適當デナイノデアリマシテ、即チ其點ヲ此案ノ第二十四條第一項デ變更シタノデアリマス、即チ營業ト共ニスル場合カ、サモナケレバ營業ヲ廢止スル場合デナケレバ、商號ノ讓渡ハアリ得ナイト云フコトニ、明ニ規定ヲシタノデアリマス、第二十四條ノ第二項ハ是ハ現行法ト同様デアリマシテ、商號ノ讓渡ハ登記ヲシテ、ソレデ對抗要件ヲ具備スルノダト云フコトヲ明ニ致シマシタ、是ハ御承知ノ通りニ現行法デモ、亦此案デモ登記ダケデ對抗スルノデアリマシテ、此場合ニハ公告ハ對抗要件ニハナッテ居ナイノデアリマス、第二十五條ニ付キマシテモ小改正ガアッタノデアリマス、

ソレハ此營業ヲ爲シ得ザル區域ニ付テ稍、之ヲ擴張シタノデアリマス、御承知ノ通りニ現行法ニ依リマスルト、讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズト云フコトニ、其第一項デ明ニサレテ居ルノデアリマス、併シ今日ノ交通状態カラ考ヘテ見マシテ、同市町村内ダケデ出來ナイト云フノデハ不十分ダト考ヘマシテ、然ラバドノ範圍マデ之ヲ擴張スルカト云フ程度ノ問題モ伴ヒマスルガ、私共ノ考ヘマシタ結果ハ、同市町村内ト之ニ隣接スル市町村内デハ、或ル期間内同一ノ營業ガ出來ナイ、斯ウ云フコトニ致シマシテ、結局隣接市町村内ダケヲ擴メタノデアリマス、是ハ隣接ノ關係デアリマスルカラ、必シモ距離ノ遠近ニハ一致シナイノデアリマス、理想的ニ申シマスレバ、其店カラ何里セウケレドモ左様ナコトノ關係ハ、第三者ニハ能ク分リマセスカラ、ヤハリ行政區劃ニ從ヒマシテ、同市町村及隣接市町村内ト云フ制限ガ適當デアラウと思ッタノデアリマス、第二項モヤハリ、ソレト同趣旨デアリマシテ、現行法ヲ擴張シタノデアリマス、現行法ニ依リマスルト「同府縣内デ三十年ヲ超エサル範圍」云々トナッテ居リマス、之ヲヤ

ハリ第一項ノ趣旨ト同様ニ擴張致シマシテ、同府縣ト隣接府縣ト云フコトニ致シマシタ、詰リ隣接府縣ト云フモノヲ加ヘタノデアリマス、尙ホ此序デニ甚ダ幼稚ナコトヲ申述ベテ恐縮デアリマスガ、此隣接ト、云フノハ、例ヘバ海ヲ越エマシタ隣、青森縣カラ北海道ト云フヤウナノハ隣接ト云フ意味ニハ解釋ヲシナイノデアリマシテ、左様ナモノヲ隣接トハ爲サザル趣旨ニ於テ、此規定ヲ設ケタノデアリマス、第二十六條以下第二十九條マデハ、營業讓渡ニ伴ヒマシテ第三者ノ權益ヲ保護スル關係カラ、新ニ設ケラレタ所ノ規定デアリマシテ、第二十六條ハ「營業ヲ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用スル場合ニ於テハ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓受人モ亦其ノ辨濟ノ責ニ任ズ」是ガ第一項デアリマス、詰リ營業ノ讓渡ガ當事者間ニアリマシテモ、其事ガ第三者ニハ能ク分ラナイト云フコトガ有リ得ルノデアリマス、況シテヤ營業ノ讓受人ハ營業ノ讓渡人ノ商號ヲ用ヒルト云フ場合ナドニ付テ考ヘテ見マスルト、第三者ハ營業讓渡ノアッタコトガ殆ド全ク分ラナイノデアリマス、例ヘバ同ジ伊勢屋ト云フ商號ヲ用ヒテ、サウシテ讓渡人ノ營業ヲ讓受人ガヤッテ居リマス、此伊勢屋ト云フノハ依然

トシテ前ノモノデアラウト思フコトハ、蓋シ當然デアルカモ知レマセヌ、デアリマスカラ、左様ナ場合ニハ譲渡人ノ營業上ノ債務ニ付テハ譲受人モ其辨濟ノ責ニ任ズルノデアルト云フコトニ致シマシテ、第三者ヲ保護シタノデアリマス、併シ之ニハ必要ナル緩和の規定ヲ附加スルコトヲ相當ト存ジマス、即チ「前項ノ規定ハ營業譲渡後遲滞ナク譲受人ガ譲渡人ノ債務ニ付責ニ任ゼサル旨ヲ登記シタル場合ニハ之ヲ適用セズ」營業ノ譲渡後遲滞ナク譲渡人及譲受人ヨリ第三者ニ對シ其旨ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル第三者ニ付亦同ジ」詰リ是ハ譲渡人ノ債務ニ付テ責ヲ負ハナイト云フ旨ヲ登記シタト云フヤウナ場合ニハ、此登記ニ依ッテ先ヅ其事實ヲ知り得ベキデアリマスカラ、斯様ナ場合ニハ第一項ノ規定ハ適用シナイト云フコトニ致シマシタ、又登記ヲシマセヌ場合デモ、營業ノ譲渡後遲滞ナク營業譲渡ノ當事者雙方カラ、自分達ガ營業ノ譲渡ヲ致シタケレドモ、譲受人ガ譲渡人ノ債務ニ付キ責ヲ負ハナイノダト通知シタ場合ハ、其通知ヲ受ケタ第三者ニ付キマシテハ、第一項ノ規定ヲ適用シナイ、斯ウ云フコトニ致シマシテ、サウシテ第二

項ノ登記ニ付キマシテハ、是ハ此法案ニ依ッテ初メテ生ズル登記ノ事由デアリマス、デアリマスカラ、後ニ非訟事件手續法ニ此登記ノ手續ヲ新ニ規定スル必要ガアルノデアリマス、第二十七條ハ「前條第一項ノ場合ニ於テ譲渡人營業ニ因リテ生ジタル債權ニ付譲受人ニ爲シタル辨濟ガ辨濟者善意ニシテ且重大ナル過失ナカリシトキニ限り其ノ效力ヲ有ス」ト云フコトヲ規定シタノデアリマス、前條即チ第二十六條ハ第三者ガ權利者デアアル場合デアリマスルガ

〔委員長退席、石坂委員長代理著席〕

此第二十七條ハ第三者ガ義務者デアアル場合デアリマス、即チ第三者ガ營業上ノ借金ヲシテ居ッタト云フヤウナ場合ニ、其辨濟ヲ譲受人ニ致シマシタ場合、其辨濟者ガ善意デアッテ且重大ナル過失ガアリマセヌケレバ、是ハ譲渡人ニ完全ナル辨濟ヲシタト同様ノ效力ヲ持ツト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、是亦營業譲渡ノアリマシタ場合ニ、營業譲渡ガアツカカナツカカ分リマセヌカラ、間違ヘテ譲受人ニ拂ツタト云フヤウナ場合ニ、其辨濟ノ效力ヲ確保スル所ノ規定デアリマス、第二十八條ハ「營業ノ譲受人ガ譲渡人ノ商號ヲ續用セザル場合ニ於テモ譲渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ヲ引受クル旨

ヲ廣告シタルトキハ債權者ハ其ノ譲受人ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得」是亦蓋シ當然ノ規定ダト存ズルノデアリマス、商號續用ノ問題ヲ生ゼザル場合ニ於キマシテ、譲受人ガ譲渡人ノ營業ニ依ッテ生ジタル債務ヲ引受ケルト云フコトヲ廣告致シマシタナラバ、其廣告ノ趣旨ニ從ヒマシテ責ヲ負ハシメルノガ當然ノコトデアラウト存ズルノデアリマス、サウシテ斯様ナ債務引受ノ廣告ト云フコトハ營業譲渡ニ當リマシテ、多ク其事例ヲ見ル所デアリマス、左様ナ場合ニ生ズル事例ニ付テ、其債務引受ノ效力ヲ法律ニ明ニスルコトハ必要デアラウト察セラル、次第デアリマス、第二十九條ハ「營業ノ譲受人ガ第二十六條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ譲渡人ノ債務ニ付責ニ任ズル場合ニ於テハ譲渡人ノ責任ハ營業ノ譲渡又ハ前條ノ廣告ノ後二年内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サル債權者ニ對シテハ、二年ヲ經過シタルトキ消滅ス」ト云フコトヲ規定シタノデアリマス、是ハ先程來述ベテ居リマスル譲渡人ノ責ハ、之ヲ餘リニ長ク譲渡人ニ負擔セシムルト云フコトハ酷ニ失スルノデアリマス、第三者ヲ保護スルニ足ル必要ナル限度ニ於テ、之ヲ負擔セシメレバ宜イノデアリマシテ、隨テ茲ニ明ニナッテ居リ

マスルヤウナ其責任ノ消滅期間ヲ規定シタノデアリマス、詰リ緩和的ノ規定デアリマス、此中ニ「二年内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サル」云々ト規定ヲ致シマシタ其請求ノ豫告ト云フ義務ハ、マダ辨濟期ガ來テ居ナイカラ本當ノ請求ハ出來ナイケレドモ、併シ二年ノ期間ガ經過シテシマフト困ルヤウナコトガアルカモ知レナイノデ、サウ云フヤウナ場合ヲ豫想致シマシテ、請求ノ豫告ト云フコトヲ書加ヘタ次第デアリマス、ソレカラ此案デハ、ソレ以外ニ別ニ加ツコトハナイノデアリマスガ、一ツ御承知置キラ願ヒタイノハ、現行法ノ第二十四條ノ第二項デアリマス、之ニ依リマスルト、前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラバ其期間内ニ之ヲ申立ツベキ旨ヲ催告シ、若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要スト云フ趣旨ノ規定ガアルノデアリマス、然ルニ此規定ハ非訟事件手續法ノ第一百五十一條ノ二以下ノ規定ト全ク重複ヲシテ居ルノデアリマス、何ガ故ニ重複ヲ致シマシタカ、實ハ今日カラ遡リマシテ能ク分ラナイノデアリマスルガ、恐ラクハ甚ダ御恥シイ御話デアリマスガ、不用意ニ兩方ニ顔ヲ出シタノデハナイカト思フノデ

アリマス、デアリマスカラ、此際ドチラ  
カ一ツヲ消シテ整理ヲシタ方ガ宜イノデア  
リマス、商法カラ之ヲ除クベキカ、非訟事  
件手續法カラ之ヲ除クベキカト云フ問題ニ  
ナリマスルト、此點ハ事柄ノ性質上、非訟  
事件手續法ニ關シマスカラ、非訟事件手續  
法ノ方ヲ殘シテ、商法カラ之ヲ削除シタ方  
ガ宜イト考ヘマス、隨テ此章ニ於キマシテ  
ハ、現行規定ノ第二十四條第二項ニ當ルモ  
ノハ除カレテ居ルノデアリマス、左様ニ御  
諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○佐竹委員 第十八條ノ一項末段ノ規定ハ、  
是ハ必要デナイデハナイカト考ヘマスガ、  
如何デゴザイマセウ、詰リ「會社ニ非ズシテ  
商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用  
フルコトヲ得ズ」是デ以テ「會社」ノ營業ヲ讓受  
ケタルトキト雖モ」ト申シマセズトモ、有ユ  
ル場合ニ適用サレマスノデ、別ニ此末段ノ  
規定ハ必要ナイデハナイカト云フ疑問ガ起  
リマスガ、如何デアリマスカ

○大森政府委員 洵ニ御尤ノ御意見ト存ズ  
ルノデアリマス、是ガ假令アリマセズデモ、  
結局ソレデ困ルヤウナコトハナイデアリマ  
セウケレドモ、念ノ爲ニ此規定ガ置カレタ  
ト存ズルノデアリマシテ、即チ會社ノ營業  
ヲ會社以外ノ者、假ヘバ自然人ガ讓受ケル、

併シ營業ヲ讓受ケタノデアルカラ依然トシ  
テ會社ノ商號ヲ用ヒテモ宜クハナイカ、斯  
ウ云フ誤解ガ起ルカモ知レマセスカラ、其  
誤解ヲ一掃スル爲ニ置カレタ規定ト存ズル  
ノデアリマス、左様ナ誤解ハ毛頭必要ハナ  
イノダト言ヘバソレ迄デアリマスガ、謂ハハ  
先ヅ親切ナ規定デアラウト存ズルノデア  
リマス、デアリマスカラヤハリ是ハ現行法  
ノ通り踏襲シタ方ガ宜イト考ヘマス、是ガ  
ナイ場合ニ異ナル解釋ガ起ルカト云フト、  
必ズシモサウデナイト存ジマスケレドモ、  
今申シマス通り念ノ爲ノ規定デスカラ、ヤ  
ハリ其儘存置シタ、斯様ニ御諒承ヲ願ヒタ  
イノデアリマス

○佐竹委員 同條ノ第二項ニ「千圓以下ノ  
過料ニ處ス」トアリマス、其次ノ二十二條  
ヘ參リマシテ同ジク罰則ノ規定ガアリマス、  
此罰則ノ規定ガ茲ニアリマスコトハ、此法  
文ヲ開イテ直チニ奇異ノ感ジガ致シマス、  
商法ノ體裁ノ上カラ申シマシテモ、罰則ハ  
別ニ纏メテ第何條ニ違反スルトキハ罰金乃至  
ハ過料ニ處スト云ツクヤウナ規定ヲ他ニ設  
ケテ居リマスコトガ寧ロ通例デアリマス、然  
ルニ商法ヲ開イテ參リマシテ、頭ヘ以テ行ッ  
テ最初ノ方ニ此過料ナント云フ規定ガ出テ  
參リマスノデ、非常ニ奇異ノ感ガ致スノデ

ゴザイマスガ、是ハ斯様ニ規定スベキ何カ  
理由ガアッタノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 成程御説ノ通り、會社編  
ニ付キマシテハ罰則ガ後ニ一團トナッテ居  
リマシテ、ソコニ總テノ罰則ヲ網羅シテ居  
ルノデアリマス、是ハ會社編ニハ御覽ノ通  
リニ罰則ノ規定ガ多イモノデアリマスルカ  
ラ、之ヲ其各本條ニ散在セシメタノデハ能ク  
分リマセスカラ、其明確ヲ期スル關係上一箇  
所ニ集メタノデアリマス、然ルニ會社以外  
ノ部分、即チ總則ニ付キマシテハ罰則ノ規  
定ハ僅ニ二箇條ヨリナイノデアリマス、之  
ヲ總則ノ後ニ一箇所ニ集メマスコトハ、決  
シテ惡クハナイノデアリマス、或ハ其方ガ  
結構デアアルカモ知レマセスケレドモ、タツタ  
二箇條デアリマスカラ、各本條ニソレソレ  
配置シテ置イタ方ガ、寧ロ明確デハナイカ  
ト考ヘタダケデアリマシテ、其體裁上ノ問  
題、運用上ノ便宜ノ問題、ソレ以外ニ何等  
理由ハナイノデアリマス

○佐竹委員 次デ第十九條デゴザイマスガ、  
之ニ違反ヲ致シマシテ、登記ヲシタ場合ハ  
如何デゴザイマセウカ、或ハナイト仰シヤ  
ルカモ知レマセスガ、「他人ガ登記シタル商  
號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ之  
ヲ登記スルコトヲ得ズ」トアリマス、例ヘ

バ東京市ノ如キ廣イ都市ニ於キマシテ、麴  
町ニ於テ營業ヲ致シテ居リマス場合、或ハ  
淺草ノ方ニ於テ營業ヲ致シテ居リマス場合、  
是ガ登記ヲ扱ヒマス方ニ於キマシテモ、隨  
分澤山ナ登記ヲ扱ヒマスコトデゴザイマス  
カラ、或ハ重複シテ登記ヲシナイトモ限ラ  
ナイト思フノデアリマス、只今罰則ノコト  
デ申上ゲマシタヤウニ、第十八條ノ第二項  
トカ、第二十二條トカ云ツクヤウナ場合ニ  
ハ、其規定ガアリマスガ、此登記ノ根本原  
則デゴザイマス十九條ノ場合ニ、ツイ間違ッ  
テ登記デモ致シマシテ、其登記ガ原因ニナッ  
テ迷惑ヲ掛ケルヤウナコトガアツテモ、之ヲ  
取締ル必要ガナイト云フ風ニ聞エマスノデ  
ゴザイマスガ、之ニ付テ何カ適當ノ取締ヲ  
設クル必要ハナカツタデアリマセウカ

○大森政府委員 御指摘ノ第十九條ニ付キ  
マシテハ、罰則ノ規定ノナイコトハ御説明  
ノ通りデアリマス、併シ非訟事件手續法ニ  
於キマシテ其第五百十八條ニ、斯様ナモノ  
ガアルト云フコトガ明ニナリマスレバ、登  
記ヲシナイト云フコトニナッテ居リマス、又同  
法ノ第五百十一條ノ六ニ依リマシテ、ソレ  
ニモ拘ラズ迂ヅカリ受付ケマシタ場合ニ、  
其更正ガ出來ルト云フ規定ガアリマス、又  
同法ノ第六十四條、第六十五條ニ之ニ對

應スル規定ガアリマシテ、之ヲ要スルニ登記手續ノ上ニ於キマシテ、先ヅ遺漏ナキ規定ガ出来テ居リマスカラ、其上ニ罰則ヲ以テ臨ムニモ及バナイト存ジタ次第デアリマス、尙ホ固ヨリ御承知ノ點デアリマスルガ、東京市、京都市、大阪市、ソレカラ此案ニ更ニ加ハリマシタガ、ヤハリ同ジク御審議ヲ願ッテ居リマス商法中改正法律施行法案ノ第五條デアリマス、之ニ更ニ横濱市、神戸市、名古屋市ヲ加ヘマシテ、即チ此六大都市ニ於キマシテハ、第十九條等ノ規定ノ適用ノ關係ハ、各區ニナッテ居ル次第デアリマス

ルコトデハゴザイスマガ、請負人トノ契約ニ於テ、自分ハ請負人ト契約スルノダト云フ氣持デ契約ヲ取交シマス、所ガイザ請求ト云フコトニナリマス、ソレハ下請ノ責任デアルカラ自分ノ責任デハナイト斯ウ云フコトニナル、是ガ屢、訴訟ニナリマシテ、結局下請人ノ責任ダト云フコトニナッテ、物品ヲ販賣致シマシタ人、例ヘバ工事用ノ「セメント」鐵材ト云ッタヤウナ物ヲ供給致シタ人々ガ、屢、敗訴ノ判決ヲ受ケテ居ルコトヘ、頻々ト現レテ居ル、例ヘバ飛島組或ハ清水組、此使用人トモ見ラルベキ人々ガ參ッテ、飛島組配下甲野甲兵衛、斯ウ云フ名刺ヲ持ッテ參リマス、ソレハ普通常識カラ、配下ト云フノダカラ親分子分ノ關係デ、是ハ親分ノ仕事ヲ一切委任ヲ受ケテヤッテ居ル人ダト云ツタ風ニ考ヘマシテ——詰リ飛島組ト云フ商號ヲ用ヒテヤッテ居ルデアリマス、詰リ二十三條ニゴザイマス、自己ノ氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ許諾シタル者、之ニ該當スルヤウナ事態ガ實ハ出テ參ルデアリマシテ、其飛島組ノ重役モ、ヤハリ同一箇所ニテ仕事ヲ監督シテ居リシテ、飛島組配下甲野甲兵衛ト云フ名刺、或ハ封筒其他ノ文書ノ發受ヲ致シテ居ルコトヲ承認ヲ致シマシテ、其仕事ヲ進メテ居

リマス場合ニ、イザ訴訟ト云フコトニナリマス、ソレハ下請人ノヤッタコトデ自分ハ責任ガナイ、斯ウ言ッテ煎ジ詰メテ參リマシタ時ニ、證人ガ出テ參リマス、其工場ニ或ハ飯場ニ働イテ居リマシタ人々ハ、ロラ揃ヘテソレハ下請人ダト云フコトデ、之ニ供給致シマシタ數千圓、數万圓ノ金ガ遂ニ取レナクナッテシマフト云ッタヤウナ事態ハ、隨分澤山ニアル、ソレカラ隨分害毒ヲ流シテ居リマス、御承知ノ如ク元請ガ最初ニ天引的ニ、例ヘバ百万圓ノ請負工事デゴザイマス、二十万圓、三十万圓天引ヲサレテ、アトノ七十万圓デヤッテ行カレルカト云フコトニナルト、中々ヤッテ行ケナイ、ソコデ結局最後ニ拂ヘナイト云フコトニナルト、不拂デ夜逃ガスル者ヲ豫定シテ置ク、ソコデ結局ヤレナクナルト踏倒シテ置イテ逃ゲテシマフ、之ヲ押ヘテ訴訟ヲ起スト、是ハ元請人ニ、例ヘバ飛島組、清水組ニ訴訟ヲ起シマス、ソレハ下請人ノヤッタコトダカラ仕様ガナイ、ソレハ逃ゲタ者ノ責任ダト云ッタヤウナコトデ、隨分迷惑ヲ被ッテ居リマス事例ハ、非常ニ酷イコトガアリマス、斯ウ云フ場合ニ此二十三條ノ適用ガアルモノデゴザイマセウカ、若シナイモノト致シマスナラバ、サウ云フ場合ヲモ救

フヤウニ此規定ヲ持ッテ行クコトガ出来ナイモノデゴザイマセウカ、此點ヲ承リタイト思ヒマス

○大森政府委員 請負人、下請負人ノ關係ガ明確ヲ缺キマスルガ爲ニ、ソレデ第三者ニ迷惑ヲ及ボシタト云フ事例ハ、確ニ多イヤウニ私モ存ジテ居ルデアリマス、唯只今御指摘ノ事例ハ實際上ノ問題デアッタヤウデアリマシテ、或ハ今日爭ニナラントシツ、アルコトデアアルカモ知レナイデアリマス、左様ナ具體的事案ニ對シマシテ、茲デソレガ之ニ該當スルカ否ヤト云フコトヲ申述ベマスルノハ、差控ヘタイト存ズルデアリマス、唯併ナガラ何々組配下ト書キマシタ場合ニ、直チニ此案ノ二十三條ニ該當スルカ否カト云フコトハ、多少考慮ノ餘地デアリマス、若シ何々組ト云フ名前ヲ使用スルコトヲ許諾致シマシタ場合ハ、差當リ二十三條ニ該當スル、唯實際上ノ關係ニ於テ配下ト云フ文字ガ、此場合ニドレダケノ效果ヲ持ツカト云フ點ニ於テ、二十三條ニ入ルカ入ラナイカト云フコトガ決定サレルト思フデアリマス、尙ホ序デアリマスカラ申上ゲマスガ、第四十二條ノ規定ハ只今第二十三條ニ付テ申上ゲマシタヨリモ、稍、近イ



問題トシテ、御指摘ノ問題ノ解決ノ標準ニナリハシナイカト思フノデアリマス、即チ「本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル使用人ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スル者ト見做ス」或ハ第二十三條ヨリモ第四十二條ノ方ガ、近クハナイカト存ズルノデアリマス

○佐竹委員 尙ホ此點ニ付テ疑問ガアルノデゴザイマスガ、私ハ先程モ大分諄イト叱ラレマシタノデ先ヅ一應進メマシテ、他ノ條文ニ付テ御尋ヲ致シタイト考ヘマス、二十六條ノ關係デゴザイマスガ「營業ノ讓渡

後遲滯ナク讓渡人及讓受人ヨリ第三者ニ對シ其ノ旨ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於テ」斯ウアリマス、是ハ讓渡人又ハ讓受人ト云ツタヤウナ風ノ規定ニスルコトハ出來ナイモノデゴザイマセウカ、又サウスルコトニ依ッテ何カ弊害ヲ生ズルト云フ御考デゴザイマセウカ

○大森政府委員 御指摘ノ場合ハ、讓渡人及ビ讓受人カラ通知ヲ致シマスル方ガ確實デアッテ、サウシテ此通知ヲ受ケマシタ場合ニ、通知ヲ受ケタ者ニ付テハ、第一項ノ規定ヲ適用シナイノデアリマスカラ、若シ之ヲ讓渡人又ハ讓受人二者何レカ便宜シイト

致シマスナラバ、第三者ガ權利ヲ擁護セラレル場合ガ少クナルノデアリマス、詰リ通知ニ依ッテ第一項ノ適用ヲ免レル場合ガ、此案ヨリモ御設例ノ場合ノ方ガ多クナルノデアリマス、ソレヲ餘リニ多クシタクナイ、詰リ第一項ノ原則ハ成ベク之ヲ維持シタイト云フ趣旨カラ致シマシテ、此通知ヲ兩者雙方ヨリ必ズ爲サナケレバナラスト云フコトニ決メタ次第デアリマス

○佐竹委員 一應此程度デ止メテ置キマス、或ハ關聯事項デ御尋申上ゲルコトガアルカモ知レマセス

○大森政府委員 マダ御質問ガアリマセウガ、私ガ此第四章ニ付キマシテ、一ツ新設ノ規定ヲ申漏シマシタノデ、御許ヲ得テ補足ヲ致シタイト思フノデアリマス、ソレハ第三十條ノ規定デアリマス「商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ正當ノ事由ナクシテ二年間其ノ商號ヲ使用セザルトキハ商號ヲ廢止シタルモノト看做ス」ト云フ規定ヲ新ニ加ヘタルデアリマス、是ハ御承知ノ通りニ、商號ダケデハナク、商標ナドニモ此關係ガ起ルノデアリマシテ、例ヘバ商標ヲ例ニ取ッテ申シマス、或ハ菓子ヲ拵ヘテ、之ニ立派ナ商標ヲ付ケル、然ルニ其商標ヲ實際ニ用ヒテ居ナイト、斯ウ云フ場合ニ他ノ人ガ左

様ナ結構ナ商標デアラナラバ、自分モソレヲ使ヒタイト思ヒマスケレドモ、奈何セン是ガ既ニ商標トシテ登録サレテ居リマスカラ、第三者ハソレヲ用ヒルコトガ出來ナイト云フコトニナルノデアリマス、之ヲ登録シタ方デハ既ニ用ヒテ居ナイノデアリマス、他人ニ同ジモノヲ使ハレテモ一向痛痒ヲ感ゼザルベキ筈デアリマスルケレドモ、併ナガラ左様ナ場合ニ他人カラソレヲ使ハセテ吳レト言フト、隨分不當ナ値段ノ請求ヲスルト云ツタヤウナコトガアルノデアリマス、丁度ソレト同ジ關係デアリマシテ、商號ノ登記ヲ受ケナガラ、實際ソレヲ用ヒテ居ナイ、而モソレヲ用ヒザルコトガ二年ニモ涉ツタナラ、是ハ商號ヲ廢止シタモノトシテ、別ノ者ガ同一ノ商號ヲ選定シテモ宜シイト云フ途ヲ開クコトガ至當デアルト考ヘタ次第デアリマス、是ガ即チ第三十條新設ノ所以デアリマシテ、先程申シ漏ラシマシタカラ茲ニ補足シタ次第デアリマス

○仲井間委員 本法ノ商號ト營業ノ關係ハ、不可分ノ一體ト云フ立前カラ規定サレテ居ルト云フ説明ニ承ッテ居ルノデアリマス、サウ致シマス十九條及ビ二十條ト二十五條トノ關係デアリマスガ、此商號ノ場合ニ於ケル箇々ノ範圍ガ同市町村内ト云フコト、

ソレカラ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ、其營業ヲ保護サレル地域ノ範圍ガ同市町村及ビ隣接市町村内ト云フノデアリマス、ソコニ範圍ノ相違ガアリマス、商號ト營業トガ同一不可分のデアルト云フ建前ノ下ニ保護ヲサレルナラバ、同様ノ範圍ヲ以テ爲スベキモノデアルト思フノデアリマスルガ、其間ニ相違ヲ生ゼシメタノハドウ云フ理由デアリマスカ、ソレトモウ一ツハ同市町村ト云フ區域ニ付キマシテ、施行法ニ於キマシテハ所謂六大都市、是ハ區ニナッテ居ルノデアリマスガ、例ヘバ東京市デ麹町區ナラ麹町區トスルト、隣接ト申シマス地域的ニ地圖ヲ見テクツ付イタ所ダケガ全部ソレニ含まレタモノト見テ、其區ノ離レタ所ニハ及バスト吾々ハ見テ居ル譯デアリマス、東京邊リデハ左様ニ能ク判定ガ付キマスルケレドモ

〔石坂委員長代理退席、委員長著席〕

私先刻御聽漏シヲ致シマシテ居リマシタガ、或ハ川ヲ隔テタリ内海ヲ隔テタリ或ハ山ヲ隔テタモノハ、如何ナ御取扱ヲナサレル御方針デアリマスカ

○大森政府委員 只今御質問ノ第一點デアリマスガ、是ハ先程私ノ申述ベマシタ言葉ノ不行届カラ生ジタ御疑デアラウト存ズル



ノデアリマス、營業ト商號ト不可分デア  
ト申シマシタノハ、其讓渡ニ對スル關係ニ  
於テ不可分デアルト申シタノデアリマス、  
詰リ現行法デハ營業カラ離レテ商號ダケノ  
讓渡ガ出來ルヤウナ規定ニナッテ居リマス

ルケレドモ、是ハ實際上ノ見地カラ見テ、左  
様ナコトガアリ得ナイ、又左様ナコトガア  
ルノハ面白クナイノデアアル、隨テ營業ノ讓  
渡ノ關係ニ付テハ、營業ト商號トハ不可分  
ニ見ルノデアリマス、斯様ニ申シタノデア  
リマス、本來營業其モノト商號其モノト、  
必ズ不可分デアルト申シタ次第デハナイノ  
デアリマス、ソレカラ第二點デアリマス、  
隣接關係ニ付テハ全ク御説ノ通りノ解釋デ  
アリマス、サウシテ山ナリ川ナリガアリマ  
シテモ、是ハ地續キデアリマスカラ、私共  
ハヤハリ隣接ダト存ジテ居リマス、唯海ノ  
場合ハ隣接デナイ、假令ソレガ内海デアリ  
マシテモ隣接デナイト考ヘテ居リマス、大  
變ソレハラカシイデヤナйкаト云フ御非難  
モアリマセウケレドモ、先ヅ左様ナ解釋ハ  
誰シモ間違ハズニ濟ム所デハナйкаト思ッ  
テ居ルノデアリマス

○仲井間委員 勿論私ノ商號ト營業トハ不  
可分のモノデアルト申シマシタノハ、法  
ノ方針ガサウ取扱ヒタイト云フノデアリマ

シテ、何等營業ト商號ト云フモノハ不可分  
的ノモノデハナイ、唯法ノ方針カラ見テ吾々  
ハ區別ガナイト思ハレルノデアリマスカ、  
ナゼ地域のニ區別ヲシタカ、其區別シタ理  
由ヲ伺ヒタイ

○大森政府委員 第十九條ニ於キマシテハ  
商號ノ效力ヲ決メタノデアリマシテ、商號  
ノ效力ハ同市町村内デ同一營業ノ爲ニ他ノ  
者ヲ禁止即チ排他的ノ關係ヲ持ツ、其排他  
的效力ヲ第十九條デ明ニシタノデアリマス、  
然ルニ第二十五條ハ商號其モノノ效力當  
然ノ規定デハナイノデアリマス、營業讓渡  
ニ伴ヒマシテ讓渡人ガ持ツ所ノ責任デアリ  
マス、即チ商號其モノノ效力ト言ヒマスル  
ヨリモ、讓渡ノ結果讓渡人ガ讓受人ニ對シ  
テ負ハナケレバナラス所ノ責任ニ付テ、重  
キヲ置イテ居ルノデアリマス、デアリマ  
スカラ寧ロ後者即チ第二十五條ノ場合ノ方  
ヲ、其範圍ヲ廣クスルト云フコトハ、蓋シ  
當然デハナйкаト考ヘテ居ル次第デアリマ  
ス

○仲井間委員 サウ致シマスト今大森サン  
ノ御述ニナリマシタ趣旨ハ、商號ノ方ハ一  
般的デアアル、一般的ノ關係ノアル部分デア  
ルカラ市町村内デ宜カラウ、所ガ營業ノ讓  
渡ハ一般的デハナйкаケレドモ、讓渡人ト讓

受人トノ二人ノ關係デアルカラ、少シク範  
圍ヲ廣クシテ、商號ノ保護ノ程度ヲ厚クシ  
タノダト、斯ウ云フ風ニ承ッテ宜イノデア  
リマスカ

○大森政府委員 御趣旨ノ通りデアリマス

○仲井間委員 然ラバ簡單デアリマスカラ、

モウ一點ダケ御聽シタイノデアリマスカ、  
二十三條ト二十四條ノ關係デアリマス、商  
號ハ營業ト共ニスルニ非ザレバ讓渡ガ出來  
スト云フコトハ、規定ニ依ッテ明ニナッテ居  
リマス、併ナガラ是ハ法律ガ禁止ヲシマシ  
テモ實際行ハウトスレバ行ハレルノデアリ  
マス、實際行ツタ場合ニ此二十三條ニ依ッテ  
自己ノ氏名デアルトカ或ハ商號ヲ使用シテ  
營業ヲ爲スコトヲ假ニ許諾シタル場合、是  
ハ他人ガ營業ヲ開始スル場合ニ於ケル規定  
ダト思フノデアリマスカ、假ニ他人ガ營業  
ヲ開始シテ其中間ニ於テ自分ノ商號ヲ事實  
上讓渡シタ場合、其時ニモヤハリ二十三條  
ノ規定ニ依ッテ責任ヲ負フモノト御認ニナ  
ラレルノデアリマスカ、此規定ヲ制定サレ  
タ趣旨モソコニアルノデアルカ、ソコヲ伺  
ヒマス

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマ  
シテ、第二十三條ノ商號ヲ使用シテ營業ヲ  
爲スコトヲ他人ニ許諾スル場合——商號讓

渡ノ場合モアリマセウ、又事實上讓渡ノ效  
力モナイ場合モアリマセウ、ソレ等ヲ包容  
シテ茲ニ商號ヲ使用スル營業ヲ爲スコトヲ  
他人ニ許諾シタ場合、斯様ニ規定シタノデ  
アリマス

○野村委員長 一松君

○一松委員 一寸伺ヒマスカ昨日公布セラ  
レマシタ商標法デアリマス、此商標法ノ第  
十四條ニ依リマスト、「商標權者正當ノ理由  
ナクシテ帝國内ニ於テ登録ノ日ヨリ一年間  
其ノ商標ヲ使用セザリシトキ又ハ引續キ三  
年間其ノ商標ヲ使用ヲ中止シタルトキ」此時  
ニハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スト云フコ  
トガ新法ニ依ッテ發布ニナッテ居リマスカ、此  
商標法ノ所謂商標ノ使用ヲ中止シタルトキト  
云フノハ、本法ノ「使用セザルトキ」ト云フ  
ノニ含マレルノデスカ、含マレナイノデス  
カ、商標法ニハ使用ヲ中止シタルトキト使用  
シナイトキニ分ケテ、昨日官報デ公布ニナッ  
テ居リマスカ、此關係ハドウナリマスカ  
○大森政府委員 商標法ノ方ハ私ハ甚ダ不  
案内デアリマス、此商標案ニ關スル限リニ  
於テハ三十條ノ「商號ヲ使用セザル」ト云フ  
ノハ、使用ノ中止モ入ルモノト考ヘテ居リ  
マス、使用ノ中止ガ二年ニ及ベバ——ト斯  
ウ云フ工合ニ考ヘテ居ルノデアリマス、唯

商標法ノコトニ付キマシテハ不案内デアリマス。クレドモ、左様ナ事例ノ生ズルノハ、實ハ商標ニ付テハ多々アルサウデアリマス、商號ハ商標ニ付テ程ハ起ラナイノデアリマス、甚ダ變ナ例ヲ申上ゲテ失禮デアリマスガ、例ヘバ私が菓子屋ヲ致シテ新シイ饅頭ヲ一ツ作製致シマシテ、良イ名前ヲ付ケヨウト致シマス、大抵ノ良イ名前ハ登録ニナッテ居ルサウデアリマス、ソレデアリマスカラ新シイ饅頭ニ新シイ名前ヲ付ケルコトハ、今日ニ於テハ全ク不可能ダト云フ話デアリマス、ト言ヒマスノハ良イ名前ヲ登録シテ實際ソレヲ使用シテ居ナイ、又ハ使用ヲ中止シテ居ルヤウナコトガアルカラダサウデアリマス、左様ナ關係カラ商標法ハ吾々ノ商法案ニ比シテ、更ニ周到ニ規定スル必要ガアツノデハナイカト存ジマス、此點ハ適當ノ機會ニ他ノ政府委員カラ御説明ヲ申上ゲヨウカト存ジテ居リマス

○一松委員 今ノ大森局長ノ御話デ能ク分リマシタガ、他ノ適當ノ機會ニ他ノ政府委員カラ御答ヲ承リタイト思ヒマスガ、此商標法ニハ一年間使用セザリシトキハ取消ス、三年間中止シタ時ニハ取消ストアル、然ルニ商法ニハ二年ト書イタ、數ニハ法理ナシト云フコトカラ言ヘバ、ソレハ好イ加減ニシタノダト云フコトニナレバ、ソレ切リデスガ、一年三年ト二年ト別々ニシタコトニ付テハ、多少ソコニ考慮ノ餘地ガアツヤウニ思ハレルノデスガ、其點モ他ノ機會ニ於テ其政府委員カラ一緒に説明シテ戴ケレバ結構ダト思ヒマス

○大森政府委員 御趣旨ハ諒承致シマシタ

○野村委員長 第四章ノ商號ニ付テハ他ニ御質疑ガアリマセスカ——ナイト致シマスレバ、第五章ノ商業帳簿ニ移リマス

○大森政府委員 第五章ノ商業帳簿ニ付キマシテ、實ハ改正ノ部分ハ左様ニ澤山ハナイノデアリマス、先ヅ第三十三條ノ第二項デアリマス「會社ニ在リテハ成立ノ時及毎決算期ニ前項ノ書類ヲ作ルコトヲ要ス」ト此案デハナッテ居ルノデアリマス、現行法デハ御承知ノ通りニ第二十七條ニ「年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ前條ニ規定ニ從ヒ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス」トアリ、毎配當期之ヲ作ッテ居ルノデアリマス、然ルニ此毎配當期ト云フ文字ハ必シモ正確デハナイノデアリマシテ、配當ノ時ニソレヲ拵ヘルト云フコトハ蓋シ無理デアリマス、即チ實際ニ於テハ此配當期ハ決算期ト云フヤウニ解シテ運用サレテ居リマシテ、隨テ此案ニ於テハ其配當期ト云フ文字ヲ避ケテ決算期ト云フ文字ニ變ヘルノヲ適當ト存ジタノデアリマス、ソレカラヤハリ第三十三條ノ第三項ノ「財産目錄及貸借對照表ハ之ヲ編綴シ又ハ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス」、其第四項ノ「財産目錄及貸借對照表ニハ作成者之ニ署名スルコトヲ要ス」此二項慣行ヲ重シマシテ、其實際ノ慣行ヲ法文ニ表シタニ過ギナイノデアリマスガ、若シ實際ノ慣行ガ斯様ニナッテ居ルモノトシテ、是ガ正當デアリマスナラバ、ヤハリ法文トシテ之ヲ明ニシテ置クニ如クハナイト存ズルノデアリマス、ソレガ第三項ノ問題デアリマシテ、第四項ハ作成者ノ責任ヲ明ニセシムル趣旨カラ致シマシテモ、之ヲ法文ニ規定シテ置ク必要ガアラウト存ジタノデアリマス、次ニ第三十四條ノ第二項ハ新設ノ規定デアリマス、第三十四條第一項ハ現行法ニ於テモ其通りデアリマシテ「財産目錄ニハ動産、不動産、債權其ノ他ノ財産ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財産目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ超ユルコトヲ得ズ」即チ現在ノ價額主義デアリマス、現在ノ交換價値ヲ書イテ、其價値タルヤ實際ノ價値ヨリモ超エテハイケナイ

ト云フコトヲ明ニシテ居ルノデアリマス、此原則ハ現行法ニ於キマシテモ此案ニ於キマシテモ變リハナイノデアリマシテ、即チ現行法通りノ規定ヲ第三十四條第一項ニ掲ゲタノデアリマス、此現行法即チ第三十四條第一項ノ原則ハ動カシマセスケレドモ、ソレニ對スル緩和の規定ト申シマスガ、實際ノ便宜ニ鑑ミタ規定ト致シマシテ、第二項ヲ新設シタノデアリマス、即チ「營業用ノ固定財産ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得」斯様ナ規定ヲ新ニ入レタノデアリマス、即チ營業用ノ固定財産ニ關スル限り所謂使用價値、即チ取得價額又ハ製作價額カラ相當ノ減損額ヲ引キマシタ價額ガ、若シ今日ノ交換價値ヨリ上デアリマスレバ、其上ノ價額ヲ附ケテモ宜シイト云フコトニシタノデアリマス、詰リ一切ノ財産ニ付キマシテ現在ノ交換價値、ソレガ一万圓ニ交換サルベキ價値ノアルモノナラバ、一万圓以上ニハ書ケナイノデアリマシテ、一万圓以下ノ價額ヲ書クベキデアリマス、然ルニ其モノガ營業用ノ固定財産デアリマシテ、而モ其所謂使用價値ガ一万五千圓デアリマスナラバ、一万五千圓ト附ケテ宜シイト云フ途ヲ開イタ

ハ其配當期ト云フ文字ヲ避ケテ決算期ト云フ文字ニ變ヘルノヲ適當ト存ジタノデアリマス、ソレカラヤハリ第三十三條ノ第三項ノ「財産目錄及貸借對照表ハ之ヲ編綴シ又ハ特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス」、其第四項ノ「財産目錄及貸借對照表ニハ作成者之ニ署名スルコトヲ要ス」此二項慣行ヲ重シマシテ、其實際ノ慣行ヲ法文ニ表シタニ過ギナイノデアリマスガ、若シ實際ノ慣行ガ斯様ニナッテ居ルモノトシテ、是ガ正當デアリマスナラバ、ヤハリ法文トシテ之ヲ明ニシテ置クニ如クハナイト存ズルノデアリマス、ソレガ第三項ノ問題デアリマシテ、第四項ハ作成者ノ責任ヲ明ニセシムル趣旨カラ致シマシテモ、之ヲ法文ニ規定シテ置ク必要ガアラウト存ジタノデアリマス、次ニ第三十四條ノ第二項ハ新設ノ規定デアリマス、第三十四條第一項ハ現行法ニ於テモ其通りデアリマシテ「財産目錄ニハ動産、不動産、債權其ノ他ノ財産ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財産目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ超ユルコトヲ得ズ」即チ現在ノ價額主義デアリマス、現在ノ交換價値ヲ書イテ、其價値タルヤ實際ノ價値ヨリモ超エテハイケナイ

ト云フコトヲ明ニシテ居ルノデアリマス、此原則ハ現行法ニ於キマシテモ此案ニ於キマシテモ變リハナイノデアリマシテ、即チ現行法通りノ規定ヲ第三十四條第一項ニ掲ゲタノデアリマス、此現行法即チ第三十四條第一項ノ原則ハ動カシマセスケレドモ、ソレニ對スル緩和の規定ト申シマスガ、實際ノ便宜ニ鑑ミタ規定ト致シマシテ、第二項ヲ新設シタノデアリマス、即チ「營業用ノ固定財産ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得」斯様ナ規定ヲ新ニ入レタノデアリマス、即チ營業用ノ固定財産ニ關スル限り所謂使用價値、即チ取得價額又ハ製作價額カラ相當ノ減損額ヲ引キマシタ價額ガ、若シ今日ノ交換價値ヨリ上デアリマスレバ、其上ノ價額ヲ附ケテモ宜シイト云フコトニシタノデアリマス、詰リ一切ノ財産ニ付キマシテ現在ノ交換價値、ソレガ一万圓ニ交換サルベキ價値ノアルモノナラバ、一万圓以上ニハ書ケナイノデアリマシテ、一万圓以下ノ價額ヲ書クベキデアリマス、然ルニ其モノガ營業用ノ固定財産デアリマシテ、而モ其所謂使用價値ガ一万五千圓デアリマスナラバ、一万五千圓ト附ケテ宜シイト云フ途ヲ開イタ

ト云フコトヲ明ニシテ居ルノデアリマス、此原則ハ現行法ニ於キマシテモ此案ニ於キマシテモ變リハナイノデアリマシテ、即チ現行法通りノ規定ヲ第三十四條第一項ニ掲ゲタノデアリマス、此現行法即チ第三十四條第一項ノ原則ハ動カシマセスケレドモ、ソレニ對スル緩和の規定ト申シマスガ、實際ノ便宜ニ鑑ミタ規定ト致シマシテ、第二項ヲ新設シタノデアリマス、即チ「營業用ノ固定財産ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ取得價額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減損額ヲ控除シタル價額ヲ附スルコトヲ得」斯様ナ規定ヲ新ニ入レタノデアリマス、即チ營業用ノ固定財産ニ關スル限り所謂使用價値、即チ取得價額又ハ製作價額カラ相當ノ減損額ヲ引キマシタ價額ガ、若シ今日ノ交換價値ヨリ上デアリマスレバ、其上ノ價額ヲ附ケテモ宜シイト云フコトニシタノデアリマス、詰リ一切ノ財産ニ付キマシテ現在ノ交換價値、ソレガ一万圓ニ交換サルベキ價値ノアルモノナラバ、一万圓以上ニハ書ケナイノデアリマシテ、一万圓以下ノ價額ヲ書クベキデアリマス、然ルニ其モノガ營業用ノ固定財産デアリマシテ、而モ其所謂使用價値ガ一万五千圓デアリマスナラバ、一万五千圓ト附ケテ宜シイト云フ途ヲ開イタ

ノデアリマス、是ハ事實ニ於テ多ク斯ウ云  
フヤウニ行ハレテ居ルヤウデアリマシテ、  
又決シテ是ガ不健全ナル書キ方デハナイノ  
デアリマス、營業用固定財産デアリマスカ  
ラ、俄ニ之ヲ賣レルモノデモナク、又賣ル  
積リモノナイノデアリマシテ、ソレ等ノ物ヲ  
固ク抱擁シテ居ルノデアリマスカラ、其使  
用價值ヲ書クコトガ少シモ此商業帳簿トシ  
テノ健全性ヲ害シナイノデアリマス、左様  
ナ意味カラ致シマシテ、此第二項ヲ新設致  
シマシタ、次ニ第三十六條ニ小改正ヲ加ヘ  
テ居リマス、即チ其第一項デアリマスガ、

「商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關  
スル重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス」斯様  
ニ致シマシタ、現行規定ハ御承知ノ通り第  
二十八條ノ第一項デアリマシテ「商人ハ十年  
間其商業帳簿及其ノ營業ニ關スル書類ヲ保  
存スルコトヲ要ス」ト云フコトニナッテ居  
リマス、所ガ營業ニ關スル信書トナリマス  
ト、其數ガ夥シクナリマシテ、又其實質カ  
ラ申シマシテモ、必シモ之ヲ後迄殘シテ置  
カナケレバナライモノトモ限ラナイノデ  
アリマシテ、是等ノ點ニ甚ダ煩瑣ヲ事實上  
ニ於テ感ジタノデアリマス、デアリマスカ  
ラ信書悉クヲ殘セト云フ處置ハ、蓋シ苛酷  
ナコトデアリマスルカラ、之ヲ重要書類ニ

限定シタノデアリマス、即チ其趣旨ニ於キ  
マシテ、第三十六條ノ第一項ヲ改正シタ次  
第デアリマス

○佐竹委員 三十四條ノ財産目録ノ附隨價  
額ノ問題デゴザイマスガ、是ト今度ノ商法  
改正案二百八十五條、二百八十六條、株式  
會社ニ關シマスル財産目録調製ノ場合ノ價  
額ト相違スルデアリマセウカ、即チ三十四  
條ト只今申上ゲマシタ二百八十五條、二百  
八十六條ノ規定ハ、同一ノ規定デアルヤウ  
ニモ見ラレマス、唯文字ノ用ヒ方ガ少シバ  
カリ異ッテ居ルダケノヤウニモ考ヘラレマ  
スガ、實質的ニ何カ是ハ違ッテ居ルノデゴザ  
イマセウカ、御尋ヲ致シマス

○大森政府委員 第二百八十五條ノ關係ニ  
付キマシテハ、其場合ニ申上ゲヨウト存ジ  
テ居ッタノデアリマスルガ、此第三十四條ト  
第二百八十五條トヲ比ベマスト、第二百八  
十五條ノ方ガ嚴重ニナッテ居リマス、即チ株  
式會社ニ付テスル嚴重ナル規定ヲ以テ臨ム  
コトヲ可トシタル所以デアリマス、ソレハ  
第三十四條ノ第一項ニ據リマシテ、財産目録  
ニハ財産目録調製ノ時ニ於ケル價格ヲ超エ  
テハナラナイ、超ユル價格ヲ付ケテハナラ  
ナイト云フコトニナッテ居リマス、ソコデ今  
株式會社ニ付テ考ヘテ見マスルニ、營業用

ノ固定財産ニ付テモ、ヤハリ此第三十四條  
ノ第一項ノ適用ガアリマスルカラ、今財産  
目録調製ノ時ニ於ケル價格ガ百万圓デアッタ  
ト致シマス、然ルニ其固定財産ノ取得價額  
又ハ製作價額ガ八十萬圓デアツク、斯様ニ致  
シマスレバ、八十萬圓ト書カナケレバナラ  
ナイノデアツク、百万圓ト付ケテハイケナイ  
ト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、ト申シ  
マスルノハ株式會社ニ於キマシテハ、往々  
ニシテ營業用ノ固定財産等ニ付キマシテ、當  
時ノ實際價額ヲゴマカシマシテ、過當ナル價  
額ヲ附ケマシテ其結果配當額ヲ多ク捻出シ  
ヨウト云フ弊風ガアルヤニ存ズルノデアリ  
マス、デアリマスカラ、第三十四條ノ原則  
ヨリモ更ニ嚴重ナル一ツノ原則ヲ茲ニ立テ  
タト云フノガ、第二百八十五條ノ關係デア  
リマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒマス

○佐竹委員 三十四條ヨリ唯二百八十五條  
ノ方ハ規定ノ仕方ガ嚴重デアルト云フダケ  
デ、煎ジ詰メレバ結局同ジ事ニナルノデハ  
ゴザイマスマイカ

○大森政府委員 同ジ事ニハナラナイ積リ  
デアリマス、先程申述べマシタ通り營業用  
ノ固定財産ガ株式會社ニ於キマシテ、若シ  
ソレヲ第三十四條ノ第一項ノ原則ニ從ッテ  
算出スルナラバ、百万圓デアッタ場合ニ、即

チ現在ノ交換價額ハ百万圓デアアルケレドモ、  
併シ其取得價額ガ八十萬圓デアッタト云  
フ場合ニハ、低イ方ヲ書カナケレバナラナ  
イト云フコトニナルノデアリマス、即チ今  
設例ノ場合ニ於キマシテハ、株式會社以外  
デハ百万圓ト書イテ宜イノデアリマスケレ  
ドモ、株式會社ノ方ハ八十萬圓ト書カナケ  
レバナラナイト云フコトニナリマス、デア  
リマスカラ、株式會社ト、株式會社以外ノ  
商人ト比較シテ見マシテ、此場合ニ財産目  
録ノ價額ガ二十萬圓相違スルト云フコトニ  
ナリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○佐竹委員 分リマシタ、ソレデハモウ一  
簡條ダケ御尋致シマス、三十五條ノ規定デ  
アリマスガ、是ハ其性質上カラ申シマシテ  
モ、民事訴訟法ノ規定ニ讓ルベキモノデア  
ルト考ヘルノデアリマス、殊ニ民事訴訟法  
第三百十二條第一項第一號、第二百六十一  
條、此規定ヲ運用致シマスレバ、商業帳簿  
ハ此新法ガ出來マスレバ、「又ハ其ノ一部分  
ノ提出ヲ命ズルコトガ出來ルノデアリマス  
ガ、民事訴訟法中ニ既ニ規定ガアルノデア  
リマス、シテ見レバ殊更商法中ニ其性質上  
民事訴訟法ニ規定スベキ事項ヲ、尙ホ存置  
スルノ必要ハナイト考ヘルノデアリマス  
ガ、之ヲ存置シナケレバナラス特別ノ理由

ガアルノデアリマセウカ

○大森政府委員 御尤ノ御尋デアリマス、成程新民事訴訟法ニ於キマシテ、書類提出ニ付テ相當詳細ナ規定ガ出來タノデアリマス、デアリマスカラ、新民事訴訟法即チ現在ノ民事訴訟法ノ下ニ於キマシテハ、此商法案ノ第三十五條ヲ存置致シマス實益ハ、必シモ大デハナイノデアリマス、此規定ハ御承知ノ通り、舊民事訴訟法即チ文書提出命令ニ關スル規定ガ薄弱デアリマシタ時代ニ、相當效果ガアツタノデアリマスガ、ソレヲ其儘存置致シマシタ所以ノモノハ、是ガ非常ナ效果ヲ發揮スルトハ思ハレマセヌケレドモ、尙ホ存置セシムルコトハ、無キニ勝ルト云フヤウナニ存ズルノデアリマス、譬ヘテ申シマスレバ、此三十五條ニ依リマス、申立ト職權トヲ殆ド同列ニ置イテ居ルノデアリマシテ、此點ナドヲ考ヘテ見マスト、民事訴訟法ヨリモ少シク廣イカト存ズルノデアリマス、唯今日ノ場合ニ於キマシテ、此規定ガ從前ニ比シテ其實用價值ガソレ程ナイト云フコトハ、全ク御説ノ通りデアリマス、唯之ヲ削ルニモ及バナイ、存置セシムルコトニ於テ多少ノ效果ガアルト云フダケニ止マルノデアリマス、即チ現行法其儘ヲ茲ニ存置セシメテ置イタ所以デア

リマス

○一松委員 新法ノ三十五條ト舊法ノ二十一條ノ二ノ規定トガ大森局長御説明ノ如ク、訴訟上今迄大イニ效果ガアツタコトハ、吾々認メテ居ルノデアリマスガ、唯此時ニ吾々ノ最モ遺憾ニ思ヒマスコトハ、提出命令ヲ裁判所ガ致シマシテモ、出サナイ、其時ニ何モ制裁ガナイ、折角提出命令ヲ規定シテ、サウシテ訴訟ノ當事者ニ之ヲ利用スルコトヲ法ハ認メテ居ルニ拘ラズ、提出シテ來ナイ時ニ、何等ノ制裁ヲ加ヘナイト云フノハ、面白クナイト思フノデアリマスカ、ソコニ特別法カ何カアリマセウカ、アレバ御示シテ願ヒタイ、若シナケレバ之ニ對シテ何トカ御考慮ノ餘地ハナイノデアリマスカ、此點ヲ一ツ伺ヒマス

○大森政府委員 此案ノ第三十五條ノ命令ニ從ヒマセヌ場合ニ付キマシテハ、ヤハリ民事訴訟法ノ書類提出ノ命令ニ反シタル場合ト同様ノ效果ヲ生ズルモノト存ジテ居ルノデアリマス、即チ御承知ノ民事訴訟法第三百十六條ニ「當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得」トアリマシテ、此文書提出ノ命ト云フノハ、民事訴訟法ノ列舉致シテ居リマス場合ニ限定スベ

キモノデハナク、ヤハリ法律上此文書提出ノ命ガアツタ場合、即チ此案ノ第三十五條ノ場合ヲモ包含スルモノト解釋シテ居リマス、デアリマスルカラ右申シマシタ效果ガ期セラレルノデアリマシテ、又ソレダケデ十分デハナイカト思フノデアリマス

○一松委員 尙ホ民事訴訟法ノ第三百十六條ニ依リマスレバ「相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得」トアルノデ、是ハ裁判所ガ職權ヲ以テ心證ニ依ッテ認メテモ、認メヌデモ宜イノデアアル、モウ少シ之ヲ效果アラシムルノニハ、何等カソコニ制裁ヲ設ケタ方ガ宜イノデアリマシタ思フノデアリマスガ、其點ニ付テ今更特別ニ之ニ一箇條ヲ設ケルトカ、一項ヲ加ヘルトカ云フヤウナコトヲ主張スルノデアリマセヌガ、是ハ一ツ御考慮ヲ願ヒタイト云フコトニ止メテ置キマス、ソレト同ジヤウニ三十六條ニ「商業帳簿及其ノ營業ニ關スル重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス」トアル、保存シテ居レバ二十條ノ提出命令ニ依ッテ、提出セヨト云フノデアアルガ、保存シテ居リマセヌト云フヤウナコトヲ言ッテ、實際ノ訴訟デ逃レル、其時分ニモ何等制裁ガ無い、是ハ何カ制裁ヲ設ケル方ガ宜イノデヤナイデセウカ、如何デセウカ

○大森政府委員 御尤ノ御意見ノヤウニ拜聴シタノデアリマス、今御陳述ニナリマシタ前段ノ問題デアリマスガ、是ハ御承知ノ通りニ、若シ此提出ノ命令ニ應ジマセヌ者ガ第三者デアリマスルナラバ、即チ訴訟ノ當事者デナイ場合ニ付キマシテハ、御承知ノ民事訴訟法ノ第三十八條ニ依リマシテ、五百圓以下ノ過料ニ處スルコトガ出來ル譯デアリマス、尙ホ御陳述ノ後段ノ部分デゴザイマスルガ、第三十六條ノ書類保存ニ付キマシテハ、會社以外ニ付テハ別ニ制裁規定モ何モアリマセヌケレドモ、唯保存シテ居ナイト云フ故ヲ以テ、第三十五條ノ提出ヲ拒ミマスル者ハ、ヤハリ第三十五條ノ命令ニ違反シタ者トシテ、先程申シマシタ民事訴訟法ノ第三十六條ナリ、又第三十八條ナリノ效果ガ、出テ來ルモノカト考ヘテ居ル次第デアリマス

○一松委員 今ノ民事訴訟法ノ第三十八條即チ第三者ガ提出ノ義務ヲ拒ンダ時ニハ、五百圓以下ノ過料、斯ウ云フ一ツノ制裁ガ第三者ニ對シテモアルノデアリマス、而シテ第三者ハ訴訟ノ當事者デハナク、隨テ訴訟ノ勝敗ニ關係ノナイ人デアアル、其勝敗ニ關係ノナイ人ガ出サナイ時ニハ、五百圓以下ノ過料ヲ取ラレル、訴訟ニ直接ニ關係ノ

アル當事者ハ、唯判事ノ信憑力ガ自分ニ不利

益デアッテ、相手方ノ主張シタルコトヲ眞實

ナリト認メラレルト云フ不利益ガアルダケ

デハ、少シ私ハ片手落ノヤウニ思フノデス

ガ、是ハ三十五條ノ提出ヲ命ジタ場合ニ、

ソレニ應ジナカッタ場合ハ、五百圓以下ノ過

料ニ處スルト云フヤウナ制裁ヲ設ケテ置ケ

バ、此民事訴訟法ノ三百十八條ノ規定ト權

衡ヲ保ツコトガ出來、一面新法ノ三十六條ノ

帳簿書類保存ニ對シテ、一層注意ヲ拂ッテ之

ヲ保存スルト云フコトノ結果ヲ招來スルノ

デアリマスカラ、ヤハリ制裁ガアッタ方ガ

宜イト思フノデスガ、如何デセウカ

○大森政府委員 第三十五條ノ關係ニ付キ

マシテハ、私共ハ民事訴訟法ノ提出命令以

上ニ、其以外ニ又別ナ制裁ヲ科スルト云フ

コトハ、如何デアラウカト考ヘテ居リマス、

但シ第三十六條ノ保存問題ニ付キマシテ

ハ、御説ハ洵ニ結構ダト思フノデアリマシ

テ、是ハ商法ノ問題ヲ離レマシテ、非訟事

件手續法ナリ、或ハ之ニ類スル別ノ法律ニ

於テ、其立案ニ當ッテ篤ト考慮致シタイト存

ジテ居リマス

○一松委員 ソレデハ一ツ其點ハ特ニ御忘

レニナラヌヤウニ、是ハ餘程私ハ實際ノ運

用ノ上ニ於テ必要ヲ感ジテ居リマスカラ、

御願シタイト思ヒマス

○佐竹委員 先程伺ッテ居リマシタノニ關

聯シテ、三十五條ト三十六條ノ關係デゴザ

イマスガ、此三十五條デハ、前ノ規定デハ

「商業帳簿ノ提出ヲ命ズルコトヲ得」トアッ

テ、今度ハ「商業帳簿又ハ其ノ一部分ノ提

出ヲ命ズルコトヲ得」トアルデアリマス、

一部分モヤハリ商業帳簿ノ一部分デアリマ

ス、サウスルト、三十六條デ重要書類ノ保存ヲ

命ジテ居リマス、其重要書類ノ保存ヲ命ジ

テ置キナガラ、其提出ヲ命ズルコトヲ得ト

ナサイマセヌ理由ハ何處ニアルデアリマスカ

○大森政府委員 第三十五條ニ付キマシ

テ、私が申述ベルコトヲ漏シテ居リマシ

タ、甚ダ申譯ナイト思ヒマス、其一部分ト

書キマシタノハ、從來ノ運用ニ付キマシテ、

商業帳簿ノ全部又ハ一分ト云フ趣旨ニ違ヒ

ガナイノデアリマスケレドモ、一部分ト云

フヤウナコトハ特ニ致シマセヌデシタガ爲

ニ、或ル場合ニハ必ズ全部デナケレバイケ

ナイト云フ誤解ヲ生ジタコトガアッタノデ

アリマス、デアリマスカラ、極ク些少ノ部

分ヲ提出スレバソレデ宜イニ拘ラズ、全部

ノ提出ヲ命ズルト云フヤウナコトガアッタ

ノデアリマス、左様ナ關係カラ致シマシテ、

全部デモ宜イ一部分デモ宜イト云フコトヲ

明ニスル積リデ、此改正ヲシタノデアリマ

ス、此點ハ申シ漏シテ居リマシタカラ、補

足ヲスル次第デアリマス、第三十六條ノ重

要書類ト申シマスノハ、之ニハ別ニ關係ノ

ナイヤウニ思フノデアリマス、重要書類ヲ

保存シナケレバナライ、其保存シテ居ル

重要書類ヲ第三十五條デ提出ヲ命ズルコト

ハ出來ルノデアリマスケレドモ、第三十五

條ハ必シモ此十年間保存ニ係ル重要書類ノ

ミニハ關係ノナイコトデアリマスカラ、商

人ガ其營業廢止ノ後ナラバ十年間保存シテ

居リマスル其重要書類、又ハ營業中ナラバ

敢テ重要書類ニ限ラナイノデアリマシテ、

商業帳簿ノ其總テ又ハ其一部分、斯様ナ意

味ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○佐竹委員 三十六條ニハ「商業帳簿及其ノ

營業ニ關スル重要書類」トアリマシテ、商

業帳簿ノ外ニ營業ニ關スル重要書類ト區別

ヲシテ書イテアリマス、所ガ三十五條デハ

「商業帳簿又ハ其ノ一部分」トアリマス、三

十五條デ提出ヲ命ジ得ベキモノハ商業帳簿

ト商業帳簿ノ一部分デアリマス、然ルニ營

業用ノ商業帳簿以外ノ重要書類ノ提出命令

ヲ此際除外スル理由ト云フモノガドウモ分

リマセヌ、此點承リタイト思ヒマス

○大森政府委員 私ノ先程ノ御答ガ間違ッ

テ居リマシタ、訂正致シマス、第三十五條

デ提出ヲ命ズルコトノ出來マスノハ、商業

帳簿ノ全部又ハ一分ニ限ル譯デアリマス、

サウシテ其三十六條ノ第一項ニ規定シテ居

リマスノハ、商業帳簿及ビ其營業ニ關スル

重要書類デアリマス、隨テ此十年間保存中

ノモノデ、第三十五條ノ提出ヲ命ジ得ルモ

ノハ商業帳簿ダケデアリマシテ、是レハ全

ク御説ノ通りデアリマス、此點ニ關スルコ

トノ只今ノ陳述ガ間違ッテ居リマシタカラ

訂正ヲ致シマス、然ラバ第三十六條第一項

ノ商業帳簿ヲ除イタル其營業ニ關スル重要

書類ハ、如何ニシテ提出ヲ命ジ得ルカト云

フコトニ付テハ、商法ハ別ニ觸レテ居ナイ

ノデアリマス、デアリマスカラ、此點ニ關

シマシテハ、民事訴訟法ニ據ルノ外ハナイ

ノデアリマシテ、ソレハ御承知ノ民事訴訟

法ノ第三百十二條デアリマス、此第三百十

二條デ文書提出ノ命令ヲ出シ得ルノデアリ

マス、御承知ノ通りニ現行規定ニ、ヤハリ

第三十五條、第三十六條關係ノ同趣旨ノ規

定ガアリマシテ、此第三十六條關係ノ重要

書類ニ當リマスル即チ現行法ノ所謂信書、

之ニ付キマシテハ此案ノ第三十五條同様、

提出命令ニ關スル規定ヲ以テ臨ンデ居ナカッ

タノデアリマス、ヤハリ現行法ノ趣旨ニ從

ヒマシテ、斯様ニ致シタト御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○佐竹委員 先程申上ゲマシタヤウニ、民訴ノ三百十二條ノ一項一號デ信書其他營業ニ關スル重要書類ノ提出ヲ命ズルコトガ出來ルヤウニナツテ居リマスカラ、特ニ規定致シマセヌデモ事缺カナイヤウニ思ヒマス、

此理ヲ推シテ參リマスレバ、最初御尋致シマシタ如ク、特ニ商業帳簿ニ限ツテ茲ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケテ、或ハ其一部分ト云ツタヤウナ工合ニ改正ヲナサイマス必要モ多クナイカノヤウニ思ハレマスガ、是トテ今念ノ爲ニ設ケテ置イテ害ガナイデヤナイカト云フ御話デゴザイマスナラバ、敢テ是ヨリ多ク申上ゲル必要ハゴザイマセヌ、唯先程一松氏モ申上ゲテ居リマシタガ、私モソレヲ痛感致シマス、此第五章ノ規定全部ニ付テデゴザイマス、第三十二條デ日日ノ取引其ノ他財産ニ影響ヲ及ボスベキ一切ノ事項ヲ記載シナケレバナラヌコトヲ命ジテ居リマス、三十三條カラ三十四條マデ各一定ノ事項ヲ命ジテ居リマス、又是等ノコトハ當然ヤツテ置カナクテハナラヌ事項デアリマセウ、之ニ對シマシテ一向何等ノ強制規定ガゴザイマセヌノデ、規定ガアルダケデ實際行ハレヌ時ニハ、是ハ何等ノ效果ヲ生

ジナイ結果ニナルデハナイカ、折角法律ガ出來タノダガ、實際ノ效果ハナイノダト云フ氣持ヲ持タセルノデヤナイカと思フノデゴザイマスガ如何デゴザイマセウカ

○大森政府委員 御尤ニ存ズルノデアリマス、尤モ會社ニ付キマシテハ御承知ノ通りニ、種々嚴格ナル規定ガアリマスカラ、是ハ別問題ト致シマシテ、會社以外ノ自然人ニ付キマシテハ、成程制裁ノ規定ガナイノデアリマス、一向效力ガナイデヤナイカト云フ御説ハ、確ニ傾聴ニ値スルト思フノデアリマス、先程一松委員カラ御指摘ニナリマシタ第三十六條ノ保存ノ義務ニ關聯スル制裁ノ問題ト共ニ、非訟事件手續法及ビ之ニ牽聯スル法規ノ改正ノ際ニ、篤ト考慮致シタイト存ジテ居リマス

○仲井間委員 私ハ五章ノ全文ニ對シテ綜括的ニ質問ヲ致シタイト思ヒマシテ、發言ヲ致シタノデアリマスガ、一松氏其他ノ關聯質問ヲ承リマシテ、私ノ質問ガ随分ソレニ含マレテ居ルノデアリマス、唯簡單ニ殘ッテ居ル分ヲ申上ゲマスレバ、成程此五章ニ於ケル商業帳簿ノ必要デアリマスカラハ——有利デアリマスカラハ吾々モ認メルノデアリマス、併ナガラ必要ナコトデアリマシテモ、唯商人ガ自分ノ營業ヲ帳簿ヘ留

メテ、自分ノ樂ミニ帳簿ヲ作ルト云フコトダケデハ、中々厲行ガ出來ルモノデハアリマセヌシ、ソレヲ是非トモ帳簿ヲ備ヘサセルト云フコトハ、或ル商人ノ營業者ノ營業ノ内部ヲバ何カノ方法ニ依ツテ、利害關係ニ適當ノ方法ヲ以テ利用セシメルト云フコトガ、主眼デナケレバナラヌト思ヒマス、自

分一人デ帳簿ヲ作ツテ、自分一人デ帳簿ヲ見テ樂シデ居ルト云フダケデハ、何等ノ價值ヲナサナイデヤナイカと思ヒマス、ソレハ商取引ノ全體ノ仕事カラ見マシテモ、左様デアルト思フノデアリマス、ソレ故ニ五章ノ立前ハ、營業人ガ自分ノ商業帳簿ヲ作成スル目的ハ何處ニ在ルカト申シマスルト、之ヲ利害關係ニ利用セシムルト云フコトニ主眼ヲ置カナケレバナラヌノデアリマス、所ガ其利用セシムル點ニ於キマシテハ、先ノ各委員ノ御質問ニ依ツテ分ルヤウニ、極メテ不徹底デアル、裁判所ニ對シテ當事者ガ帳簿ノ提出ヲ求メマシテモ、實際ニ持ッテ居ラナイ、帳簿ヲ實際ニ準備シテ居ルナラバ、是ハ相手方ノ主張ヲ自白シタモノト見ラレルヤウナ訴訟ノ規定モアリマスカレドモ、何等實際準備ヲシテ居ナイ場合ハ、裁判所ハ其儘ニシテ置クノデアリマス、ソレデ此帳簿ヲ備ヘザルコトニ依ツテ制裁ヲ設ケル

ヤウニシナケレバ、此五章ノ規定ハ徹底シナイ譯デアリマスルガ、或ハ從來ノ經驗ニ依ツテ、今迄ノ事情ニ依ツテ、或ハ稅務署ナリ他ノ官廳ナリニ於テ、此商業帳簿ヲ作成スルコトニ依ツテ實益ガアルカ、裁判所以外ニ實益ガアルカト云フコトニ付テ政府委員ノ經驗ヲ承リタイト思フノデアリマス

○大森政府委員 御指摘ノ稅法ノ關係其他ノコトニ付キマシテ、商業帳簿ノ作成ト云フコトハ餘程役立ツテ居ルコトダラウト思フノデアリマス、唯其關係ヲ離レマシテ商業帳簿ノ問題ガ、會社ハ別デアリマスカレドモ、非常ニ重要ナ役目ヲ果シタト云フ場合ハ、裁判上ニハ今日左様ニナイヤウニ思フノデアリマス、併シ先程カラ段々御意見ガアリマシテ、御尤ダト存ズル點ガ大分アリマスカラ、非訟事件手續法及ビ牽聯法ノ改正ニ當リマシテ、此商業帳簿作成ヲ懈怠シマシタ場合ノ罪科ニ付キマシテ、篤ト考慮ヲ致シタイト存ズルノデアリマス

○野村委員長 サウ致シマスレバ第五章商業帳簿ニ關スル法規ノ御質問ハゴザイマセヌナ

〔進行ト呼フ者アリ〕

○野村委員長 ソレデハ第六章商業使用人ニ移リマス

○大森政府委員 第六章ニ付キマシテモ餘

リ重大ナ改正ハナイノデアリマス、順次改正ノ點ヲ申述ベテ參リマスルナラバ、第四十條デアリマス「支配人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス」斯様ニナツテ居リマス、是ト同趣旨ノ現行ノ規定ハ第三十一條デアリマスルガ、現行規定デハ御承知ノ通りニ「主人」トナツテ居リマス、主人ト云フ文句デモ決シテ惡イコトハアリマセヌケレドモ、ナンダカ如何ニモ隸屬關係が必要以上ニ強イヤウナ感じヲ與ヘマスルカラ、主人ト云フ文字ヲ除キマシテ、營業主ト云フ文字ヲ以テ之ニ代ヘタノデアリマス、即チ第四十條ノ改正ハ、ソレダケノ問題デアリマス、第四十一條ハ御承知ノ競争業ノ禁止ノ義務ニ關スル規定デアリマスルガ、第一項ニ於キマシテ其範圍ヲ擴張メタノデアリマス、即チ現行規定ニ依リマスルト「支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス」トナツテ居リマシタ、實ハ是ダケデハ足りナイノデアリマシテ、他ノ會社ノ無限責任社員トナルコトモ惡ケレバ、又他ノ會社ノ取締役トナルコトモ惡イシ、又他ノ商

人ノ使用人ニナルコトモ同様ニ惡イト存ズルノデアリマス、即チ現行規定ハ他ノ會社ノ取締役ニナルコトヲ禁ズル點、他ノ商人ノ使用人トナルコトヲ禁ズル點ニ於テ缺ケテ居ッタク存ズルノデアリマス、デアリマスカラ、ソレヲ補充致シマシテ、此點ダケノ改正デアリマス、第四十二條ハ全ク新設ノ規定デアリマス、「本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル使用人ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スルモノト看做ス但シ裁判上ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ」第二項ニ「前項ノ規定ハ相手方ガ惡意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ」是ガ新設ノ規定デアリマス、此點ニ付テ今日實際ニ於テ屢、生ジテ居リマスル弊害ハ御承知ノ通りデアリマシテ、支店ナゾニヨク起ル問題デアリマシタ、支店ナゾ云フ名前ヲ故意ニ避ケマシテ、支店ノ主任トカ、或ハ營業部長トカ、或ハ營業主任、兎ニ角吾々ノ常識上カラ判斷ヲ致シマシテ、其支店ヲ取リ仕切ルダケノ權限ガアルト見エル文字ヲ使ッテ居リナガラ、殊更ニ支配人ト云フ文字ヲ避ケテ居リマス、私共ハ固ヨリ法律ヲ多少伺ッテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ支配人ト稱ヘナイカラト云ッテ、警戒ヲシマスケレ

ドモ、一般人カラ申シマス、支配人ト云フ文字ヲ用ヒルモ、又支店主任、營業部長、是等ノ文字ヲ用ヒルモ、其間ニ大シテ酷イ差異ガアラウトハ思ハレナイノデアリマス、ソレガ爲ニ殊更ニ左様ノ文字ヲ用ヒテ責任ヲ回避スルト云フ場合ガ、屢、アルヤウニ存ズルノデアリマス、デアリマスカラ左様ナ文字ヲ使ッテ使用人ハ、是ハヤハリ本店又ハ支配人ト同一ノ權限アルモノト看做スト云フ擬制ノ規定ヲ設ケマシテ、第三者ノ權益ヲ保護シタ次第デアリマス、尤モ御承知ノ通りニ裁判上ノ代表權ニ付キマシテハ民事訴訟法規等ニ嚴格ナル規定ガアリマスカラ、是ハ裁判上ノ問題ニハ擴ゲナイデ、裁判外ダケノ問題ニ止メテ置イタ次第デアリマス、第二項ハ所謂緩和的規定デアリマシテ、是亦當然ノコトデアラウト存ズルノデアリマス、第四十四條、是モ現行法トハ違ッテ居ルノデアリマス、第一項ガ物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ使用人ハ其ノ店舗ニアル物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス、第四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス、御承知ノ通りニ現行規定デハ商業使用人ヲ三階段ニ分ケマシテ、支配人、是ガ一番強イ權限ヲ持ッテ居ル、其次ガ番頭手代、更ニ其次ガ

番頭手代ニアラザルソレ以下ノ者ト斯様ニシテ居リマス、併シ此區別ガ錯雜デアリマスルノミナラズ、必シモ實際ニ適應シテ居リマセヌ、譬ヘテ申シマスルト物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗、書籍店ノヤウナ所デ、其處ニ居リマスル店舗ノ使用人ハ、番頭、手代デアリマシテモ、番頭手代以下ノ者デアリマシテモ、其店ニ既ニ働イテ居リマサル以上、其店ノ品物ノ販賣ニ當ルダケノ權限ハアルモノト吾々ハ承知シテ宜カラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ其店ニ働イテ居ル者カラ品物ヲ買ッテ此賣買ハ、正當ノ賣買デアルト謂ッテ宜カラウト思フノデアリマス、デアリマスカラ其點ヲ明ニ致シマシテ、第一項ニ物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス、斯様ニ致シマシタ、併シ相手方ガ惡意デアリマスルナラバ、是ハ何モ左様ナ擬制ノ規定ヲ以テ相手方ヲ保護スル必要ハナイノデアリマスカラ、第二項ニ第四十二條第二項ヲ準用致シマシテ、其趣旨ヲ明ニ致シマシタ、本章ニ付テハ變更ノ點ハ其位デアリマス

○佐竹委員 商業使用人ノ名稱デアリマシタ、現在ノ狀態デ番頭、手代ナドト云フコトハ隨分古イ言葉ノヤウニ思ハレマスカ、此際單ナル使用人ト云フコトニ是ハ出來ナ



カッタ何カノ理由ガアルノデゴザイマスカ

○大森政府委員 率直ニ申シマス、此立

案ノ時ニ、番頭手代ト云フヤウナ文字ハ、只今御示シノ通り大變古臭イ文字デアリマス、必シモ吾々ニ好感ヲ與ヘナイ文字デアリマスカラ、之ヲ止メテシマハフヂヤナイカト云フ意見モアリマシタ、又使用人ト云フ包括的ノ名稱ニシヨウト云フ意見モアリマシタガ、使用人ト云フ文字ニ致シマス、使用人ノ中ニハ既ニ支配人ガアリマスカラ、支配人以外ノ使用人ト云フコトニシナケレバナラナイト云フヤウナ、錯雜ナコトガ起ツテ來タノデアリマス、サウシテ番頭手代ト云フ文字モ感心ハ致シマセスケレドモ、此番頭手代ト云フ文字ヲ使ツテ居ル條文其モノ、現行規定ヲ、總テ變更シタモノデハナイノデアリマス、言換ヘマスレバ先ヅ大體ニ於テ現行規定ヲ其儘踏襲シタモノデアリマスカラ、文字ノ點ハ致方ガナイモノトシテ、多少諦ラメト云フヤウナ意味デ、其儘存置シタヤウナ次第デアリマス、別ニ深い意味ハナカッタノデアリマス

○佐竹委員 第三十四條、今回ノ改正案デ

ハ四十四條ニナツテ居リマスガ、「支配人、番頭又ハ手代ニ非ザル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト

推定ス」此規定ガ今回ハ「物品ノ販賣ヲ目的

トスル店舗ノ使用人ハ其ノ店舗ニ在ル物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス」トナツテ居ル、前ノ規定ニ依リマス番頭手代ニ非ザル使用人、ト申シマス極メテ是ハ低い地位ニアル使用人デゴザイマシテ、殆ド是ハ規定ナクモ其店ノコトヲ預ツテ居ル者、店ノコトニ關スル法律行為ヲ爲シ得ナイモノト認メラレルヤウナ場合デアリマス、所ガ四十四條デハ店舗ノ使用人ト斯ウナツテ居リマシタノデ、此使用人中ニハ恐ラクハ支配人ヲ除キマス番頭手代全部ガ含ンデ居ルモノト解釋サレマス、サウ致シマス此番頭手代、前ノ規定デモ相當ノ權限ヲ有シテ居リマシタ此番頭手代ガ、物品販賣ニ關シテノミ或ル程度ノ權利ヲ持ツテ居リマシテ、其以外ノモノ——例ヘバ商法第二百六十四條ニ規定シテ居リマス商行爲中デモ、例ヘバ電氣ノ供給ニ關スルモノデ、ドウゾ電氣ヲ付ケテ下サイト云フ、或ハ物品ヲ持ツテ參リマシテ、ドウゾ此品物ヲ運送シテ下サイト云フ、或ハ葉書ヲ持ツテ來マシテ、ドウゾ印刷シテ下サイト云フ頼ミ、或ハ旅館ニ參リマシテ、ドウゾ泊メテ下サイト云フ、或ハ十圓札ヲ澤山持ツテ來テ兩替ヲシテ呉レト云フ、或ハ保險、或ハ

寄託ノ引受、等商行爲ニハ澤山アリマス、

サウ云ツタ場合ニ番頭手代ヲ相手ニ致シマシテ、一ツノ法律行為ヲ主體ト致シマス其時ニ、番頭手代ハ一向サウ云フ場合ニハ權限ガナイモノデアルト云フ風ニ解釋サレマシテ、悉ク主人又ハ支配人ニ會ハナクテハ取引ガ出來ナイト云ツタヤウナ危險ヲ感ズルヤウナ氣持ガ致シマス、サウ云フ虞ハナイデゴザイマセウカ

○大森政府委員 番頭、手代ニ付キマシテ

ハ、此ノ法案ノ第四十三條ニ規定ガアルノデアリマスガ、是ガ即チ現行規定ノ第三十三條ニ類スルモノデアリマスガ、即チ本案ニ依リマス「番頭、手代其ノ他營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス」斯ウ云フ工合ニナツテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ番頭、手代ヲ相手ニ致シマス場合ニ付テハ、決シテ只今ノヤウナ御心配ハ起ラナイカト承知ラスルノデアリマス、即チ第四十三條ノ規定ニ依リマス、一切ノ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ガ法律上認メラレテ居ルノデアリマス、隨テ第四十四條ノ物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ使用人ニ付テノ規定ハ、番頭、手代以下ノ者ニ付テ起ル問題デアリ

マシテ、詰リ店デ働イテ居ル丁稚、小僧、是

ガ物品販賣店ニ働イテ居リマス限りハ、物品販賣ニ付テノ權限ヲ持ツテ居ルモノト見ル、是ガ今日ノ實際上ノ見地ニ即應スルモノト考ヘテ、即チ本案ハ現行法ノ第三十四條ニ對スル變更規定トシテ第四十四條ヲ置イタ次第デアリマス

○佐竹委員 丁稚小僧ノ場合ノ規定ダト仰

シヤラレマスガ、サウ致シマス特ニ物品販賣ノ場合ニ限ル理由ト云フモノガドウモ解シ得ラレナイノデアリマス、先程舉ゲマシタヤウナ物品販賣以外ノ事項デゴザイマシテモ、例ヘバ丁稚、小僧ガ居リマシテ、印刷物ヲ持ツテ參リマシテ、印刷ヲシテ下サイ、ハイ宜シウゴザイマス、店デ其仕事ノ爲ニ使ハレテ居ル人ガ出デ參ツテ居リマスナラバ、其處ノ物品ヲ販賣スル權利ガアル程デゴザイマスナラバ、物品販賣ヲスルコトガ出來ルノニ、一寸葉書ヲ印刷シテ下サイ、ハイ宜シウゴザイマス云フコトガ出來ナイト云ツタ工合ニ區別スル理由ガ私ニハ解セナイノデアリマス、區別スル何か特別ノ理由ガ其處ニハアルノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 現行法ノ下ニ於キマシテ

ハ、御承知ノ通り物品販賣ニ付テスラ何等

ノ權限ガ認メラレテ居ナカッタノデアリマス、即チ番頭手代ヨリ下ノ使用人ニ付テハ、全ク何等代理的權限ガ認メラレテ居ナカッタノデアリマス、此案デハソレデハ不十分デアルト致シマシテ、少クトモ物品販賣ニ付テハ、只今申シマスルヤウナ第四十四條ノ規定ヲ必要トスルモノトシテ之ヲ設ケタ次第デアリマス、然ラバ物品販賣ト其以外トノ間ニ何故ニ斯様ナ區別ヲ付ケタカト云フコトニナリマス、御承知ノ通り、此點ニ付テ考ヘマスト、物品販賣ガ最モ其場合ガ多イノデアリマス、其最モ多イ事例ニ付キマシテ、適當ナル規定ヲ設ケルト云フコトガ、蓋シ相當デハナイカト思フタノデアリマス、然ラバ之ヲ總テ物品販賣以外ノ一切ノ商行為ニ及ボシテハドウカト云フコトニモナリマセウケレドモ、ソレハ稍、廣キニ過ギハシナイカ、斯様ニ存ズルノデアリマス、之ヲ要スルニ現行規定ニ於ケルヨリハ良クナッタト云フ程度ニ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○野村委員長 第六章商業使用人、此章ニ對シマシテ他ニ御質疑ハアリマセスカ——ソレデハ第七章代理商ニ移リマス

○大森政府委員 第七章ニ付キマシテモ、左程注目スベキ改正ハナイノデアリマス、

寧ロ此章ニ付キマシテハ、殆ド文字ノ改正以外ニナイト申シテモ宜シイノデアリマス、先ヅ第四十六條デアリマスガ「代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ平常其ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ノ代理」云々ト斯ウナッテ居リマス、是ハ現行規定ノ第三十六條ニ「商行爲ノ代理」トナッテ居リマシタノヲ「取引ノ代理」ト改メタノデアリマス、即チ「商行爲ノ代理」ト云フノデハ狹キニ失シマスルカラ、「取引ノ代理」ト云フコトニ擴張シタニ過ギナイノデアリマス、ソレカラ第四十八條デアリマスガ、是ハヤハリ競争業禁止ノ規定デアリマシテ、先程第四十四條ニ付テ申述ベマシタト同趣旨デ、會社ノ取締役ニナルコトヲモ禁止スルト云フ一點ヲ加ヘタ外ニハ何等改正ハナイノデアリマス、ソレカラ第四十九條デアリマス、是モ文字ノ改正ノ程度ニ過ギナイノデアリマス、現行法ノ第三十九條ニハ「物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ」云々トナッテ居リマシテ、ソレヲ稍、擴メマシテ「物品ノ販賣又ハ其ノ媒介ノ委託ヲ受ケタル、代理商ハ」ト云フコトニ致シマシタ、詰リ物品販賣ノ外ニ媒介ト云フコトヲ一ツ入レタニ過ギナイノデアリマス、ソレカラ第五十一條デアリマスルガ、是ハ寧ロ現行規定ヲ狹クシタノデアリマ

ス、現行規定ガ甚ダ茫漠デアッタノヲ明確ニシタニ過ギナイノデアリマス、即チ現行規定デ申シマスレバ、第四十一條デアリマス、留置權ノ問題デアリマシテ「代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ニ付キ」ト甚ダ廣ク留置權ノ原因ヲ舉ゲテ居リマス、之ヲ限定致シマシテ、本案ニ於キマシテハ「代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ」云々トアリマシテ留置權行使ノ要件トシテ債權辨濟期ニアルコトヲ必要ト致シマシタ、是ハ後ニ商行爲ノ規定ニアリマスル留置權ノ規定ニ對應スルモノデアリマス、現行規定ガ廣キニ失シテ居リマシタノデ、適正ノ範圍ニ抑制シタト云フニ過ギナイノデアリマス

○野村委員長 此章ニ對シテ御質問ガナケレバ、ドウデセウカ、是デ第一編ガ終ルノデ、是カラ第二編會社ニナルノデスガ、今日ハ此程度デ散會致シタラ如何デアリマセウカ

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○野村委員長 サウ致シマスト、明日ハ午前中シカ部屋ノ都合デ出來マセスカラ、明日ハ午前十時ヨリ午前中ダケ開會致シマス、ソレデハ今日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時五十分散會

昭和十三年三月十日印刷

昭和十三年三月十一日發行

衆議院事務局

印刷者 內閣印刷局